

第四三號

二十三日當地民國日報ノ「關稅引下ニ反對ス」ナル社論要旨御參考迄左ノ通り

日本商品ハ世界各國ノ關稅障壁ニ阻マレ其ノ捌口ヲ支那ニ求メ居ル爲日本ハ支那ノ關稅引下ニ對シ重大ナル關心ヲ有シ居リ二年來ノ大規模ナル密輸ノ如キモ右目的ニ關聯シ居ルヤノ疑惑ヲ懷カシムルモノアリ今次經濟視察團渡支後日支双方意見交換ノ際ニ於テモ日本側ハ自然ト本問題ニ言及

セルカ吾人ハ關稅引下ハ支那ノ商工業ノ發達ヲ阻害シ財政收入ニ影響ヲ與フヘキヲ以テ右ハ不可能ナリト斷定スルモノナリ我商工業ノ繁榮ト財政ノ充實トハ日本ト何等利害衝突スルモノニアラス却テ兩國經濟合作ノ基礎ヲ鞏固ニスルモノナレハ若シ日本カ支那ト合作ノ誠意ヲ持タハ率先シテ支那ノ權益ヲ顧慮スヘキコトヲ希望スル次第ナリ云々
支、上海大使、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ
~~~~~

3 日中經濟提携問題

227 昭和11年1月17日 在天津川越總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

長蘆塩の対日輸出に関する宋哲元との交渉状況および具体的措置案について

天津 1月17日夜発  
本省 1月17日夜着

第一五號

貴電第四號ニ關シ

一、長蘆鹽ハ當方ノ奔走ニ依リ客年九月青島鹽並ノ税金ニテ輸出シ得ル様取運ヒ居リタルモ當時軍トノ話合ニ基キ時局一應ノ安定ヲ見ル迄停出セシ次第ナル處過般車ヨリ中日實業ノ宋哲元ニ對スル交渉ニ依リ青島並ノ税金ニテ輸出シ得ル様ナリタルニ付不取敢現在ノ貯鹽七十三萬噸中支那消費引當四十萬噸ヲ差引キ三十三萬噸ヲ限り輸出ヲ許スコトトセハ如何トノ相談アリ當方ハ豫テ三菱及岩井商店(大日本曹達工業)等實需者ヨリ依頼ノ次第モ有之、之ニ同意シ置キタルカ軍ハ右ニ基キ貴電第五號(後段ハ

當時相談無シ)ノ趣旨ニテ中央ヘ請訓セル趣ナリ

二、本件ハ軍カ中央ノ同意ヲ得レハ之カ處辦ハ當方ニテ取計フコトニ關係者ト當方係官トノ間ニ話合濟ナルカ其ノ賣捌方法ニ付テハ未タ具體案ヲ得サルモ製鹽業者、鹽商、購入者(實需者及仲買者)ノ立場及都合、其ノ他鹽務機關ノ干與ノ範圍、購入者多數ノ場合ニ於ケル港迄ノ搬運及配船關係等各般ノ點ニ亘リ充分考量ノ上最實際的ニシテ公平ナル方法ヲ攻究シツツアル次第ナリ

三、競賣ハ貴見ノ通り面白カラス本邦實需者間ニ一ノ組合ヲ作ラセルコト適當ナルヘシ(中日ヘハ此ノ組合ヨリ然ルヘク挨拶セシムル位ニテ宜シカラシカ)尙鹽ハ現ニ多數ノ製鹽業者及鹽商ノ手ニアリ從テ先ツ之ヲ適當ノ方法ニテ取纏メシムルノ要アリ何分ニモ輸出ハ初メテノコトニモアリ其ノ邊仲々面倒ナル問題アリタル譯ナリ

四、鹽運使ハ十七日宋派ノ戈定遠任命サレ居レルヲ以テ問題ナク旁稅關方面モ格別「トラブル」ヲ起ササルヘシト存セラル

五、滿洲側ノ參加ハ本件貯鹽處分ニハ關係ナク四月以降ノ新鹽即チ冀察政權將來ノ鹽務計畫(內需外需ニ亘ル)ニ關ス

ルモノナルカ軍トシテモ滿洲側ノ事業參加ハ好マサル所ナルモ滿洲鹽業會社(成立ノ有無、成立ノ場合ハ組織事業概況等關係省ニ御確メノ上回報請フ)ノ關係モアリ全然廢給スル譯ニモ行カサルヘシト考ヘ居ルカ如クナル處當方トシテハ滿洲鹽業ノ事業參加(滿洲側ハ滿洲鹽業ノ爲長蘆鹽ヲモ「コントロール」シ度キ底意ヲ有スル模様ナリ)ハ結局長蘆鹽ノ原價高ヲ招來スヘク青島及滿洲鹽等トノ關係ヨリ見ルモ甚タ面白カラスト考ヘ居レリ旁已ムヲ得サレハ輸出量額協定位ノ範圍ニテ滿洲側ト聯絡スルコトトシテハ如何カト思考シ居ル次第ナリ  
現在ノ所事情大體右ノ通ナリ軍中央ヘハ本件許可訓令方然ルヘク御話合請フ(軍ト話濟)

228

昭和11年1月22日

桑島(主計)東亞局長より  
高須(四郎)軍令部第三部長宛

滿鉄技師による安溪鉞山の第二回実地調査出發について

付記一 昭和十年五月十日付在厦門塚本(毅)領事より

広田外務大臣宛公信機密第一九六号

中川喜久松外技術員四名(内一名ハ二十日歸滬セリ)ハ省政府側ヨリ派遣セラレタル技師李岐山ト共ニ客年十二月十七日福州ヨリ當地ヘ先着シタル處同廿二日殘餘ノ技術員十五名(内一名ハ滿洲國人)モ上海ヨリ到着シ之ト相前後シテ省政府建設廳安溪探鑛工程處主任趙修晋モ來厦玆ニ一同勢揃ヲ爲シ直ニ出發準備ニ取掛リタルカ一行ノ護衛ニ關スル奧地軍警當局トノ連絡等ニ手間取リタル爲年内出發ノ豫定ヲ變更シ水理班三名ハ一月三日他ノ各班(鑛山班、鐵道班、鑛區測量班及港灣班)十三名(三名病氣ノ爲メ現在尙當地ニ殘留中)ハ同七日當地發夫々調査ノ途ニ就ケリ  
本件ニ關シ當地方一部排日分子中ニハ滿鐵技術員ノ僱聘ヲ目シテ日本ノ對南支侵略工作ノ第一歩ナリトシ之ニ對シ反對ノ氣勢ヲ擧ケントシ居ルヤノ聞込アリ又當地各國領事モ多大ノ關心ヲ以テ一行ノ動靜ヲ注視シ居ル模様ナルカ各漢字紙ノ報道振ハ極メテ穩健ニシテ單ニ一行ノ行動竝ニ趙主任ノ會見談等ヲ簡單ニ報シ居ル程度ニテ未タ本件ニ關スル論評等ヲ掲載シタルモノナシ  
尙此ノ機會ヲ利用シ當館警察官二名ヲ一行ト同道出張セシメタルカ同官等ハ約二週間ニ亘リ一行ト行動ヲ共ニシ通過

第一回安溪鉞山実地調査につき報告

二 昭和十年八月十四日着在福州中村総領事より

広田外務大臣宛電報第七二号

第二回安溪鉞山実地調査実施につき留意点具

申

亞一機密合第二五一號

昭和十一年一月二十二日

外務省東亞局長 桑島 主計(印)

軍令部第三部長 高須 四郎殿

安溪探鑛團出發ニ關スル件

本件ニ關シ御參考迄ニ別紙送付ス

(別紙)

昭和十一年一月九日

在厦門

領事 山田 芳太郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

安溪探鑛團出發ニ關スル件

福建省政府ノ僱聘ニ係ル安溪探鑛團一行中滿鐵福州駐在員

各地ヲ視察ノ上中川ト共ニ一行ニ先立チ歸厦ノ豫定ナリ  
右不取敢報告申進ス

(付記二)

機密第一九六號

(昭和十年5月22日接受)

昭和十年五月十日

在厦門

領事 塚本 毅(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

安溪鑛山調査ニ關スル件

本年四月始メ滿鐵鑛山技師(上海自然科學研究所員ト稱ス)三名來厦シ省政府諒解ノ許ニ安溪鑛山ノ實地踏査ヲナス手筈ナリシコトハ當時在福州宇佐美總領事ヨリノ本官宛電報ニテ御承知ノ通ナルカ治安ノ點ヨリシテ不安ヲ感シ遂ニ實行ニ入ラス四月五日發上海ヘ引返セリ其ノ後上海ニ於テ海軍武官滿鐵出張所長林知淵及宇佐美總領事ト本官會食シ實地踏査ニ關スル支那側ノ保護等ヲ確メ更ニ同技師一行及滿鐵社員小川愛次郎福州ヲ經テ省政府ト打合セテ遂ケタル後再ヒ來厦スル手筈トナレリ而シテ同一行ハ四月二十五日當

地着省政府派遣ノ技師數名並ニ徐瑞麟高義等ト共ニ二十八日安溪ニ向ヘリ

五月八日小川歸來シ報告スル處ニ依レハ同地方治安ハ極メテ危險ナルモ支那側ノ保護完全ナリシ爲メ豫定通ノ調査ヲ完了シ技師一行ハ更ニ漳州附近ノ鑛山調査ニ向ヘリ安溪一帶ノ鑛山ハ話ニ傳ヘラルルカ如ク豐富ニ非サルモ珍池一千万噸(品質六〇見當)潘田五千万噸(品質六〇以上)ノ鐵鑛ヲ有シ一年ノ採鑛量百万噸ト見テ計劃ヲ行ヘハ鐵道ヲ敷設スルモ採算可能ノ見込ナル由ナリ尙金、鉛、マンガン、石炭等ハ貧弱ニシテ何等ノ見込ナシトノコトナリ

右滿鐵ヨリ正式報告ヲ發表スルニハ猶數ヶ月ノ時間ヲ要スルモ大体ノ見當右ノ如クナルニ付滿鐵トシテハ何等カノ方法ニ依リ右開發ニ乗出ス積リナルカ本件ハ從來海軍(殊ニ須賀大佐)ノ示唆ニ基クモノニシテ海軍ト關係アル華僑ト合作スル立前ナルカ海軍ノ簡單ナル頭ニテハ聊カ不安アルニ付今後實行ニ入ルニ就テハ領事館ノ援助ヲ講ハサル可ラサルニ付何分ノ指導ヲ頼ム旨申出タリ

案スルニ鑛山開發ノ如キ事業ハ容易ニ外資ヲ入レサル支那ノ現状ニ於テ滿鐵カ當地方ニ手ヲ延シ得ルヤ否ヤ全ク疑問

## 第七二號

陳儀ハ二日日本官ニ對シ安溪鐵山ハ日支提携ノ上開發スルコト極メテ望マシキコトヲ信シ居ルモ本問題ハ福建限リ處理シ得ス中央ノ許可ヲ要スル次第ナルニ付モ少シ機運ノ熟スルヲ待タレ度其ノ間充分ナル基礎的調査ヲ遂ケ度自分ハ既ニ反對ヲ押切り調査隊ヲ出シタル程ナルヲ以テ必ス實行スヘシト語リタルコトアル處鑛石分析ノ結果カ頗ル良好ナルニ力ヲ得タルモノノ如ク十三日來駐ノ滿鐵側囑託ト陳大齊、李擇一同席ノ上ニテ協議シ本官發有吉大使宛電報第二七號ノ通り更ニ第二回ノ企業的調査隊ヲ派遣スルコトニ決定セリ

右ハ事業ノ進展上極メテ望マシキ現象ナルモ南支方面ノ問題ニ關シ滿鐵カ表面ニ立ツコトハ同社ノ名カ支那ニ可ナリノ脅威ヲ懷カシメ居ルニ鑑ミ或ハ陳儀反對派ノ利用スル所トナラサルカヲ惧ルルヲ以テ事業調査中ハ依然自然科學研究所ノ名目ヲ以テ調査隊ニハ成ルヘク滿鐵以外ノ權威者ヲモ參加セシメ愈事業ニ着手スルコトトナラハ貴電合第五六八號ノ通り新設興中公司ヲシテ當ラシムルコト最良ナリト思考スルニ付早キニ臨ンテ適當御指導方御配慮相煩度シ

## 二 日中諸案件交渉

ナルモ滿鐵ト華僑ト手ヲ握ラシメ華僑ノ名ニ於テ事業ヲ行ヒ滿鐵ハ裏ニ在リテ實權ヲ握ル方法モアラハ實現ノ可能性ナキニ非ス然ルニ海軍ト接近シ居ル華僑ハ有力分子ト見ルヲ得ス又小部分ノ者ニ過キス依テ華僑有力分子ヲ抱キ込ミ又成ル可ク全般のニ擴クル必要アルヘク差シ當リ此ノ點ニ滿鐵ノ努力ヲ要スルモノナルカ滿鐵ニ於テハ當地ニ駐在員ヲ派遣シ之ヲ進行セシムル筈ナリ尙石本總務部長モ最近來厦視察スル由ナリ

成行ニ就テハ其都度報告スヘキモ官廳方面トノ折衝ハ主トシテ福州ニ於テ行ハルヘキヲ以テ新任中村總領事ヘ右御傳ヘ置キ相成度又反對宣傳恐レラルルニ付極秘扱ヒトシ海軍ヨリ情報ヲ求メラルルハ差支ヘナカルヘキモ本官情報ハ外部ヘハ絶對ニ洩レサル様御願致度シ

本信寫送附先

在滿大使 在華公使

## (付記二)

福州 發  
本省 昭和10年8月14日 前着

本電須賀海軍武官モ同意見ナリ

支ヘ轉電シ支ヨリ南京ヘ轉報セシメタリ

厦門ヘ暗送セリ

229 昭和11年1月27日 在天津川越總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

## 東洋紡の天津工場建設計画について

天津 1月27日夜発  
本省 1月27日夜着

## 第二一號

豫テ當地ニ於テ工場敷地物色中ナリシ東洋紡績ハ當方ノ幹旋ニ依リ今般舊白耳義租界ニ於ケル白耳義土地會社(Societe Immobile de Tientsin S.A.)ノ所有地約四萬六千坪ノ買収ヲ完了シ今春起工約紡機五萬錘、織機一千臺、發電所一千「キロ」程度ノ工場ヲ建設シ上海裕。紡績ノ名義ニテ經營スルコトトナレルカ邦人委任經營ノ裕。大以外何レモ經營困難ニ陥リ居レル當地紡績界トシテハ茲ニ一新時代ヲ劃スル次第ニテ鐘紡ノ進出警戒説ト共ニ一般財界ノ注目ヲ惹キ居レリ尙裕豐トシテハ當地現存支那紡ノ更生復活等ニ關

シテモ日支提携ノ見地ヨリ關係當業者ト接觸シ居レリ  
因ニ現在當地紡績中全運轉中ノモノハ邦人ニ經營ヲ委任シ  
相當成績ヲ擧ケ居レル裕大(四萬鍾)及北洋(二萬六千鍾)華  
新(二萬五千鍾)ノ三社ニテ客年九月頃百六十萬元ノ融資成  
立シ機械ノ一部改新ヲ爲シ同年十一月以降一部運轉ヲ爲シ  
居レル恒源(三萬五千鍾、織機三百十臺)本年三月ヨリ全運  
轉ノ豫定  
寶成(二萬五千鍾)裕元(紡機七萬鍾、織機一千臺)ハ今尙休  
業中ナリ  
支、北平、南京、青島、濟南ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海及上海商務官ヘ轉報アリタシ

230 昭和11年1月27日 在中国有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中日貿易協会の成立および理事の顔ぶれにつ  
き報告

上海 1月27日夜発  
本省 1月27日夜着

第五二號

ハ燐寸統制ニ關シ日本トノ間ニ話合成立ノ運トナレル趣ニ  
モアリ早速統制ニ取掛リタリ又此ノ次ハ紡績ニ付是非共日  
支當業者間ノ協議ヲ進メ燐寸ト同様ノ仕組トシ度キ積リナ  
リト語レルニ付本官ヨリ右支那側當業者ノ報告ハ更ニ吟味  
ノ要アルヘク殊ニ紡績ノ方ハ爾ク簡單ニ行クモノニアラス  
兎モ角統制ナルモノハ不自然トモ見ラルル方法ナルニ付實  
行ヲ急カレサル様致度シト申入レ置キタリ  
支、北平、天津、青島、濟南ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海商務官ヘ轉報アリタシ

232 昭和11年2月6日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

マッチの国内生産統制協定成立に關し治外法  
権の一部放棄や停止を承認するものではない  
旨孔祥熙らに注意喚起について

南京 2月6日後発  
本省 2月6日夜着

第九二號

往電第六四號ニ關シ

往電第二三號ニ關シ(中日貿易協會成立ノ件)  
二十七日發起人會ヲ開キ理事二十五名ヲ決定セルカ二月一  
日第一回理事會ヲ開キ會長、副會長、常任理事ヲ決定スル  
筈ノ由理事ノ顔觸左ノ通  
訪日視察團員中吳鼎昌ヲ除ク全員十四名ノ外虞洽卿、杜月  
笙、林康侯、李銘、吳震脩、吳濫齊、榮宗敬以上支那人二  
十一名、日本側米里、友部、吉田、船津  
北平、南京、天津、廣東ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

231 昭和11年1月27日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国国内でのマッチの生産統制に關する日中  
當業者間協定成立に引き続き紡績業に關して  
も同様協定設定方吳鼎昌提議について

南京 1月27日夜発  
本省 1月27日夜着

第六四號

客年往電第五〇一號ニ關シ

二十七日吳鼎昌ハ本官ニ對シ上海當業者ヨリノ報告ニ依レ

六日陳介及孔祥熙ニ對シ當業者間ノ話合成立セル趣ナルカ  
當分右協定ニ依リ統制ヲ行ハルコトハ已ムヲ得サルヘキ  
モ日本政府トシテハ右ニ依リ治外法權ノ一部拋棄又ハ停止  
ヲ承認スルモノニアラサル點ヲ特ニ注意シ置キタル處何レ  
モ之ヲ了承シ居タルカ孔ハ本件統制ニ付テハ近ク財政部ニ  
於テ認可ノ上之ヲ行政院ニ廻付シ(或ハ此ノ手續ヲ省クヤ  
モ知レス)今月末迄ニハ統制ヲ開始シ度キ積リナリト述ヘ  
更ニ之ヲ切懸ケニ豫テノ方法ニ依リ砂糖ノ統制モ實現セシ  
メ度シト申出テタルニ付本官ヨリ元來統制ニ付テハ對象ノ  
何タルヲ問ハス日本トシテハ條約上ノ建前モアリ反對ナル  
カ特ニ砂糖ハ本官歸朝中得タル印象ニ依ルモ當業者ト雖全  
然反對ナル趣ヲ告ケ置キタリ  
支、北平、天津、青島、濟南ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海、上海商務官ヘ轉報アリタシ

233 昭和11年2月7日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

紡績業に關する国内生産統制の協議には日本  
側は応じがたい旨吳鼎昌ヘ回答について

南京 2月7日夜発  
本省 2月7日夜着

第一〇二號

往電第九二號ニ關シ

七日吳鼎昌ニモ同様申入レタル處本件統制ハ三年位ノ期限ヲ限り試験的ニ實行ノ筈ナルモ例ヘハ日本側ニ於テ工場ノ制限ヲ續ケラレサルカ如キコトモナラハ又考ヘ直ス手筈ナリ一方紡績ニ付テハ生産種類及數量等ニ付同様ノ統制ヲ試ミ度キモ是亦先ツ當業者間ニ話ヲ進ムルコト適切ト認メ陳公甫ヨリ船津ニ相談方手配シ居リ場合ニ依リテハ日華貿易協會モ手傳ハセ度シト述ヘタルニ付本官ヨリ燐寸統制モ日本政府トシテハ贊成ニアラス況ヤ紡績ノ如ク日支當業者間ノ關係淺カラサルモノニ迄之ヲ及ホサントスルハ當業者間ノ話合ハ兎モ角政府トシテハ全ク面白カラスト思考スル旨ヲ答ヘ置キタリ

尙最後ニ日本ニ於テモ此ノ種ノ話ヲ進ムル爲實業部ヨリ近ク商務官ヲ駐日大使館ニ送り度キ意嚮ナルト共ニ日華貿易協會モ漸次各部門ノ兩國實業家ヲ含ム「シンジケート」ヲ創設シ兩國經濟提携ノ端緒ヲ開カシメ度キ考ナリト述ヘ居

タリ

支、北平、天津、青島、濟南ヘ轉電セリ

支ヨリ上海商務官ヘ轉報アリタシ

234 昭和11年2月12日

在福州中村総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

滿州産豆粕購入のため日本側資本家よりのクレジット提供方陳儀福建省主席から要請について

福州 發  
本省 2月12日夜着

第一八號

八日陳儀ハ本官ニ對シ福建省政府ニ於テハ一昨年末農村合作社(農民ノ共同組合)ヲ組織シ政府指導ノ下ニ農事ノ改良ヲ實施シツツアルカ昨年ハ短期ノ信用ニテ多少ノ滿洲豆粕ヲ購入シ之ヲ農民ニ貸與シ收穫率ヲ増加シ債務モ完済シ頗ル好成績ヲ擧ゲ得タルニ鑑ミ本年ハ稍規模ヲ擴張シ豆粕十五、六萬枚ヲ三月中旬迄ニ省政府又ハ農村合作社ニテ購入シ度キ處省立銀行ニ於テ支拂ヲ保障スヘキニ付一期作(當地ハ二回作ナリ)ノ終ル迄約六箇月ノ後拂ノ便宜ヲ供與セ

ラルル様日本資本家ニ斡旋アリ度キ旨懇談アリタリ

右ハ今後ノ豆粕ノ販路擴張ニ資スル所大ナルモノアリト認メラルルニ付不取敢當地ニ於テ從來滿洲豆粕ヲ取扱ヒ居ル三井、三菱系ノ代理店ニ好意的盡力方依頼シ置キタリ右御含迄

滿ヨリ滿鐵ニ通報アリタシ

(滿?)支、南京、上海ヘ轉電シ臺灣總督ヘ暗送セリ

235 昭和11年2月13日

在中国若杉臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省政府の滿州産豆粕購入に関するクレジット提供を滿鉄側応諾について

上海 2月13日夜発  
本省 2月13日夜着

第一一號

本官發福州宛電報

第一號

大臣宛貴電第一八號ニ關シ

數日前貴地海軍武官ヨリ當地武官ニ福建省側ニテ豆粕八千

噸又ハ其ノ代金(約三十萬圓)舊曆二月一杯ニ借入方希望ヲ

申出テ居ル旨電報アリ當地武官ハ安溪鐵礦補助ノ關係モアリ右希望達成方滯滬中ノ滿鐵石本理事ニ話シ石本ヨリ大連本社ニ電報セルニ本社ヨリ現物八千噸ニテモ代金三十萬圓ニテモ差支ナク金利年六分、期限六箇月トシテ何等力擔保ヲ附シ(武官ノ意見ニテ石本ヨリ無擔保トシ度キ旨電報セルモ本社ヨリ擔保附ヲ希望スルモノノ如シ)且當事者ハ興中公司トシ度キ旨及現物代金孰レヲ希望スルカ確メラレ度キ旨回電アリ武官ノ意見モアリ興中公司ニテハ差當り間ニ合ハサル俱アリトテ石本ヨリ滿鐵自身當事者トナルコトトシ度キ旨電報シ回電ヲ待チ居ル趣ナリ爲念

尙武官及石本ニ貴電ノ次第ヲ話シ置キタルカ石本ハ三井、三菱カ乗出スナラハ夫レニテモ結構ナリト申シ居レリ大臣、滿、南京、臺灣外事課長ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

236 昭和11年2月15日

在福州中村総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

台灣よりの農業技術者招聘に関する陳儀の意向について

福州 2月15日後発  
本省 2月15日夜着

第二三號

陳儀カ林熊祥ニ内話スル所ニ依レハ陳ハ臺灣旅行ニ依リテ福建省ノ開發ニハ農事改良ヲ第一ト爲ササルヘカヲサルコトヲ痛感セルヲ以テ來年度(七月開始)ニハ是非工面シテ臺灣方面ヨリ優秀ナル農事改良技師數名ヲ招聘シ度ク財源捻出ノ上ハ本官ヲ通シ正式ニ申出ツヘキ意嚮ナル趣ナリ  
(臺灣ヨリ馬公、臺軍部へ要領「パラ」ノ上轉報アリタシ)  
支、南京、厦門へ轉電シ臺灣總督へ暗送セリ

237 昭和11年2月17日 在福州中村総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

満州産豆粕購入問題に関する陳儀との交渉について

福州 2月17日後発  
本省 2月17日夜着

第二四號

本官發支宛電報

第二號

本官發大臣宛電報第一八號及貴電第一號ニ關シ

陳儀ノ申出ニ對シテハ各方面ニ付可能性ヲ打診シ菅武官ハ上海方面ニ盡力シ居ラルル處三井、三菱ノ各代理店ハ毎年相當量ノ豆粕輸入ヲ爲シツツアルヲ以テ省政府ノ申入ニ對シテモ第一ニ彼等ニ考慮ノ機會ヲ與ヘサレハ本年度ノ仕入品ノ賣行ニ影響ヲ及ホシ價格暴落ノ危險アルヲ以テ本官ヨリ内話シ又大門内(三菱ノ代理店)ノ爲ニモ居留民援助ノ意味ニテ臺銀方面ニ金融方助力中ナリシ處ニ商店ニテ豆粕ノ需給狀態調査ノ結果本年度第一回作ノ需要品ハ前記二店ノ外支那商ノ(手?) (主トシテ上海物)ニテ大部分手當濟ナル由ニテ新タニ陳儀希望ノ十五萬枚ヲ入ルルコトハ市場暴落ノ惧アル外仕入品ヲ之ニ振替フルモ商人トシテハ仕入品ニハ現金取引可能ナルニ反シ陳儀希望ノ六箇月ノ信用供給ニハ擔保不確實ノ嫌アリ旁十五日普通ノ商取引トシテハ引受ヲ躊躇スル旨申出テタリ  
依テ右ノ事情ヲ陳儀ニ話シタル處省政府トシテハ窮民救濟ノ必要アルニ付仕入品ヲ考慮シタル上差當リ五萬枚位ニ減少シ弗建ニテ年六分利附六箇月(收穫時期遅延ノ場合ニハ

二 日中諸案件交渉

利息附ニテ二箇月位ハ更新ヲ認メラレ度シ)ノ信用貸ヲ福建省立銀行ノ支拂擔保ニテ貸與セラレンコトニ計畫ヲ縮少シ來リタリ

支發本官宛電報第一號菅武官ノ下交渉ニ依リ滿鐵側ハ省立銀行ノ擔保以外ニ擔保ヲ要求シ居ル趣ナルニ付本官ヨリ當地在住臺灣人富豪林熊祥ニ相談シタル處林ハ陳儀ノ窮民救濟ハ時局ニ鑑ミ頗ル善政ニシテ又滿鐵力之ニ參加スルコトハ日支親善増進ニ資スル所アリトシテ進ンテ十萬元ノ保證人タランコトヲ承諾シタリ林ハ松岡總裁モ知合ニシテ數百萬圓ノ資産家ナルニ付萬一ノ場合ニモ充分義務ヲ果シ得ル財力アリ且本官ノ觀測ニ依レハ總額モ僅ニ十萬元程度ニ減シ來リ當地地方ノ農民ノ肥料代金ニ對スル義務觀念ハ相當信用スヘキモノアルヲ以テ昨年度ノ例ニ徴スルモ危險ナカルヘク萬一洪水等ノ爲ニ農民ヨリ半額ヨリ支拂ヒ得サルカ如キ極惡ノ場合アリトスルモ福建省及福建省立銀行(六十萬元ノ資本ニテ百萬圓ノ小額紙幣ヲ發行シ福建省金庫ヲ經營ス)ニテ殘額五萬元ノ支拂ヲ負擔シ得サルコトナカルヘシト思考スルニ付右ニテ滿鐵側ノ承諾ヲ取付クル様御配慮アリ度シ

238 昭和11年2月19日 在福州中村総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省政府の満州産豆粕購入に関するクレジット契約の内容について

第二六號

本官發上海宛電報

第四號

貴電第四號ニ關シ

本十九日陳儀ヲ往訪御來示ノ趣ヲ傳ヘタル處頗ル感謝シ早速主任官ヲ本官ノ許ニ派シテ大体左記ノ下打合ヲ爲シ契約

書ハ目下厦門へ出張中ノ中川ヲ二十三日常地ニ呼寄せ調印  
セシメ本官ハ之ヲ檢證スルコト適當ナリト思考スルニ付滿  
鐵側ト御打合ノ上何分ノ儀御回電ヲ請フ  
ハ數量ハ五萬枚トス

ニ三月四日大連發唐山丸ニテ二萬枚同日大連發崇山丸ニテ  
三萬枚ヲ積出スコト(船腹ハ當地三菱代理店豫約ノ分ヲ  
讓受クルコトニ取計ヒタルニ付大連日清汽船會社ト打合  
アリタシ)

ニ賣買當事者ハ支那側ハ福建省農村合作委員會トシ我方ハ  
滿鐵、興中公司執レトスルモ異存ナク貴方ノ御都合ニ依  
リ決定セラレ度シ

四、輸送中ノ欠<sup>〇</sup>斤ハ買手ノ負擔トス

五、通關手續ハ當地三菱代理店大間知ニ依頼ス

六、福建省立銀行支拂保障ヲ爲シ馬尾沖渡後年六分利附ニテ  
六箇月後ニ支拂ヒ萬一償却遲延等ノ場合ニハ利子年六分  
付ニテ二箇月間ノ猶豫ヲ認ム

七、噸當リ六十元ハ一噸三十三、三トスレハ一枚一元九十八  
仙トナリ當地市場ニモ何等影響ナキモ販賣ノ便宜上一枚  
ヲ標準ト致度キニ付馬尾沖渡(CIF)一枚當リ成ルヘク

ル行動(取締峻嚴ノ爲鹽務局ニ放火シタルコトモアリ)ニ鑑  
ミ其ノ生活保護上ノ見地ヨリスルモ得策ナルヘク旁最近北  
支產鹽ノ一部對日輸出辦法ヲ定メタル折柄本件地方產鹽ヲ  
モ右區域内ニ包含セシムルコトハ日支經濟提携上ノ一助ト  
モナリ得ルヤニ思考セラルルニ付此ノ機會ニ於テ財政部ニ  
對シ右許可方特ニ御聲援相煩度シ

大臣、支、北平、青島、濟南へ暗送セリ

240 昭和11年3月17日 在福州中村總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

福建省政府の満州産豆粕購入にかかるクレジ  
ット契約調印について

福州 3月17日發  
本省 3月17日夜着

第四二號

本官發支宛電報第四號ニ關シ

本月十四日興中公司ト農(村)合作社總幹事霍六丁間ニ冒頭  
往電ヲ内容トスル豆粕借款契約調印ヲ了シ本官之ニ認證ヲ  
與ヘ置キタリ

安キ値段折返シ御回電ヲ請フ  
(當地武官ト打合濟)  
(厦門ヨリ中川へ轉報ヲ請フ)  
大臣、滿、南京、厦門へ轉電シ臺灣外事課長へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

239 昭和11年3月14日 在芝罘田中(作)領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

山東省東沿岸產塩の対日輸出許可につき財政  
部へ斡旋方南京總領事へ依頼について

芝罘 3月14日發  
本省 3月20日着

郵第三號

本官發南京宛電報

第四號

山東省東沿岸產塩ノ日本向輸出方ノ件ニ關シ(二月二十一  
日附濟南宛機密第一號及三月六日附同第二號拙信寫参照)  
當省鹽務署ヨリ既ニ中央ニ許可方申請中ノ趣ニテ支那側ト  
シテモ之カ實現ハ過去ニ於ケル沿岸住民ノ鹽務當局ニ對ス

支、滿、南京へ轉電シ臺灣外事課長へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

241 昭和11年4月5日 在天津川越總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

鐘紡による経営不振の中國紡績工場買収について

天津 4月5日前發  
本省 4月5日夜着

第一三八號

當地裕元紡(資本金六百萬、紡機七萬、織機一千)客年一月  
末以來休業其ノ後同紡績ノ支那側主要債權銀行團(金城、  
中南、鹽業)折角ノ更生策モ成案ヲ得ス遂ニ清算管理人ノ  
手ニ移リ居タル處偶々客臘來北支進出ヲ目論見ツツアリシ  
鐘紡ハ豫テ裕元紡ノ善後策ニ奔走シ居レル本邦側債權者タ  
ル大倉組トノ間ニ裕元紡引受ノ話合ヲ進メ爾來大倉組ハ前  
記支那側債權團トノ間ニ折衝ヲ重ネ居タルカ三月十八日ニ  
至リ概要左ノ通ノ辦法ニ依リ話纏マリ關係者ノ間ニ必要ナ  
ル諸般ノ手續ヲ了セル趣ナリ  
金城、中南、鹽業ノ三行ハ是等三行以外ノ支那側債權額

四十萬元ヲ十萬元ニ切下ケ一箇月以内ニ之ヲ整理ス  
三前記三行カ前項ノ整理ヲ完了シ且清算人ヨリ工場ノ引渡  
ヲ受ケタル時ハ大倉組ハ右三行ノ債權額約百七十萬元ヲ

八十五萬元ニテ買取り工場ノ引渡ヲ受ク

三、大倉組ハ鐘紡ニ對シ本件工場ノ經營ヲ委任ス

四、右委任經營期間滿了セハ鐘紡ハ大倉組ニ對シ買收價格ヲ  
協定ノ上本件工場ヲ買取ル(大體二百萬元見當ナリト言  
フ)

五、本件工場ノ經營ハ支那ノ公司又ハ個人名義ニ依ル建前ヲ

執リ工場財産等ノ登記ハ王一亭ノ名義ヲ使用ス

六、鐘紡ハ修繕、改造等ノ費用ヲ負擔ス

而シテ鐘紡ハ玆一箇年半位ノ間ニ改造工事ヲ完了シ織機ヲ  
更ニ一千臺増加シ同時ニ近ク特別第一區ニ於ケル約八千坪  
ノ東拓所有地ヲ買取り之ニ宿舍ヲ建設スル筈ナリ(前記各  
項目ノ發表ハ差控ヘラレ度シ)

支、北平、南京、青島、濟南ニ轉電セリ

支ヨリ上海、上海商務官ヘ轉報アリタシ

~~~~~

受紡績ノ擴張等ニ依リ彼此二千萬見當ノ日本ノ投資ヲ見臆
テハ紡績業其ノモノハ今日ノ約四倍即チ約四十(萬)鍾(現
在ノ總鍾數ハ約二十三萬鍾ナルモ其ノ實際運轉鍾ハ十萬許
リナリ)ニ擴大セラレ

又奥地トシテハ大量ノ棉花ノ買付ヲ約束セラルル次第ニシ
テ此ノ間民衆ニ正業ヲ與ヘ商業ニ活力ヲ付シ農村ノ振興等
邦人紡績ノ寄與スル所ハ實ニ甚大ナルモノアルヘシ依テ是
等紡績引受交渉力着々成立シ操業ヲ開始スルニ至テハ支那
財界及一般社界ニハ極メテ好感ヲ與フヘク他方我方トシテ
モ北支工作早々此ノ種有意義ナル經濟事業ヲ第一ニ進出シ
得タルハ大陸政策ノ一見地ヨリ喜フヘキコトナリト思考ス
尙是等邦人紡績ノ進出ニ際シテハ關係者ノ間ニ何等競爭等
無ク關係支那官憲ニ好意ヲ寄せ平穩妥當ニ進行セリ唯邦人
紡績進出ノ結果一部ニ事業統制ノ必要アリト稱スル者アル
處専門家ノ見込ニ依レハ北支消費力カ現狀ノ儘トスルモ約
五十萬鍾迄ノ増鍾ハ(上海、青島方面ノ邦人紡績ニ影響ス
ルハ免レストスルモ)當地方トシテハ格別生産過剩延テハ
業務ノ衰頹ヲ誘致スルカ如キ事態ニハ立到ラサルヘシトノ
コトナルノミナラス治安ノ改善、事業ノ勃興、貿易ノ振興

242 昭和11年4月5日 在天津川越總領事より
有田外務大臣宛(電報)

邦人紡績業者の華北進出がもたらす經濟効果
および經濟的意義について

付記 昭和十一年三月二十日付

「有田大使ト民間有志ノ會談」

天津 4月5日前発
本省 4月5日後着

第一三九號

往電第一三六號及第一三八號ニ關シ

邦人紡績ハ斯ノ如ク支那紡ノ要請ヲ容レ逐次是等沒落紡績
ヲ引受ケ居レルカ右引受交渉力全部成立スルニ於テハ餘ス
所僅ニ恒源ノ一社ニ過キス然シ之迄昨夏ノ百萬元ノ融資ニ
依リ漸ク操業シ居ル狀態ニシテ殊ニ右ノ融資ハ關係者ニ喰
ハレタル由ニテ同紡ノ停業モ時日ノ問題トサレ居レルヲ以
テ是亦我方ノ救済ヲ必要トスルニ至ルヘシト見ラレ居レル
カ斯ノ如ク今ヤ支那紡ハ着々邦人ノ手ニ依リ起死回生ヲ見
ントシツツアル譯ニテ天津地方トシテハ既報東洋紡ノ五萬
鍾ノ工場ノ新設(將來ハ二十萬鍾迄増鍾スル豫定ナリ)及引

等ニ伴ヒ購買力モ増進スヘキヲ以テ此處當分ハ事業統制ハ
實際問題化セサルヘシト觀察セラル

支、北平、南京、青島、濟南ヘ轉電セリ

支ヨリ上海、在上海商務官ヘ轉報アリタシ

(付記)

昭和十一年三月廿日 萩原記

有田大使ト民間有志ノ會談

時 日 昭和十一年三月廿日午後二時半ヨリ午後五時半迄

於上海日本大使館邸

出席者

民間側(順不同)

甘濃 上海民團長
米里 商工會議所會頭
吉田 同 副會頭(三菱銀行)
矢吹 正金銀行支店長
占部 三井物產支店長
船津 在華紡績同業會理事長
山本 郵船支店長

大使館側

大使、石射總領事、若杉參事官、堀内書記官、萩原

大使 先ツ船津ノ發言ヲ求メラル

船津 支那ニ於ケル紡績業ノ現狀殊ニ支那人紡ノ不況ト在
華邦人紡績ノ好況(六月渡ノモノ迄賣約セラレタルコト
等)ヲ概説シ益々支那人紡績ヲ壓迫シテ邦人紡績ノ發展
ヲ爲スヘシトノ考ヘ方ト日支紡績ノ競争ヲ緩和シ共存ノ
途ヲ計ルヘシト考ヘ方トアルコト及右競争緩和ニ關シ支
那側ヨリ協議方申出テアルコト等ヲ述フ

大使 自分モ右ノ如キ話ヲ聞キ居ル旨及孔祥熙等ヨリ日支
經濟提携ニ關シテハ支那側各方面ニ疑惑アルニ付純經濟
的分野ニ限り疑惑ヲ除去スル必要アリトノ意味ノ話ヲ聞
キタル旨ヲ述ヘラレタル處

船津 周作民等ヨリモ同様ノ話ヲ聞キ居ル旨ヲ述フ

大使 競争緩和方協定ハ困難ナリヤ支那側ニ加フル壓迫ヲ
支那以外ノ方面ニ向クル様協商シ得サルヤヲ質問セラル
船津 技術的ニハ相當ノ困難アリ燐寸ニ付キテハ從來在支
邦人工場力支那側ヨリ壓迫セラレ居タル次第ニ付統制ハ
我方ニ有利ニシテ邦人當業者モ之ヲ希望シタルモ紡績ニ

ハ關稅引下以外ニ防止方法ナシ然ルニ稅收ノ減少ヲ云々
シテ引下ヲ斷行セストセハ日支正當貿易業者カ困ルノミ
ナリ根本ニ於テ關稅引下ヲ計ルト共ニ共同防壓ニ付考慮
ヲ加フル外ナシ單ナル防壓ハ日支間ニ軋轢ヲ生スルノミ
ナリ但日本品力輸出セラルレハ可ナリトノ考ヘ方ハ再考
ヲ要スヘシト述ヘ冀東政府ノ課稅ニ言及シ轉シテ再ヒ關
稅引下ノ要ヲ述ヘ日支互惠稅率設立ノ由來、其ノ滿期ニ
於ケル不更新、支那側突然ノ關稅引上等ニ付纏述ス
大使 昨二十日夜宴會ノ席上孔祥熙ニ漠然ト日支互惠稅率
ニ如何ニ考フルカト述ヘタルニ孔ハ不平等條約ノ下ニ於
テハ互惠ハ不可能ナリト答ヘタルニ付席ヲ蹴ツテ引上ケ
來レリ支那力互惠稅率ニ對シ不平等條約ヲ云々スルハ如
何ナル意味ナルヘキヤト述ヘラル(之ニ對シ堀内書記官
萩原等ヨリ説明申上ク)

米里 現ニ支那ハ昭和五年不平等條約ノ存在スルニ拘ラス
互惠稅率ヲ設定セルニ非スヤ日支關係改善ノ爲ニハ支那
側ニ於テ稅收減少トカ何トカ言フ技術的ノ問題ヲ除外シ
日支交易促進、相互ノ商工業發展ノ爲大乘の見地ヨリ關
稅引下ノ斷行、互惠稅率ノ復活ヲ決意シ關稅同盟迄進ム

付キテハ寧ロ反對ナリ唯在華紡製品力從來一部支那以外
ニ輸出セラレ居タルモ原棉課稅ノ爲輸出困難トナリ夫レ
丈ケ支那人紡績ヲ壓迫シ居ル事實アリ原棉減免稅乃至戻
稅ニ付交渉中ナルモ支那側ハ棉作獎勵ノ見地ヨリ之ニ應
セサルカ如シ棉作ハ相當盛ニナリ質モ相當改良セラレ居
レリト述フ

大使 互惠稅率乃至支那關稅ノ引下方交渉ニ付如何ニ考ヘ
ラルヤト質問セラル

米里 日本品ハ外國ヨリ安キニ付關稅ハ日本品ニノミ比較
的高キコトトナリ居リ從テ稅カ安クナレハ日本品ノ輸入
増加スルコト明カナリ、人絹二十五割砂糖二十二割ノ如
キ高稅ニテハ密輸増加スルノミニテ稅收却テ減少スト述
フ(此ノ點ニ付堀内書記官ヨリ稅率ヲ三分ノ一二減スル
モ輸入量三倍以上スルコトハナカルヘク稅收増加ヲ望ミ
難シトノ「リマーク」アリ出席者間ニ二三應答アリ)

大使 密輸ノ問題ニ付各地ニ於ケル影響如何日本ヨリ見タ
ル利害如何ト質問セラル

米里 大連台灣及香港ヨリ密輸セラルル商品ハ殆ト全部日
本品ナリ支那側ハ之ニ對シ種々ノ手段ヲ講シ居ルモ結局

要アリト述フ

大使 再ヒ密輸問題ニ歸リ「冀東」ナル穴カアレハ無限ニ
日本品力入り得リ日本ノ爲利益ナリトナス說アルカ如何
ト質問セラレ

吉田 日本全体カラ見レハ密輸ノ方カ利益ナリト述ヘ

占部、米里、利益アルハ特殊商品ノミナルコトヲ指摘ス

山本 密輸ニ依ル貿易減少ノ船舶業ニ及ホス影響ヲ述フ其
ノ他種々論議アリ

大使 御意見ハ要スルニ密輸アルカ爲ニ特ニ對支輸出量カ
増加スルト思ハス又密輸ノ爲ニ密輸業者カ利益ヲ得ルノ
ミナリト言フニ歸スルモノナリヤト質問セラレ石射總領
事ヨリ其ノ外利益ヲ得ル分子力好マシキ分子ナリヤ否ヤ
モ大問題ナリト附言セラル

船津 多年ノ苦心ニ依リ「エスタブリッシ」セル正當業者
カ「アンデイズイアブル」ナル分子ニヨリ驅逐セラルル
結果トナルコトヲ説明ス

(堀内書記官ヨリ密輸問題ニ對スル我方從來ノ態度即チ
南方ニ於ケル「オフィシャル、スマグリング」ヲ有效ニ
防壓スルコト及支那側力稅率、海關行政等ニ付誠意ヲ示

シ我方ヲシテ進テ協力スルカ如キ氣持トナラシムルコト
カ前提條件ナリトノ態度ニテ應酬シ來レルコトヲ説明ス

大使 新幣制ニ付質問セラル

矢吹 今日迄ノ所ハ豫想外ニ巧ク行キ居ルモノト言フ外ナ
キカ將來此ノ儘ニテ遣リ行キ得ルヤハ疑問ナリ、今ノ所
新幣制ヲ改革スル計畫アルニハ非サルモ銀本位歸復論等
モアル旨ヲ述フ

大使 「リースロス」カ仲々歸ラサル理由如何ト質問セラ
ル

吉田 「リースロス」ノ直話ニテハ日英關係改善ノ徵モア
リ夫レヲ持チ居ルモノナリトノコトナリト答フ

大使 在支英國勢力ニ關シテハ排撃論ト協調論トアルカ如
何ト質問セラル

米里 我々ノ心組ミハ排撃論ナルモ今直チニ英國ノ勢力ヲ
排撃セムトスルカ如キハ机上ノ空論ナリ手ヲ握キリ得ル
場合アラハ英國トニテモ差支ヘナシ時期至ラス英國ノ勢
力ハ必ス日本ノ勢力ノ壓倒スル所トナルヘキニ付聲ヲ大
ニシテ排撃論ヲナスハ不可ナリト述ヘ

山本 上海ノ現狀ハ土着派ハ工部局ノ英國勢力ヲ敵視シ排

ヲ説キタルニ依ルモノナリト述ヘ

山本 内水航行水先等「特殊利益」ヲ維持スルニハ英國ト
協調スル方支那側ニ對スル壓力多シ

(石射總領事ヨリ日本カ東亞ノ安定勢力タラントセハ列
國ノ信用ヲ得ルヲ要ス東亞ニ於ケル彼等ノ利益ヲ「デー
ク、ケーヤ」シ彼等ヲシテ日本ニ委セ置ケハ安心ナリト
考ヘシムルコト必要ナリト述フ)

吉田 金融通貨ニ付日英協力ノ余地多シ「リースロス」ハ借
款團ノ利用ヲ考ヘ居レリ通貨ハ目下安定シテ居ルモ長持
チスルヤハ疑問ニシテ万一「コラップス」セハ日本獨力
ニテ救済シ得ス英國ト協力ノ外ナシ又支那ノ在支外國銀
行壓迫ニ對抗スルニハ日英協力ノ要アリ

大使 幣制ノ問題ナルカ日本モ列國モ援助セストセハ如何
ナル結果トナルカト質問セラル

矢吹 支那ニ於テハ政府政權ノ權力亂用ニ對シ個人ノ警戒
心養成サレ居ルニ付此ノ無形ノ力ニテ「コラップス」ヲ
防止シ得ヘク例ヘハ今銀カ急落シ又ハ紙幣力濫發セラル
ルモ民衆ニ或程度ノ抵抗力アルヘシ

船津 目下在華日本紡カ好況ナルハ奧地民衆ノ換物化ノ心

撃論ヲ唱ヘ居ルモ我々ハ聲ヲ大ニスルハ不可ナリト考ヘ
居レリ口ニスヘカラサル排撃論ヲ大聲ニテ唱フルハ軍部
ニアル氣持ナランカト述フ

大使 具體的ニ例ヘハ海關制度維持ニ付日英協調ヲナスハ
如何、「フォレイン、コントロール」ヲ絕對ニ不可トス
ルヤ、日本カ正當ノ「シエーヤ」ヲ得タル「フォレイン、
コントロール」ナラハ可ナリトセラルルヤ

米里及山本(其ノ他出席民間側殆ト一致シテ)「フォレイン、
コントロール」ナケレハ「セキユリチー」ナシ支那人ニ
委カセルハ絕對ニ不可ナリ日本ノ參加セル管理ナラハ支
那人ニ委カセルヨリ可ナリ又一時ハ英國ニ多少讓ルモ我
方ハ實勢力ヲ得レハ可ナリ支那カ宗主權確立ニ向ヒ居ル
ハ事實ナルモノニ對シ我方ハ英國ト協力シテ防護スル外
ナシ。吉田、治外法權拋棄ハ絕對不可ナリ等ノ意見アリ

大使 支那ニ於テ英國ト協調シ得ル方面アリヤ

米里 長江航路ノ日英支三國汽船會社ノ「プール」成立セ
ル次第ヲ説明シ之カ成立セルハ不況ノ賜ナリトナスモノ
アルモ過去四十年間ノ懸案ニシテ英國側カ日本ヲ顧ミサ
リシ英國カ事變後態度ヲ改メ支那側ニ日本ノ參加ノ必要

理ニ原因シ日本紡ノ細物ノ方カ蓄積ニ便利ナル爲ナリト
見ルモノアリ依然通貨不安ノ存スル左證ナリ

米里 奉天票ノ濫發時代ニハ支那民衆ハ苦シミタルモ日本
人居留民ハ金券(朝鮮銀行券)ノ流通ニ依リ結局事ナキヲ
得タリ支那幣制「コラップス」スルモ何トカナルト言フ
見方モアルヘシ

占部 夫レ迄ニハ貿易上ノ損失大ナルヘシ

吉田 支那幣制ノ危險ハ(1)對外關係ノ惡化スル場合(2)銀ノ
下落スル場合(3)支那當局カ連用ヲ誤ル場合ノ三ツノ場合
ナリ(2)(3)ハ心配ナリ(矢吹支那當局ヲ信用シ難シト言ヲ
挾ム)國際收支モ結局心配ナシ從テ危險ハ(1)ノ場合ナリ
而テ万一幣制動搖セハ支那二三十億ノ投資アル英國モ、
支那市場ニ希望ヲ有スル米國モ放任シ置カサルヘク日本
モ默視シ得サルヘシ斯ル場合何トカシテ遣ルコトハ東亞
ニ於ケル日本ノ責務ナリ現金借款ハ兎モ角列國共同シテ
建設事業ヲ援助スルハ贊成ニシテ自分ハ終始英國利用論
者ナリ

(石射總領事日本カ金ヲ出セルカ否カカ疑問ナリト述ヘ)

米里 日本財政ノ膨張時代ニ殊ニ然リ

大使 話ハ別ナルカ對支文化事業ニ對スル貴下等ノ意見如何ト質問セラル

船津 外務省ノ御方針モ最近變化シツツアルニ非スヤ從來ノ遣リ方ハ高遠ノ理想ニ走り支那側モ有難タカラサル實狀ナリ貧乏人ノ家ニ骨董品ヲ列ヘテ遣ルカ如キ感アリ

山本 留學生誘到^(致)ニ専心スルコト然ルヘシ

矢吹 留學生ニ準備教育ヲ與フル學校ヲ作ルコトハ如何山本 排日力起ル場合ヲ考ヘレハ支那ニ支那人ノ爲ノ學校ヲ作ルコトハ考ヘモノナリ

米里 現在ノ遣リ方ハ支那民衆ノ福祉ト關係ナキコト力缺點ナリ民衆ニ接觸シ日本文化ヲ知ラシムル意味ニテ病院ノ建設ヲ可トス

(尙其他留學生補助ヲ我方ト特殊關係ヲ有スルモノニモ之ヲ拒ムコトアリトカ、文化事業部力氣ノ多過キルコトカ病根ナリトカ養老院ノ感アリトカノ説アリタリ)

大使 時間モ迫リタルカ別ニ御話ナキヤ
甘濃 復興資金問題ノ概要ヲ述ヘ期限ハ十五年即チ今ヨリ十二年後ナルモ無利子期間カ今ヨリ二年後ニ滿了スル關係ヨリ利子引下、償還期延長等ノ議アル旨ヲ説明ス

る旨塩務署が訓令發出について

南京 4月7日後発
本省 4月7日夜着

第二八三號

芝罘宛往電第四號ニ關シ

鹽務署ニ就キ確メタル處同署ハ本月四日天津、濟南、福州、海州ノ鹽運使宛

ハ各地ノ剩餘鹽ハ工業鹽トシテ日本ニ輸出スルコトヲ得、

但シ日本專賣局ノ日本向ニ相違無キコトノ證明書ヲ要ス

ニ輸出税ハ每噸一元トス、但シ各區ニテ最高稅率ニ依ル保

證金又ハ銀行ノ保證單ノ納付ヲ要ス

ニ手續ハ一切現行支那鹽輸出辦法ニ依ル

四紙幣取扱人ハ追テ決定ス

ヘキ旨電訓セル趣ナリ爲念

支、天津、青島、濟南、福州、漢口、芝罘ヘ轉電セリ



244 昭和11年4月23日 桑島東亜局長より
高須軍令部第三部長宛

安溪鉞山の第二回実地調査途中打切りについて

(石射總領事ヨリ總領事館側ノ方針ヲ概説セラレ)

大使 前例等ヲモ研究セラレ總領事ト協議ノ上處理セラレ度シト述ヘラル

若杉參事官ヨリ大上海計畫ニ付質問アリ

甘濃 租界内ニテ家賃ヲ拂ヒ居ルヨリモ大上海ニ土地ヲ買ヒ日本人村ヲ作ラムトノ議アリ

山本 大上海區域ハ水流カ直線のニシテ泥土ノ沈澱スル關係上「ウエット、ドック」ヲ作ラサル限リ港トシテ發達シ得ス

米里 曾テ吳淞築港計畫アリ日本人モ土地ヲ買ヒタルモ同計畫ハ成功セサリキ大上海計畫ハ「ビジネス、センター」トシテ發達スルヤ否ヤハ疑問ナルモ支那側ハ相當眞面目ナリ元來支那側ノ租界打倒策ニシテ外國人カ上海事件後ニ考ヘタル租界擴張計畫トハ一致セス云々ト述フ

以上



243 昭和11年4月7日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

中国各地における剰余塩の対日輸出を許可す

付記 昭和十一年九月九日付、在福州中村總領事作成

「對南支方針確立ノ急務」

亞[◎]一機密合第一六〇二號

昭和十一年四月二十三日

外務省東亞局長 桑島 主計(印)

軍令部第三部長 高須 四郎殿

安溪探鑛團鐵道班歸廈ニ關スル件

本件ニ關シ御參考迄ニ別紙送付ス

(別紙)

昭和十一年四月十日

在廈門領事 山田芳太郎

外務大臣 有田 八郎殿

安溪探鑛團鐵道班歸廈ニ關スル件

本件ニ關シテハ客月二十八日附拙信ヲ以テ報告ニ及ヒ置キタル處鐵道班石田聖以下四名モ本月七日歸廈最近ノ便船ニテ福州經由大連ニ引キ揚クルコトナリタリ尙石田ノ語ル所ニヨレハ同班ハ潘田ヨリ九龍江ノ上流華口ニ出テ更ニ漳平迄行キ同地ヨリ潘田ニ引返シタルモノナルカ省政府派遣

員及地方各機關間ノ連絡不完全ナリシコト、護衛ノ爲同行セル保安隊ノ爲行動ノ掣肘ヲ受クルコト多カリシコト及天候不良ナリシコト等ノ爲豫定ノ三倍ノ日子ヲ費シタルニモ拘ラス豫定ノ三分ノ一ノ調査モ行フコト能ハサリシ由ニテ殊ニ省政府派遣員側カ調査ノ切上ケヲ要求スルニ急ナリシコトハ其ノ意奈邊ニアリシヤ諒解シ難ク延イテ省政府當局ノ本嶺山開發ニ對スル熱意ニ對シテモ多大ノ疑ヲ挿マサルヲ得ス不本意乍ラ要求サレル儘ニ調査ヲ途中ニテ切り上ケタルモノナル旨附言シ居タリ

尙同班踏破地域ハ山岳重疊シ農業的ニハ開拓ノ餘地ニ乏シク住民ハ竹ヲ材料トスル紙ノ製造ニ從事シ居ルモノ多ク又漳平華口間ノ九龍江ハ兩岸斷崖ナルモ相當程度ノ舟楫ノ便ヲ利用シ得ル様見受ケラレ且同地方一帯ノ治安ハ大體ニ於テ維持セラレ居ルモノノ如ク同班旅行中土匪騷キ等耳ニセラルコトナキ趣ナリ

右御參考ノ爲報告申進ス

(付記)

對南支方針確立ノ急務

シモ此ノ際更ニ各方面ノ意見ヲ綜合シ我國ノ南支方面ニ對スル實行方針ヲ確立シ其ノ發展ノ善導助長ヲ計ル必要アリ若シ其ノ時機ヲ失スルコトアラシカ他ノ機關ノ統制ナキ進出ヲ來タシ我國ノ對外發展上多大ノ障害ヲ來タスヘシ然レトモ等シク南支方面ニ對スル發展ト云フモ詳細ニ觀察スルトキハ福建ト兩廣ニ對スル策ハ自カラ異ナルモノアリ、其ノ共通ノ要素ハ平時ニ於ケル日華關係ヲ改善シ終局ニ於テハ廣義ニ於ケル我經濟的發展ヲ計ルニアリ

左ニ本官ノ考量シタル實行案ヲ列舉シタルニ付之ヲ參酌セラレ外務省指導ノ下ニ各方面ノ衆智ヲ集メ成ルヘク速ニ帝國政府ノ對南支方針ヲ確立セラレンコト切望ニ堪エス

主ナル施策左ノ如シ

第一、在華大使ハ適當ナル時機ヲ見計ヒ成ルヘク近キ將來ニ於テ南支ニ於ケル各公館ノ所在地廣東、汕頭、廈門、福州等ヲ歴訪セラレ該地ニ於ケル地方ノ有力者ト交歡ヲ遂ケラレ將來各地ノ領事ノ活動ヲ容易ナラシムル素地ヲ作ラルコト

第二、在南支各領事總領事ハ管下ニ於ケル我國權益伸暢ノ目標ヲ確定シ外務省指導ノ下ニ各方面ト協力シ不斷ニ之カ

(二一、九、九、中村總領事稿)

方今我國朝野ノ視聽ハ漸ク南支南洋方面ニ注カレ來リ、滿洲問題北支問題ノ一少康ヲ呈スルニ至ラハ同方面ヘノ進展ノ風潮ハ益々顯著ナラントスル形勢ニアリ、現ニ臺灣總督トシテハ海軍大將ノ親任セラルルアリ、其ノ結果トシテ臺灣總督府ノ對南支南洋ニ對スル關心ノ益々増大スルハ必然ノ趨勢ニアルノミナラス昨年新設セラレタル臺灣總督府外事課長ハ本年度豫算ニ於テモ少額ナカラ對外活動豫算ヲ得タル趣ナリ半官半民會社トシテハ興中公司滿鐵會社モ福州廣東香港方面ニ出張所又ハ派遣員ヲ特派スル等、何レモ經濟的方面ノ可能性ニツキ注目ヲ怠ラス、新ニ設立セラルヘキ臺灣拓殖會社モ單ニ島内ノ開發ニ満足スヘカラサルハ想像スルニ難カラス

帝國海軍ハ南支警備ノ重要性ヲ認メ昭和九年度ヨリ第五水雷戰隊ヲ特置シ警備ノ充實ヲ期シツツアリ其ノ他帝國陸軍ノ西南ニ對スル關心モ亦重大視スルヲ要ス

要之帝國各方面ノ南支方面ニ關スル關心ハ特ニ重大ヲ加ヘ來リタルハ否ムヘカラサル事實ニシテ外務省ニ於テモ夙ニ此ノ形勢ヲ洞察シ個々ノ案件ニハ適當ナル對策ヲ誤ラサリ

實現ヲ計ルヲ要ス從來南支方面ニ於ケル官廳側ノ施設ハ補助金ノ貸與等ノ助長行政方面ノ施設ハ多クハ臺灣總督府ノ經費ヲ以テ支辨セラレ外務省ハ警察取締方面ノ分擔ヲ委セラレタルノ傾向アルヲ以テ今後ノ活動ニ當リテハ外務省モ亦自カラ相當ノ經費ノ支出ヲ覺悟シ移牒取締機關ニ墮スルコトナキ様確固タル決意ヲ要スト思考ス

(一)南支方面ニ於ケル情勢ハ福建ト兩廣地方ニ於テ著シク趣ヲ異ニスルモノアリト認ム

福建ニアリテハ臺灣ト一衣帶水ノ域ニアリテ地理的ニ云フモ我國防上特殊ノ考量ヲ拂ヒ又臺灣人ノ福建在住支那人ト同族關係ニアル點ヨリ見テ臺灣ノ治安ニ及ボス思想的影響ヲモ考量ニ容ルルヲ必要トス

右ノ外福建省ニハ我國トノ間ニ福建不割壤、^(論)外資ニ依ル軍事的施設ノ禁止ヲ約スル等ノ特殊事情アリ福建ニ關聯スル問題ハ經濟的權益ノ發展ト云フモ此等ノ背景ヲ重要視スルヲ要ス現福建省主席陳儀氏ハ比較的日本ヲ理解シ居ルヲ以テ福建ニ對スル發展ニハ彼ヲ交渉ノ相手方トシテ相當ニ目的ヲ達スルヲ得ヘシト豫想ス

具体案トシテ着手スヘキモノ左ノ如シ

1、目下滿鐵會社カ福建省政府ノ委託ヲ受ケ試掘中ノ安溪鐵山ノ經營ニハ運鑛鐵道港灣施設等ヲ併セ三千萬圓ノ投資ヲ以テ年額百萬噸ノ良質磁鐵礦ヲ產出シ得ヘシトノ目算ナルトコロ之カ調査完了ヲ待テ我國ト合辦其ノ他ノ方法ニヨリテ鐵礦ヲ我國ニ於テ利用シ得ル様施設スルコト

2、福建省ニ於テハ未タ鐵道ノ建設セラレタルモノナキモ計畫トシテハ廈門ヨリ揚子江ニ出ツル線、福建、延平ノ線等ヲ考量シツツアリ我資本ノ投下必スシモ不可能ナラサルニ付第三國殊ニ獨逸方面ヨリノ進出ニ備フルトコロナカルヘカラス

3、福建省農民ハ耕地ノ狹隘ニシテ疲弊セル爲メ年々多額ノシヤム米ヲ輸入シ正貨ヲ流出シツツアルヲ以テ農事改良、肥料ノ利用ニ依リテ之ヲ防止セシムルヲ得ヘシ然ルニ農民ハ貧困ノ爲ニ肥料ヲ入手スルコト困難ナルニ付我方ヨリ短期ノ信用ヲ供與シ之ニヨリテ滿洲ノ特產タル豆粕又ハ硫酸ノ販路ヲ擴張スル様仕向クルヲ得策トス昭和十年度ニ於テハ興中公司ヲシテ十萬元程度ノ信用ヲ供與セシメ其ノ途ヲ拓キ

ノ取締ニハ嚴正ナル態度ヲ以テ臨ミ我方ノ公明正大ナル態度ヲ支那人ニ徹底セシムルヲ要ス

(二)廣東、廣西地方ニ於テハ我勢力未タ福建ノ比ニアラス英米ノ經濟力、殊ニ香港ヲ背景トスル英國ノ勢力牢固タルモノアリ、支那人モ亦排日老獪ニシテ我方ノ發展ニハ多大ノ障害ノ伴フコトアルヲ覺悟セサルヘカラス、差當リハ排日氣運ノ彈壓緩和ヲ計リ我經濟上ノ地位ヲ英米ト同一ノ地歩ニ迄進出スル様力ムヘシ

1、海南島ハ我國ノ夙ニ著眼スル所ナルモ未タ開發充分ナラス將來發展ノ可能性アリ其ノ實情ハ臺灣ニ酷似セリト認メラルルニ付確實ナル調査ヲ爲シテ將來ノ發展ヲ期スヘシ、現ニ臺灣總督府、興中、滿鐵、外務省共ニ調査ノ爲ニ人員ヲ派遣スル希望ヲ有スルニ付之等ヲ整理統一シ慎重ニ態度ヲ持シ無用ノ恐怖心ヲ除去スル様注意スルヲ要ス

2、海南島ノ發展策ノ爲ニ廣東省政府ハ人ヲ嘗テ臺灣ニ派遣シタルコトアルモ今日ニ於テハ支那側ノ當局者ニ大變動アリタルニ付支那側ヲシテ臺灣視察團ヲ組織セシメ臺灣ノ發展ヲ模範トシテ我國ノ援助ニ依

タリ

4、福州ニ於テハ水道建設ノ計畫アリ、又此レカ成功ヲ見ルトキハ更ニ各地ニ同様ノ施設ヲ爲サントスル希望ヲ有スルニ付我國ニ於テ積極的ニ援助スルノ要アリ

5、福建省ニ對スル發展ノ爲ニハ福建省民ノ購買力ヲ增進スルヲ必要トスルニ付先ツ福建省ノ特產品タル福州材又ハ塩等ヲ我國ニ於テ購入スヘシ

6、臺灣人ノ同種同族タル關係ヲ利用シテ彼等ヲ開放地以外ノ内地ニ進出セシムル素地ヲ作ルコト一策ニシテ相當ノ條件ノ下ニ内地居住ヲ容易ナラシムル様施設スルコト

7、現ニ福州ニ於ケル專管居留地ヲ有スルトコロ何等ノ施設ナキニ付將來ノ問題トシテ我國ノ工業例ヘハ紡織、紡績等ノ進出ノ可能ナリヤ否ヤヲ決定スルコト

以上ノ具体案ハ何レモ第三國ノ競爭の進出アル場合ニハ斷然經濟力ヲ以テ排撃スルノ方針ヲ以テ臨ム必要アリ他方福建在住臺灣人ノ不良性多キニ鑑ミ、不良籍民

リテ海南島ノ發展ヲ計畫スル様仕向クルヲ要ス

3、廣東、汕頭間ノ廣汕鐵道(三百哩)ハ四千萬圓ノ資本ヲ以テ陳濟棠政權時代ニ計畫セラレ獨逸ヨリ材料ノ賣込ヲ爲サントシタルコトアルモ中央ノ承認ヲ得サリシ經緯アリ本鐵道ハ我方ノ技術資本ニ依リテ建設スル様努力スルヲ要ス

4、我商品ノ雜貨類水產物ノ如キ日本品タルヲ表示スルノ要ナキモノハ賣行ニ支障ナキモ未タ官廳ニ於テハ我國品ノ買入ヲ爲シ居ラサルニ付官廳ヲシテ日本品ヲ日本品トシテ購買セシムルカ又ハ日本側ヲシテ公共事業ニ參加セシメ排日風潮ノ打開ニ努ムヘク場合ニ依リテハ採算ヲ度外視シ此レカ進出ヲ計ルヘシ
第三、以上ノ各具体案ヲ實行スル爲ニハ現在ノ外務省ノ機構ヲ以テスレハ到底處理シ得サルニ付最少限度下記ノ施設ヲ實行スルヲ要ス

(一)福州總領事館ノ内容ヲ充實シ先ツ副領事一名ノ増員ヲ行フヘシ

(二)南支各地ニ派遣セル臺灣總督府ノ諸官吏及陸海軍武官等ト外務省ノ聯絡統制ヲ密ニスル爲ニ中央ニ於テ適當

ナル措置ヲ採ラルルト共ニ現地ニ於テハ總領事領事中
心主義ヲ徹底セシムヘシ

(三)臺灣籍民ニ對スル取締ヲ嚴重ニシ且ツ威嚴ヲ重スル爲
ニ廈門、福州、警察署長ヲ警視ニ昇格セラレタシ

(四)海南島瓊州及雷州半島ノ西方北海ハ何レモ開港場ニシ
テ我經濟的發展ノ足溜ヲ爲スモノナルニツキ我對南支
政策ヲ確定セラルルト共ニ領事館又ハ廣東總領事館分
館ノ設置ヲ決定セラレタシ

245

昭和11年5月19日

在青島西(春彦)總領事より
有田外務大臣宛(電報)

山東方面における産業調査指導機關の設置に
つき意見具申

青島 5月19日前発

本省 5月19日夜着

第一〇三號

天津宛電第五七號ニ關シ(北支經濟開發調査費ニ關スル
件)

山東省ハ現下ノ政治的情勢ニ於テ華北ト餘程趣ヲ異ニシ

(二)曾彌事務官ノ説明ニ依レハ今次ノ北支經濟開發助成事業
案ハ中心ヲ天津ニ置キ山東方面ニハ必要ニ應ジ個々ノ問

題ニ付隨時天津ヨリ派遣セラルル筈ノ趣ナルカ此ノ程度
ノ調査ニテハ隔靴搔痒到底満足ナル結果ヲ望ミ得サルヘ
キノミナラス如キ方策ハ北方偏重ニ墮シ山東省以遠
ノ奥地(隴海沿線ヲ含ム)經濟開發力當地方ヲ中心トシテ
行ハルヘキ地理的、經濟的大勢ヲ無視スルモノナリトノ
非難ヲ免レサルヘシ

(三)山東省ヲ本據トスル有力ナル産業調査指導機關ノ設置ハ
實ニ當地官民多年ノ宿望ヲ達スルモノニシテ(昭和九年
四月十九日附機密第二二二號及昭和十年五月十三日附機
密第三二六號往信參照)從來既存ノ勢力範圍内ニ蟠踞シ
動モスレハ内争ニ没頭シ勝ナル在留邦人ニ更生ノ活路ヲ
與フルノ方策モ一ニ此ノ方面ノ事業ニ俟ツ次第ナルカ幸
ヒ支那農業等ノ指導ニ關シテハ當地日支間ニハ從來ヨリ
相當聯絡アリ且我方ニ理解アル支那技術家等モ鮮カラス
從テ右關係ヲ利用シテ漸次之ヲ奥地ニ及ホスコトモ比較
的容易ナルヘキ一方同仁會青島醫院ニ貸與中ノ相當廣大
ナル建物一棟(空家)ハ之ニ一部ノ修繕ヲ加フレハ相當立

外務省獨自ノ力ヲ以テスルモ邦人ノ經濟發展ニ相當程度
ノ成績ヲ擧ゲ得ヘシト思考セラル本官ハ此ノ意味ニ於テ
山東居留民ハ徒ニ天ノ時至ルヲ頼ムコトナク自ラ其ノ運
命ヲ開拓スヘキナリト説キ居ル次第ナルカ當方面差當リ
ノ任務ハ各種邦人企業ノ奥地進出ヲ容易ナラシメ以テ山
東省内ニ我産業勢力ノ擴充ヲ計ルニアリ之カ爲ニハ韓復
榘ニ對シ各種ノ具體的經濟問題ヲ提起シ或程度迄我方ノ
壓力ヲモ適宜利用シ之カ解決ヲ計ルノ要アル處(邦人紡
績ノ濟南進出ニ付テハ現ニ西田總領事トモ打合せ同總領
事ニ於テ韓ト折衝中ノモノアリ)右ハ我經濟進出ノ容易
ナルコトヲ必然的前提要件トスヘシ然ルニ右進出上ノ指
針タルヘキ産業ノ基本調査ハ山東還附以後打切トナリ今
日ニ及ヒ居ル實情ニシテ韓力從來政治的ニハ我方ニ相當
ノ色氣ヲ示シ乍ラ邦人ノ經濟進出ニ對シテハ餘リ援助ヲ
與ヘタル形跡ナキハ今日迄ノ全般的日支關係ニモ依ルコ
ト乍ラ邦人側トシテ經濟進出策ノ攻究及之カ具体化ニ付
積極的ナラサリシコトモ亦其ノ一原因ナルヤニ觀察セラ
レ旁此ノ際至急右種調査ヲ復活スルコト頗ル緊要ト認メ
ラル

246

昭和11年6月7日

在天津田尻總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

長蘆塩の対日輸出につき外務・陸軍・大蔵三
省間に協定設定方および当面の措置案請訓

別電一

昭和十一年六月七日発在天津田尻總領事代理

より有田外務大臣宛第二三五号

右三省協定案

二 昭和十一年六月七日発在天津田尻總領事代理

より有田外務大臣宛第二三六号

右措置案

天津 6月7日後発
本省 6月8日前着

第二三四號

長芦過剩鹽ノ輸出ニ付テハ冀察政權ニ於テ事實上之ヲ承認シ居リ一方邦人需要者側モ速ニ積出方ヲ急キ居レル處七日現地出張中ノ河。西。專賣局出納課長ヲ加ヘ駐屯軍及當方ニ於テ之カ處理策ヲ攻究ノ結果別電第二三五號ノ通り此ノ際外務、陸軍及大藏三省ニ於テ協定(脱?)爾後之ニ基キ協定スルコト適當ナリト認メタルヲ以テ右至急御詮議アリ度ク尙現在ノ過剩鹽ハ三十萬噸乃至四十萬噸ニシテ一疋噸六仙ノ輸出税(脱?)輸出差支之無キ旨鹽務機關ヨリ通告越シ居レルカ右實際輸出ニ關スル當面ノ辦法ニ付テモ同日引續キ協議ノ結果別電第二三六號ノ次第二依リ處理方然ルヘシト認メ之亦請訓方意見一致セルニ付テハ一括御回訓ヲ請フ本電別電ト共ニ支、北平、南京ヘ轉電セリ

(別電一)

天津 6月7日後発
本省 6月8日前着

第二三五號

長蘆鹽ノ輸入ニ關スル三省協定案
長蘆鹽ノ輸入ニ關シ外務、大藏、陸軍三省間ニ於テ左ノ如ク協定ス

一、長蘆鹽ノ輸入ハ天津總領事館駐屯軍ノ斡旋ノ下ニ我專賣局ト長蘆鹽務機關トノ間ニ於テ協議決定ス

二、專賣局ハ臺灣鹽、關東州鹽及滿洲鹽ノ輸入量ヲ考慮シ毎年翌年度ニ於ケル長蘆鹽ノ輸入數量ヲ確定ス長蘆鹽ノ輸入數量ハ長蘆鹽業ノ基礎確立ノ爲毎年概ネ不同ナカラシメ且生産力ノ増加ニ伴ヒ逐次増加ス

三、專賣局ハ實需者ニ對シ長蘆鹽ノ割當ヲ決定ス

四、長蘆鹽ニ合理的の改革ヲ加フルト共ニ鹽業ノ發達ヲ促進シ輸出鹽價ノ低減及品質ノ向上ヲ計ル

五、長蘆鹽ノ製鹽事業及搬出設備ハ長蘆鹽務機關ニ於テ之ヲ實施ス

六、本件實現ノ爲關係政權ニ對スル工作ハ天津總領事館及支那駐屯軍司令部協力シテ之ニ當リ内地ニ於ケル工作ハ專賣局之ヲ擔當ス

(別電二)

天津 6月7日後発
本省 6月8日前着

第二三六號

一、三署(長蘆鹽務稽核分所、長蘆鹽運使(署)、長蘆出口事宜專署)指導ノ下ニ灘業公會全員ヲ以テ別ニ輸出組合ヲ組織シ身許確實信用充分ナル右組合員ヲシテ同組合ヲ代表セシメ以テ邦商側トノ賣買契約其ノ他輸出取引ニ當ラルシムルコト

二、賣買契約成立ノ上ハ賣買兩者ヨリ三署ヘ右契約寫ヲ提出セシムルコト

三、買受邦商ハ賣買代金及輸出税ヲ稽核所ヘ拂込ムコト

四、稽核所ハ速ニ前項代金ヲ直接授受鹽ノ現所有者ヘ交付スルコト

五、出口事宜專署ニ邦人顧問ヲ置キ輸出事務ヲ處理セシムルコト

六、鹽ノ買入價格ハ最低司馬秤每百斤十五仙ヲ標準トスルコト(本項ハ絕對極秘トス)

七、本年度輸出數量ハ三菱、岩井各三萬噸合計六萬噸トスル

コト

八、輸出税ハ司馬秤每百斤六仙(ト)スルコト

九、輸出保證金ヲ徴セサル様冀察當局ヘ申入ルルコト

一〇、鹽ノ受渡場所ハ官坵(稽核所ノ鹽集積保管場)トス二、各鹽戶ノ賣渡鹽ノ數量ハ輸出組合ニ於テ公平ヲ旨トシ割當ヲ爲ス様出口事宜專署ニ於テ指導ヲ爲スコト

註一、蘆鹽出口事宜專署ナルモノハ本年一月冀察カ創設セル輸出事務ヲ專管スル機關ナルカ既ニ稽核所モアリ現在特設スル必要モ無ク又此ノ種機關ハ動モスレハ弊害ヲ生スヘキヲ以テ從來ヨリ軍部ニテモ撤廢方申入レ居リ既ニ其ノ總辦ノ罷免ヲ見タルモ冀察側ヨリ面子論出テ當分現鹽運使及稽核所警吏タル戈。定。遠ノ總辦兼任ヲ認ムルコトトナリタル次第ナリ

註二、前記各項中對冀察側工作ハ當方及軍ニ隨時協議ノ上手分シテ之ヲ實行然ルヘシトナリ居レリ

247 昭和11年6月12日

在天津田尻總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

長蘆塩政の改革に当たっては冀察政務委員會の

財源確保など現地政情を考慮あるよう意見具申

天津 6月12日後発
本省 6月12日夜着

第二四四號

貴電第九一號及第一〇一號ニ關シ

長蘆鹽政ハ御承知ノ通り情弊鮮カラス依テ之ニ改革ヲ加フルニハ何等異存ナキ處改革ヲ要スル事由トシテハ別ニ郵報セルモ要スルニ

(一)灘戸(製鹽業者)收入ノ安定及正常化

(二)灘戸ニ對スル鹽務官憲及灘戸公會有力者ノ中間搾取排除
(三)海鹽ノ競争品ニシテ採取ヲ禁止シ居レル土鹽(鹹)ヨリ製造ス(取締ノ爲ノ鹽稅ノ調節)鹽稅ヲ土鹽ノ生産採算點即チ一擔二元見當迄引下ケ土鹽ノ生産ヲ防遏セントスルモノナルカ此ノ結果海鹽ヲシテ海鹽ト同量ノ消費アリト推定セラルル土鹽ニ代ラシメ以テ現鹽稅收入ノ確保增收ヲ計ルコトナルヘシ)

(四)對日輸出量ノ確保及輸出價格ノ採算化(増産及諸掛節約)等ニ存スル次第ナリ尤モ右ノ外消費者ノ負擔輕減ノ實行モ考慮サレ然ルヘキ處御承知ノ通り鹽稅ハ冀察最大ノ基本財

源ニ係ルヲ以テ假令鹽稅カ鹽ノ小賣價格ノ八割四分ヲ占ム

(冀南ヲ除キ鹽價ハ鹽務機關ニ於テ一市擔十元一角冀南ハ十元五角ト公定シ居レリ鹽稅ハ附加稅共大体八元四角五分三厘ナリ但シ冀南ハ五角引ナルカ如キ不當ノモノナリ)ト雖之ヲ輕減スル結果減收ヲ來サハ冀察ノ財政ニ累ヲ及ホシ延イテ政治的惡影響ヲ伴ハサルヲ保セス依テ例ヘハ前述土鹽對策トシテノ引下等少クトモ現稅收ヲ保持シ得ヘキ方途ヲ講セスシテ引下ヲ行フカ如キハ面白カラス

繚ツテ改善改革ノ具體案ニ付テ考フルニ右事由ニ擧ケタル諸問題ハ一應現在ノ鹽務機關ノ運営ヲ肅正強化セハ解決スヘシトモ考ヘラルルモ鄭協理等ノ言フ所ニ依レハ因襲既ニ久シキ上ニ官尊民卑ノ弊風甚タシク單ニ人事行政又ハ訓令等ニ依リテハ之カ遂行ハ期シ得サル由又現在ノ鹽務行政機關ハ多數ノ稅警(冀東丈ケニテモ五百人アリ)ヲ要シ灘戸ノ製產鹽ヲ官坵ト稱スル一定ノ場所ニ強制的ニ集積保管シ官坵ヨリ鹽商等ノ搬出ヲ管理シ居レルヲ以テ資金調達ノ途アラハ灘戸ヨリノ收納ハ勿論鹽商ニ對スル拂下モ亦格別支障ナク實施シ得ヘキ外小賣値段ノ公定迄實行シ居ル實情ナルヲ以テ專賣實施ノ素地ハ既ニ出來上リ居ル次第ナリ從テ收

納拂下及鹽價統一ヲ本體トスル專賣自體ハ左シタル困難モ

ナク實行シ得ヘシト存セラル唯茲ニ問題トスヘキハ本案ヲ冀察ニ突付クル場合冀察ハ實際上之ニ反對スルコトハ困難ナルヘキモ若シ本案ヲ容レンカ從來ノ關係者ハ本案ニ依リ別途收入ヲ絶タルル上冀察當局ハ自ラ中央(離)反ノ汚名ヲ受ケ謂ハハ怨ヲ招キ首ト金トヲ犠牲ニスル次第ナレハ場合ニ依リテハ餘程ノ壓力ヲ加ヘサル限り急速達成ハ困難ナルヘキモ本案提示ハ政治情勢ヲ考察シ時機ヲ擇フ必要アリ(例ヘハ六月一日附支發閣下宛機密第三三五號ノ實施時機ト存セラル

支、北平、南京へ轉電セリ

248 昭和11年9月1日 在中国武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

長蘆塩の対日輸出契約妥結について

北平 9月1日後発
本省 9月1日後着

第四四五號(極秘)
本官發天津宛電報

第二三號

軍側ヨリノ内報ニ依レハ長蘆鹽輸出稅ハ一月末一「キロトン」銀九十四仙五厘(支那側表面ハ一元トナリ居ル趣)鹽價ハ百司馬斤銀十五仙本年ノ輸出量額七萬「キロトン」ニ纏マリ本一日三菱商事及蘆豐公司間ニ契約締結ノ運トナリタル趣ナル處同契約書ハ近ク三菱側ヨリ貴方ニ提示セラルヘキニ付詳細貴官ヨリ大臣へ報告セラルルコトト致度シ大臣、支、南京へ轉電セリ

249 昭和11年9月20日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日中經濟提携のためのシンジケート組織案に
關し吳鼎昌実業部長と意見交換について

南京 9月20日前発
本省 9月20日前着

第七一三號
往電第七〇四號ニ關シ
川越大使ヨリ
本十九日須磨吳鼎昌ト會見シ

「日支通商合作案」トシテ「シンジケート」ヲ組織シ支那全般ノ事業ニ付事實上ノ話合ヲ進ムルコト肝要ナル旨力説セルニ吳ハ最近成都問題ニ關聯シ寄々協議ノ際實ハ自分ヨリ元來ノ持論タル「シンジケート」組織案ヲ持出シタルニ孔祥熙等モ至極賛成シ居ル處是等組織ハ簡單ナルモ先ツ仕事ヲ案出スルコト先決問題ナレハ過般來周作民等ト相談シ滄石鐵道及龍烟鐵礦事業ニ先ツ着手スル方效果アリトノコトニ一致セルカ打明ケテ言ヘハ如何ナル經濟合作モ今ノ様ナ政治的ノ不安ニテハ手ノ着ケ様ナク途方ニ暮レ居レリト述ヘタルニ關聯シ北支問題ニ付往電第七一六號ノ會談ヲ爲シタルカ須磨ヨリ「シンジケート」ハ北支ハ勿論全支ニ對シ手ヲ伸フルコトトシ差當ツテ廣汕鐵道若ハ南潯鐵道ノ延長トシテ南昌ヨリ贛州ヲ經テ汕頭ニ至ル鐵道ノ如キヲ計畫スル等日支間ノ空氣ヲ良クスル上ニモ必要ナルヘキニ付テハ至急着手方勸メ見タルニ吳ハ遺憾ナラ今直ニ何トモ出來難キ情勢ナリトテ前記往電ノ話ヲ繰返セリ

ニ協定稅率ニ關シ須磨ヨリ其ノ復活ノ必要ヲ力説シタルニ對シ吳ハ先ツ見込ナシト述ヘ唯關稅引下ニ付テハ茲二月

貴地方在留ノ臺灣籍民タル滿洲特産業者ヲ糾合シ荷受組合ヲ組成セシメ同組合員ヲシテ治外法權ニ基ク課稅上ノ特典等ニ依ル有利ナル立場ヲ利用セシムルト共ニ他方貴地方ニ於ケル我方官民竝ニ臺灣總督府等ノ支援ニ依リ輸送及金融上ノ利便ヲ得テ滿洲特産ノ販路擴張ヲ圖ルコトトシテハ如何トノ内議アル趣ヲ以テ之カ實行可能性ニ關シ貴見照會方依頼越シタル處右ハ現下ノ情勢等ニ鑑ミ其ノ目的達成相當困難ナルコトト思考セラルルモ何分ノ御見込御回電相煩度シ

本電宛先、福州、廈門、汕頭、廣東

大臣へ轉電シ參考迄ニ上海、香港へ轉電セリ

上海ヨリ支へ轉報アリタシ

251 昭和11年12月14日 在汕頭山崎(誠一郎)領事より
有田外務大臣宛(電報)

滿洲特産品販路拡張の実現性につき回答

汕頭 12月14日前発

本省 12月14日後着

第一三二號

位ノ間ニ何等カ結果ヲ得ラルヘシト述ヘタルニ付須磨ヨリ引下ノ範圍ニ付テハ我方ヨリモ案モ出スヘキニ付充分之ニ即セラレ度シト言ヘルニ吳ハ引下丈ケハ蔣介石ニ於テ賛成ノ次第モアリ程度ハ兎モ角見込アルヘシト繰返シ居タリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

在支大使、各總領事、北平、廈門へ轉電セリ

250 昭和11年12月11日 在滿洲国植田大使より
有田外務大臣宛(電報)

華南地方における滿洲特産品の販路拡張に關シ滿洲国外交部より實現性照会について

新京 12月11日夜発

本省 12月11日夜着

第一一二七號

本使發福州、廈門、汕頭、廣東宛電報

合第八六四號

今般當國外交部當局ヨリ滿洲國政府部内ニ於テ建國以來激減セル南支方面ニ對スル滿洲特産物ノ輸出額回復策トシテ

本官發滿宛電報

第二號

貴電合第八六四號ニ關シ

貴電ノ組織ハ目睫ノ利益ニ驅ラレ事アレカシト望ム當地方臺灣籍民ノ好奇心ヲ益々刺激シ必ス支那側ト衝突ヲ起ス見込ナリ

尙當地ニハ滿洲特産品輸入ノ目的ニテ精神物質共ニ適當ナル日臺人等ノ純日本資金ニテ十萬圓ノ中。南洋行成立シタリ右ハ興中公司ト密接ナル聯絡ヲ取り進行中ナルニ付滿洲國側ニ於テモ之ヲ援助ノ方針ナラハ目的達成ノ見込アリ

大臣、廣東、福州、廈門、上海、臺灣外事課長へ轉電シ香港へ暗送セリ

上海ヨリ支へ轉報アリタシ

252 昭和11年12月19日 在福州内田(五郎)総領事より
有田外務大臣宛(電報)

現在商談進行中の豆粕以外に滿洲特産品の販路拡張は困難の旨回答

福州 12月19日後発
本省 12月19日後着

第二四〇號

本官發滿宛電報

第一號

貴電合第八六四號ニ關シ

當地福建省政府ハ農村振興ノ爲滿洲產豆粕ノ輸入ヲ切望シ
本年二月ニハ興中公司ヨリ當地農村合作社ニ豆粕五萬枚
(約十萬圓)賣込アリ又來年二月渡トシテ目下三十萬枚ノ商
談興中ト省政府トノ間ニ進行中ナルカ滿洲特産ノ當地方輸
入可能性アルモノハ先ツ豆粕位ナルヘク又當地内台人ハ小
商人トシテ六箇月以上代金後拂ノ取引ニハ資金ノ關係上應
シ難ク差當リ興中、三井、三菱等ノ大手筋ノ手ニ依ル外ナ
カルヘシ尙金融ノ便等ハ台灣拓殖ノ進出ヲ求メテハ如何ト
思考シ居レリ
大臣、支、厦門、汕頭、廣東ニ轉電シ香港ヘ暗送セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

~~~~~

險)制度案夫々別電第一一二三號及第一一二三三號ノ通り不  
取敢御參考迄電報申進ス(委細郵報)

尙當方トシテハ支那ニ宛テラルヘキ本件資金ハ追加増額ノ  
要アリト認ムルモノナルモ運用資金ノ總額ヨリモ信用供與  
期間ノ延長ハ更ニ重要ト思惟シ居ル次第付少クトモ此ノ  
點ハ今議會ニ於テ達成スル様御努力ヲ願度シ  
別電ト共ニ支、在支各總領事、北平ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海、商務官、財務官ヘ轉報アリタシ

(別電一)

南京 12月26日後発  
本省 12月26日夜着

第一一二三號

對支輸出信用及保險制度ニ關スル意見概要

一、對支輸出信用及保險制度ハ關稅引下交渉及日支「バーター」

制度ト巧ニ併用スヘキコト

ニ支那市場ハ舊市場ニテ少クトモ從來ノ主要輸出商品ニ付  
テハ商慣習確立シ居リ現行輸出補償法ヲ其ノ儘支那ニ適  
用スルニ於テハ利用價值ニ乏シ

253 昭和11年12月26日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

對中輸出促進策の要領および輸出補償制度案  
に關する川越大使意見具申

別電一 昭和十一年十二月二十六日發在南京須磨總領

事より有田外務大臣宛第一一二三三號

右要領

二 昭和十一年十二月二十六日發在南京須磨總領

事より有田外務大臣宛第一一二三三號

右輸出補償制度案

南京 12月26日後発  
本省 12月26日夜着

第一一二三號

貴大臣發支宛電報第三〇一號ニ關シ(對支輸出促進策ニ關  
スル件)

川越大使ヨリ

貴方ヨリ御送付ノ筈ナル資料未タ接到セサルモ冒頭電報末  
尾ノ次第モアリ商務官、財務官ト協議ノ結果一應ノ意見纏  
マリタルニ付右要領並ニ之ニ基ク對支輸出補償(信用及保

依テ消費材ニアラサル生産材(大體ニ於テ重工業品ニシ  
テ之カ用途ハ所謂建設事業ナリ)方面ノ如ク英獨等ト比  
較シ競爭力薄弱ナルモノノ對支賣込助長ヲ計ラサルヘカ  
ラサルコト

三、右ノ如ク方向開クルコトハ我重工業ノ健全ナル發達ノ爲  
ニ必要ナルヘク又南京政府直屬地方ニ於ケル列國トノ競  
爭並ニ北支經濟開發ノ爲何レモ有效適切ナルコト

四、右ノ如ク本制度ヲ活用スル爲ニハ必然的ニ相當長期ノ信  
用供與ヲ行ハサルヘカラス資金モ巨額トナルヘシ依テ本  
制度ノ運用資金ヲ潤澤ナラシムルト共ニ他方近キ將來ニ  
於テ對支文化特別會計基金ヲ巨額長期ノ信用供與ニ利用  
スルコト必要ナリ尤モ該基金ノ利用ハ本制度トハ別途ニ  
行フコト適當ナルコト(英國側ニ於テモ輸出信用保證部  
ト中英庚款トハ別箇ニ夫々特徴ヲ發揮スル如ク活動セシ  
メントシツツアリ)

五、前記ニノ對支貿易ノ特異性ニ鑑ミ銀行ノ買取リタル荷爲  
替手形ニ對スル割引補償ヲ本則トスル現行制度ハ支那ニ  
適用ノ可(能)性少シ尤モ支那ニ付テハ此ノ際必スシモ本  
件金融保險ヲ國家カ直營シ又ハ新ニ特殊會社ヲ設立スル

ノ要ナク正金、興銀、鮮銀等ヲシテ此ノ種金融ニ當ラシムル如ク政府カ積極的ニ指導スルヲ以テ足ルヘキコト

六 荷爲替手形又ハ蘇聯通商代表部ノ約束手形買入ノ場合ト異リ本件制度ハ危險モ多ク又政府筋相手ノ長期信用供與ノ如ク政治的意味合ヲ含ム場合アルニ付信用ヲ供與スヘキヤ否ヤノ査定ノ問題起ル次第ニテ右ハ内地主務官廳(商工省)ニノミ委セ得ヘカラサルコト

七 本制度ハ信用供與及保險ノ双方(現行制度ノ甲種、乙種ニ該當ス)ヲ必要トスルコト

一般ニハ政府筋相手ノ輸出補償ハ金融的ノモノ、又民間相手ノ場合ハ保險的ノモノタルヘキモ右ハ嚴格ニ定メス當事者ノ選擇ニ委スコト支那ノ實狀ニ適スヘシ

ハ、補償スヘキ證書ハ荷爲替手形及約束手形ニ限ラス長期(一年以上)信用供與ノ場合ニハ約束手形ニ代ルヘキ擔保物件ヲ以テ満足スルコト必要ナルコト

支ヨリ財務官、商務官、上海ヘ轉報アリタシ支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

(別電二)

第一一三三號

對支輸出信用及保險制度案

(一) 商品ノ種類

商品ノ種類ハ重工業品(之ヲ用途ヨリ見レハ支那ノ所謂建設事業即チ鐵道、通信、航空、航運、電氣、瓦斯、水道等公共事業、土木事業等ニ充テラルルモノ)ヲ主トシ本邦新興產業品ニシテ有望ナルモノヲ從トス

(二) 商品ノ買手

中央及地方政府、公共團體其ノ他之ニ準スル公的機關ニ限ラス一般私人、民間會社等ヲ含ムモノトス

(三) 信用供與及保險ノ相手方(金融機關)

差當リハ現行輸出補償制度ニ倣ヒ政府ハ直接輸出商ニ對シ信用供與及保險ヲ爲サス銀行ニ對シ之ヲ爲スモノトス但シ政府ハ從來ノ如ク爲替銀行ノ自由業務ニ放任セス進シテ支那ニ關係アル銀行ノ本件金融保險業取扱ニ對シ指導監督ヲ爲スヲ要ス

(四) 信用及保險(補償)ノ種類

協議ノ上決定ス

(イ) 信用供與ノ總額

一面商工省カ大藏省ノ承認ヲ經タル金額ヲ増加シ少クトモ支那ニ對スルモノヲ五千萬圓程度トスルモノトス

(ロ) 保障量及損失補償ノ限度

本制度ヲ圓滿ニ運行セシムル如ク適宜決定スルモノトス前電ノ通り轉電セリ

支ヨリ商務官、財務官、上海ヘ轉報アリタシ

昭和12年1月4日 在広東中村總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

對中輸出促進策に關し輸出補償制度の適用範圍及び期限につき意見具申

第一號 広東 1月4日後発  
本省 1月5日前着

南京發閣下宛電報第一一三三號ニ關シ(對支輸出促進策ニ關スル件)

一、廣東方面ヘ輸出増加ノ可能性アルハ疏安、大豆、豆粕及

砂糖類ナルモ前三者ハ滿洲國產品ナル爲ニ素ヨリ輸出補償法ノ適用外ニアリト認メラルモ英獨ヨリノ輸入品ニ對抗スル爲ニハ滿洲國產品ニテモ日本商社ニ依リテ取扱ハルルモノニハ同法ヲ適用セラルル様改正方考慮アリ度ク

ニ、鐵道、水道工事等ニハ製品ノ外建設費等モ見込ム必要アル處是等ヲモ補償ノ範圍ニ入ルルヲ得ハ英獨ノ競争ニ對抗シテ有利トナルヘシ當地方ノ建設工事ニハ單ニ品物ノ賣込ニ止マラス建設費ヲモ含メテ支拂年期限ヲ定ムルモノ多シト聞ク

三、補償期限ハ商工省案ノ最長三年ニテハ到底英獨ニ對抗スルヲ得ス客年往電第五四二號ノ外十二月二十八日獨逸總領事ノ内話ニ依レハ廣西ニ於テ獨逸商カ五萬元ノ小規模ノ發電所建設ヲ請負ヒタルニ其ノ條件ハ二割五分ヲ前金殘金ハ三年間月賦ニテ支拂ヒ事情ニ依リテ更ニ三年間延長シ得ル建前トナリ五、六年ノ延拂ハ普通ト見テ可ナル狀態ナルニ付少クトモ最長限ハ六箇年トシ品物ノ種類及契約條件ニ依リテ年限ノ長短ヲ定メ得ル様伸縮性ヲ加味シ置ク必要アルヘシ

本邦爲替ノ現勢ニ處スル應急措置トシテ輸入貨物代金ノ決済及外國爲替銀行ノ海外指圖ニ依ル支拂ノ制限ニ關スル外國爲替管理法ニ基ク左記要領ノ大藏省令ヲ一月八日公布施行スルコトシタリ委細郵報

一、輸入(關東州及滿鐵附屬地ヘノ輸入ヲ含ム以下同シ)貨物代金ノ決済ノ爲ノ爲替取引又ハ信用狀取得ハ原則トシテ許可ヲ要ス

ニ、右ノ取締ノ對象トナル爲替取引ニハ外國爲替買入、外國ニ於ケル圓爲替賣却、外國送金及委託支拂等ノ外本令施行前締結シタル外國爲替豫約ノ實行ヲ含ム

三、左ノ場合ニハ爲替取引又ハ信用狀取得ニ付許可ヲ要セズ  
(イ)一箇月ヲ通ジ三萬圓相當額以下ナルトキ  
(ロ)本令ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ取得シタル信用狀ニ基ク爲替取引ヲ爲ストキ(本令施行前取得シタル信用狀ニ基ク輸入貨物代金決済ノ爲ノ爲替取引ハ許可ヲ要ス)

(ハ)本令施行ノ際輸入濟又ハ外國ヨリ積出濟ノ貨物ニ關スル荷付爲替手形決済ノ爲必要ナルトキ

(ニ)本令施行後一週間内ニ外國ヨリ積出シタル貨物ニ關ス

四、地方的建設ハ地方ノ財政、政治狀態等特殊ノ政治經濟事情ニ支配セラルルモノ多キニ付客年南京發閣下宛電報第一一三三號(ハ)ノ信用供與ノ査定ニ付テハ地方政府筋ナル場合ニハ管轄領事ヲ經テ補償申請スルコトヲ致度シ本邦商人ハ海外ニ於テ無用ノ競争ヲ爲シ往々不利ヲ來スヘキニ付國家ノ保護ニ依リテ販路ノ擴張ヲ爲ス場合ニハ在外領事ニ多少ノ權限ヲ附與シ或程度ノ監督ヲ爲ス必要アリト認ム

支、在上海大使、在支各總領事、北平ヘ轉電セリ  
在上海大使ヨリ上海商務官及上海ヘ、厦門ヨリ福州ヘ轉報アリタシ

255

昭和12年1月7日  
有田外務大臣ヨリ  
在中國川越大使、在滿州國植田大使他  
宛(電報)

#### 外國爲替管理法に基づく大藏省令につき通報

本省 1月7日後8時30分發

合第一二號

(普通情報)

ル荷付爲替手形決済ノ爲本令施行前締結濟ノ外國爲替豫約ノ實行ヲ爲ストキ

四、無爲替輸出代金ノ輸入貨物代金充當ハ許可ヲ要ス

五、貨物ノ輸入者ガ輸入ニ必要ナル決済ヲ爲ス爲在外ノ外貨證券、外貨預ケ金、外貨貸付金其ノ他ノ外貨債權ヲ處分シ又ハ之等ノ外貨資産ヲ擔保トシテ外國ニ於テ外貨借入金ヲ爲スニハ許可ヲ要ス

六、外國爲替銀行ハ顧客力爲替取引及信用狀取得ニ付本令ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セサルコトヲ確認スルヲ要ス

七、一月九日以後外國爲替銀行ガ海外指圖ニ依リ銀行ニ對スル支拂ヲ爲スニ付テハ一口一萬圓相當額以下ノ送金小切手、送金手形又ハ支拂指圖書ノ支拂ヲ除キ許可ヲ要ス  
八、本令ハ本年七月三十一日迄有效トス

編 注 本電報の宛先は「普通情報宛先」となっている。

256

昭和12年1月8日  
在天津岸(偉一)總領事代理ヨリ  
有田外務大臣宛(電報)

長蘆塩の対日輸出に關し前年の取引便法繼續  
方冀察政務委員會側と交渉について

天津 1月8日後発  
本省 1月8日後着

第三號

客年貴電第三〇〇號ニ關シ

興中ノ長蘆鹽購入契約ニ關シ當時早速軍側トノ間ニ御訓令ノ趣旨ニ從ヒ協議ノ結果何分專賣制實施工作ヲ控ヘ居ル關係モアリ此ノ際格別困苦シキ取極等ヲ爲サス單ニ冀察ヲシテ昭和十一年ノ便法ヲ繼續シ至急蘆豐ト興中トノ賣買契約ヲ斡旋セシムルコトトシ之カ交渉ハ當方ニテ擔當スルコトニ決シタルカ曩ニ軍側ニテ李思浩ニ申入レタル次第モアリ當方ニテハ直ニ經濟委員會主席タル李ヲ相手ニ交渉セル處李ハ右ノ現行便法繼續ハ篤ト關係機關ト聯絡ヲ要ステテ慎重ニ構ヘ年内解決困難ナルヤニ看取セラレタルヲ以テ爾後再三督促スルト共ニ他方興中ヲシテ蘆豐トノ間ニ契約ノ内談ヲ開始セシメ置キ且下右内談進行中ナルカ六日李主席ハ李景鈺ヲ當館ニ派シ來リ冀察トシテハ昨年ノ便法繼續ハ差支ナシトノ見込ニテ現ニ進行中ノ興中、蘆豐商談斡旋ニモ

シ直接資金ノ融通ヲ爲ササル仕組ニテハ結局銀行カ自己ノ營業上ヨリ見テ動カシ得ヘキ資金ノ範圍ニテ輸出業者ニ對シ金融ヲ與フルニ止マル次第ナレハ長期ニ亘ル融通金額ハ甚タシク制限ヲ受クヘク從テ長期ノ信用賣込ヲ助長シ難カルヘシ依テ政府ハ單ニ補償方ヲ約束スルニ止マラス銀行ヲシテ積極的ニ輸出業者ニ對シ信用ヲ供與セシムル爲銀行ノ買取りタル手形ニ對シ日本銀行等ヲシテ再割引ヲ爲サシムルカ(此ノ場合補償法第十三條ノ改正ヲ要スルヤニ認ム)其ノ他ノ方法ニ依リ銀行ノ與ヘタル信用ヲ肩替リスルノ途ヲ講スルコト必要ト認メラル

支、北平、在支各總領事、商務官及財務官ニ轉報セリ

(付記)

上海經濟委員會(假稱)設置ニ關スル件

(十二、二、十七)

「英米等ノ對支經濟的侵出ノ現狀ニ鑑ミ此ノ際「對支政策」ニ再檢討ヲ加ヘ、從來ノ抽象的政治論ヨリ一步ヲ進メ支那大衆ヲ相手トシ如實ニ共存共榮ヲ具現スルカ如キ具體的日支經濟提携策ニ乗出スニ非レハ對支經濟發展上英米

乗出ス積リナル旨挨拶越シ更ニ李思鈺<sup>(家兄)</sup>ハ當方係官トノ間ニ右斡旋ノ具體策ヲ協議スル所アリタリ之ニテ鹽稅、目減リ通關ニ關スル本則ハ先ツ決定セル次第第二ニ當方トシテハ李思浩ト聯絡シ賣買契約速急成立方盡力スル所存ナリ

支、北平、青島ヘ轉電セリ

257 昭和12年1月9日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

対中輸出促進策に關する意見の補足について

付記 昭和十二年二月十七日付、作成局課不明

「上海經濟委員會(假稱)設置ニ關スル件」

上海 1月9日後発  
本省 1月9日夜着

第一五號

客年南京發閣下宛電報第一一三三號竝ニ南京發閣下宛公信機密第八一一號ニ關シ

右當方意見中補足訂正ヲ要スルモノ左ノ通

信用供與及保險ノ相手方及機構ニ付現行制度ノ如ク政府ハ單ニ銀行ニ對シ補償契約ヲ結フニ止マリ其ノ手形買取ニ對

ニ遅レヲ取ルコトトナルヘク中日貿易協會總會ノ開催、財政顧問ノ應聘、日支「シンデケート」ノ組織、對支輸出保證制度ノ設定等今後我方ノ打ツヘキ手ニ關シテハ關係省トモ協議ノ上至急方策ヲ決定スルノ要アル處之カ爲ニハ先ツ現地ニ有力ナル經濟調査機關ヲ設立スルコト肝要ナリ。

ニ、然ルニ英國側ニ於テハ先年「リースロス」ニ隨行セル「ホールパッチ」及「ロヂャース」ハ其ノ後夫々大使館財務官及國民政府財政顧問ニ就任シ先般英國輸出信用保證部代表トシテ來滬セル「カークパトリック」及英國大使館商務參事官「ビール」ト共ニ上海「ヂャーデン」會社内ニ「英國大使館事務所」ヲ創設シ英國大使指導ノ下ニ渾然タル對支經濟參謀本部ヲ形成シ居ルニ拘ラス我方ノ現狀ハ在上海大使館事務所又ハ總領事館ニモ特ニ經濟事務擔任者ノ配置ナキ一方大藏省財務官ハ正金銀行ニ、商務官ハ「ハミルトンハウス」ト云フ如ク夫々割據シテ其ノ間聯絡ヲ缺クコト夥シキノミナラス陸軍武官室、滿鐵事務所、三井、三菱、正金等亦獨自ノ見地ヨリ經濟調査ヲ進メ居ル狀態ニシテ右ハ對支國策ノ遂行上極メテ遺

憾ナリト認メラルルニ就テハ此ノ際應急ノ措置トシテ時局委員會ノ例ニ倣ヒ上海ニ商務官、財務官、陸海軍經濟班並ニ滿鐵、商工會議所等在上海經濟關係者ヲ網羅スル別紙「上海經濟委員會」（假稱）ヲ設立シ以テ對支經濟陣ノ統制強化ヲ計ルト共ニ同委員會ヲシテ日支經濟提携ニ必要ナル諸般ノ準備ヲ進メシムルコトト致度シ

#### (別紙)

上海經濟委員會(假稱)設置ニ關スル要綱案(竝ニ説明)

一、上海ニ上海經濟委員會ヲ設置ス

二、上海經濟委員會(以下單ニ委員會ト稱ス)ハ外務大臣ノ監督ニ屬スル祕密委員會トス

現地ニ於ケル實際上ノ監督及指導ハ在支大使ニ於テ之ヲ代行ス

三、委員會ハ外務大臣ノ諮問ニ應シ財政、金融、交通等對支經濟的發展ニ關スル諸般ノ事項ニ付審議シ意見ヲ具申スルモノトス

委員會ハ必要ニ應シ前記事項ニ付外務大臣ニ建議スルコトヲ得

四、前項ノ諮問及意見具申竝ニ建議ハ在支大使ヲ經テ之ヲナスモノトス

五、委員會ニ委員若干名ヲ置ク

委員會ノ構成ハ左ノ如クス

(1)委員長 在支大使

(2)委員 大使館參事官又ハ首席書記官

上海總領事

陸軍武官

海軍武官

財務官

其ノ他

(正金、三井、三菱、滿鐵ノ支店長級、商工會議所會頭等民間ノ有識者ヨリ適當ノ者ヲ選任ス)

(3)臨時委員

(在上海遞信書記官、鐵道書記官其ノ他。)

外務大臣ハ審議事項ノ性質ニ應シ臨時委員ヲ選任スルコトヲ得

(4)參與(假稱)

外務大臣ハ本委員會ニ關係アル事項ニ付學識經驗アル者ニ對シ委員會參與ヲ囑託スルコトヲ得

(本項ハ本邦實業家、専門家等ノ内ヨリ適當ノ者ヲ隨時上海ニ派遣シ支那側トノ接衝ニ當ラシムルニ便ナラシムルト共ニ更ニ必要ニ應シテハ支那側ノ顧問等ニ推薦セムトノ用意ニモ出ツル次第ナリ)

六、委員會ニ幹事若干名ヲ置ク

幹事會ノ構成ハ左ノ如クス

幹事長 大使館通商經濟課長(新設)

幹事 財務官、商務官、武官補佐官、其ノ他關係團體

經濟事務主任者其ノ他。

七、委員會及幹事會ニ關スル庶務ハ上海大使館事務所通商經濟課ニ於テ處理ス。

(外務側トシテハ本委員會ノ庶務ニ從事セシムル爲大使館ニ通商經濟課ヲ新設シ必要ナル書記官、書記生、囑託等若干名ヲ配屬セシメ度キ意向ナリ尙右ニ關聯シ現在ノ商務官事務所ハ本經濟課ニ合流セシムル豫定ナリ。追テ右通商經濟課ヲシテ各方面トノ聯絡ヲ緊密ナラシムル爲ニハ例ヘハ正金銀行樓上ニ事務所ヲ設ケ同所ヲシテ上海

258

昭和12年1月22日 有田外務大臣より  
在中國川越大使、在滿州國植田大使他宛電報)

外国為替管理法に基づく大藏省令の趣旨について

本省 1月22日後6時15分発

合第五一號

(普通情報)

往電合第一二號ニ關シ

一、新大藏省令ノ趣旨ハ見越輸入ノ異常ナル増加ニ基ク爲替

經濟委員會ノ本部タラシムルト共ニ武官室、財務官、滿鐵等ノ經濟關係事務所モ出來得ル限り之ヲ正金樓上ニ統一セシメ在支各經濟機關ノ集結ヲ計ルコト必要ト思考ス。事務所設置ノ場所ハ差當リ正金ヲ最モ適當ト認ム。)

ハ、中央ニ於ケル本委員會關係事務所ハ時局委員會幹事會ニ於テ之ヲ處理ス

備考

委員會ノ設置ハ勅令等ノ形式ニ依ラス、總理及關係大臣間ノ機密諒解事項ニ止ムルモノトス。

取極激増ニ對スル應急對策トシテ輸入貨物代金決済ヲ大藏大臣ノ許可事項トシ圖爲替水準ノ安定ヲ圖ラントスルニ在リ之カ運用ニ當リテハ貿易上ノ障礙ヲ避クル様最善ノ注意ヲ拂ヒ居レリ

ニ從テ正常的取引ニ伴フ爲替ハ今後共大體許可スヘク政府ハ對英一志ニ片堅持ノ方針ナリ今次ノ措置ヲ以テ國際爲替混亂ノ魂膽ニ出ツトナスハ全ク曲解ナルノミナラス政府貿易管理ノ第一歩ナリトノ見解モ正鵠ヲ得ズ

三、新省令施行後物價暴騰ヲ傳フル向アルモ日銀調査ノ小賣物價指數ニ就テ見ルニ年初以來異常ノ昂騰ヲ示シタルハ世界的騰勢ニ在ル鋼材(四割七分見當高)ノミニテ總平均ハ四分五厘ノ騰貴ニシテ最高ニ割ヲ超エズ一部思惑ニ基ク値上リハ次第ニ訂正セラレツツアリト認メラル經濟界ハ安定シ居レリ

編 注 本電報の宛先は「普通情報宛先」となっている。

259 昭和12年1月27日 在漢口三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

爲替取引に関する大蔵省の許可遅延のため新規取引停頓につき迅速認可方当業者より請願について

漢口 1月27日後発  
本省 1月27日夜着

第四四號  
貴電合第五一號ニ關シ

今般當地日本商工會議所會頭ヨリ輸入貨物ノ代金決済ニ必要ナル爲替取引及信用狀取得ニ關シ大蔵省ノ許可異常ニ遲延シ出願後十數日ヲ要スルモノ少カラサル爲ニ當地邦商ノ對本邦輸出貿易ハ既約定品ノ受渡困難ナルノミナラス新規取引全然停頓ノ狀態ニ陥リ邦商一同甚タ當惑シ居ル趣ヲ以テ爲替取引及信用狀取得願出ニ對シ許可方迅速ニ取運ハル様配慮アリ度キ旨請願ノ次第アリタリ

就テハ最近日支經濟關係稍好轉シ貿易數量増大ノ步調ヲ辿リツツアル際ニモアリ旁冒頭貴電ニノ正常的取引ニ對シテハ許可方迅速ニ取運ハル様然ルヘク大蔵省側ニ御話相成度シ

支、上海大使、在支各總領事へ轉電セリ

260 昭和12年1月27日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

わが方經濟視察團の訪中に關し周作民中日貿易協會会長の意向打診について

上海 1月27日後発  
本省 1月28日前着

第五九號(極秘、館長符號扱)  
貴電第九號ニ關シ

船津歸滬後本使トモ打合ノ上不敢中日貿易協會有力者ノ意嚮ヲ探ルコトトナリ先ツ周作民ニ接洽セル處周ハ本件日華貿易協會側招待ノ件ヲ中日協會側ノ議ニ附スルコトニハ異存ナク唯政府ノ了解ヲ取付クル要アルヘキモ西安事變善後問題一段落ヲ見サル間ハ暫ク右ニ取運ヒ困難ナルヘシト述ヘ居タル趣ナリ右兒玉會長へ御傳アリタシ  
南京大使へ轉報セリ

261 昭和12年2月1日 在上海河相總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

爲替取引に関する大蔵省の許可遅延状況につ

き申請手続きの簡素化など対応策を同省と協議あるよう要請について

上海 2月1日後発  
本省 2月1日夜着

第二三號  
貴電合第五一號ニ關シ

一、新大蔵省令ノ目的ハ見越輸入ヲ抑制シ以テ貿易尻ノ惡化ヲ防止スルニアリテ見越輸入ニアラサル輸入ヲ阻止スル結果トナルカ如キハ却テ立法ノ趣旨ニ反スルモノニアラスヤト思料セラルル處支那ノ對日輸入品ハ機械製品ハ別トシ土產品ハ主トシテ棉實糟、菜種糟、牛骨ノ如ク肥料類、麩、玉蜀黍ノ如キ飼料、棉實、菜種、胡麻ノ如キ製油原料、棉花、麻、落棉ノ如キ工業原料品、小麥、豆類等何レモ本邦ニ於ケル必需品ナルノミナラス品質及出廻狀況並ニ取扱商中ニハ中、小輸出業者少カラサル點等ヨリ米棉、印度棉、濠洲羊毛等トハ事情ヲ異ニシ事實上大量ノ見越輸入ヲ爲スコト殆ト不可能ニシテ假令爲替管理強化サレストモ日支間ノ貿易尻ニ左シテ惡影響ヲ與フル懸念ナキモノト存ス

三然ルニ本令實施ノ結果ハ爲替取組ノ許可著シク遲延シ又

許可日取ノ豫測困難ナル爲現ニ例ヘハ上海ニ於テ日本人穀。肥。同業組合員取引ノ如キモ新規引合殆ト出來サルニ加ヘ

既約定品積出濟許可未着分三十八萬餘圓、既契約許可未着分二百九十餘萬圓ニ上リ目下取引杜絶ノ狀態ニ陥リ居レリ左ラハトテ前記支那土產品ノ輸入ヲ本法<sup>○</sup>管理外ニ置クコト至難ナルヘキモ中、小輸出業者保護ノ見地竝ニ前顯諸事情ヨリ大藏當局ニ對シ少クトモ支那土產品ニ付何等爲替取組申請ノ取扱ヲ簡單ナラシムル便法ヲ設ケ直ニ許可下付方實現スル様大藏省ニ對シ然ルヘク御交渉相成リ結果何分ノ儀御回電アリ度シ

尙右土產品ノ爲替取組申請ハ外務省ヲ通シ其ノ裏書アルモノニハ直ニ許可ヲ下付スルコトモ亦一ノ便法ナルヘク御考慮ヲ請フ

尙又當地方ニ於テハ本令實施ハ日滿間貿易統制ニ起見シ他國ヨリ日本ヘノ輸入制限ヲ行ハントスル底意ニ出ツトノ風說専ラ流布サレ關係商人ニ多大ノ不安ヲ與ヘ居ルニ付是等指導ノ爲其ノ真相併セテ御電示ヲ請フ

入ヲ必要トスルモノナリ

(三)日支國交關係力數年ニ亘リ難澁ヲ續ケ今ヤ其ノ最惡期トモ言フヘキ狀態ニアリ之カ打開好轉ノ途ハ經濟方面ノ工作ヲ最有效且捷徑トスル處日本側力支那ヨリノ餘り多カラサル輸出品ニ對シテスラ嚴重ナル制限ヲ加フルコトハ結局ニ於テ日本ノ對支輸出ヲ最も深刻ニ阻害スル原因タルノミナラス日支國交ノ好轉ニ對シテモ甚タシキ障礙ヲ加フヘシトノ理由ニ依リ當地邦人商工業者ハ既約定品ノ輸入ニ對シ迅速許可下付ヲ待望シ將來ニ對シテハ支那ヨリ輸入ノ原料の貨物ニ對スル輸入許可ニ付テハ可及的寬大ノ措置ヲ執ラレンコトヲ切望ス

トノ貴大臣及大藏大臣宛ノ陳情書ノ進達方ヲ本官ニ願出テタリ(陳情書ハ郵送ス)

就テハ冒頭往電(二)末段ノ件大藏省ト御協議ノ結果何分ノ儀御回電相成度シ

支、在支各總領事、北平ヘ轉電シ上海大使ヘ轉報セリ

263 昭和12年2月8日 林外務大臣より  
在上海河相總領事宛(電報)

商務官トモ協議濟

支、北平、在支各總領事ヘ轉電シ上海大使ヘ轉報セリ

262 昭和12年2月6日 在上海河相總領事より  
林外務大臣宛(電報)

為替取引に関する大藏省の許可遲延に対し可及的寬大な認可あるよう在上海日本商工会議所より陳情について

上海 2月6日後発  
本省 2月6日夜着

第二八號

往電第二三號ニ關シ

今般當地日本商工會議所ハ

(一)當方面商工業者ノ輸出品ニ付大藏省令公布當時ニ於ケル既積出貨物並ニ既約定貨物ニ對シ今日ニ至ルモ未タ申請額ノ半額スラモ許可サレ居ラス當業者ハ取引上少カラス手違ト損失ヲ被リ居レリ

(二)支那ヨリ日本ニ輸出サルル土產品ハ日本ニ於テ見越輸入困難ニシテ其ノ金額モ多額ナラス且日本ノ産業上之カ輸

為替取引に関する認可処理を今後は極力迅速かつ円滑に行う旨大藏省方針決定について

本省 2月8日後7時10分発

第一二號

貴電第二三號及第二八號及漢口發本大臣宛第四四號ニ關シ大藏省ト折衝ノ結果爲替管理部ノ方針左ノ通ナルニ付會議所等可然御指導相成度

一、省令施行當初ハ事務一時ニ輻輳セルト申請手續ニ不備多カリシ等ノ關係上許可遲延ヲ免カレサリシモ現在ハ同令

施行前ノ既約定品ニ關シテハ殆ト全部處理濟

二、新規取引分ニ付テモ敏速ニ處理シツツアルヲ以テ取引杜絶ヲ來スガ如キコト無カルベシト思考スルモ今後共爲替

ノ許可ノ決定ハ極力敏速ヲ期シ取引ノ障礙ヲ防グベシ

三、從テ特ニ支那土產品ニ關スル爲替取扱上外務省裏書分優先許可等ノ便法ヲ講ズル迄モナク圓滑ニ進行ノ見込

四、本省令實施ノ趣旨ハ往電合第五一號ノ一ノ通ニシテ右ガ日滿貿易統制ノ遂行ノ爲他ヨリノ輸入ヲ制限スルヲ目的トスルモノナリト爲スガ如キハ全ク根據ナキ風説ニ過ギズ

支、在支各總領事ニ轉電シ上海大使ニ轉報アリタシ

264 昭和12年2月10日 在天津堀内總領事より  
林外務大臣宛(電報)

在中國邦人紡績同業会の支部設置に当たつて  
は外務省関係者から支部長等を選任するよう  
関係者へ説示について

天津 2月10日前発  
本省 2月10日後着

#### 第五四號(極秘扱)

客月十八日當館ニテ軍部係官列席ノ上邦人八紡績(内許可ノモノヲ含ム)ヲ集メ課税、勞働等當面諸般ノ問題ニ付懇談セルカ(委細郵報)右席上當方係官ヨリ在華邦人紡績同業會支部設置ヲ懇請セルニ對シ一同異議ナク成ルヘク速ニ準備スヘキ旨申合セタル次第アル處右支部設置案ハ意外ニ早ク上海、青島へ通セラレ本月六日平岡當地立寄ノ節當方ノ内意ヲ尋ネタルニ付係官ヨリ右支部設置ノ場合ニ於ケル支部長又ハ理事ハ各紡績間ノ聯絡調和ヲ計ル外我方出先各機關並ニ支那側ニ相當顔ノ利クコト必要ナルノミナラス我方

ノ北支工作ニモ相當寄與シ得ヘキ人タルコトモ一要件ナルヘシト申入レ尙係官ノ思付トシテ外務畑ヨリ適任者ヲ得ルコト然ルヘキ旨申添ヘ置キタル趣ナルカ本件問題トナル場合ニハ現地ノ事情ヨリ見テ前記ノ次第御含ノ上充分適任者ヲ推薦セラルルコト必要ナリト思考ス

支、上海大使、北平、青島へ轉電セリ

265 昭和12年2月23日 在福州内田總領事より  
林外務大臣宛(電報)

#### 滿州産豆粕の福建省政府購入契約成立について

福州 2月23日後発  
本省 2月23日後着

#### 第二六號

福建省政府ノ滿洲豆粕買付ニ關シ其ノ後與中ト建設廳間ニ於テ値段ノ話合ヲ進メタル處本年ハ昨年ニ比シ二割以上ノ値上リナルヲ以テ相場ノ下リヲ待チ居タルモ時期モ切迫ノ爲馬尾沖渡シ二圓四十九錢厦門沖渡シ二圓五十錢ニテ二十萬枚、五十萬四百二十五圓ニテ商談成立シ昨二十二日契約調印ヲ了セリ代金ノ支拂ハ十萬枚分ハ現品受渡ト同時ニ現

金支拂残り十萬枚ハ明年一月末支拂トシ福建省銀行ニ於テ

連帶保證シ年六分ノ利子ヲ附ス但シ地方政情變化ニ依リ代金支拂ニ懸念アル時ハ與中ノ請求ニ依リ直ニ支拂フヘキ旨ヲ規定セリ尙豆粕ノ値上リニ對シ福建側ハ農民ニ對スル立場上具合惡シキ點アル模様ナルモ相場ノコトトテ已ムナシトシ敢テ不滿ヲ唱ヘ居ラス又今回契約ノ分ハ二十萬枚ナルカ福建側ハ三十萬枚ニテハ民業壓迫ノ惧モアルヤニテ差當リ二十萬枚トシ何レ残り十萬枚モ考慮スルコトトナレリ

支、上海大使、滿へ轉電セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

266 昭和12年3月14日 在中國加藤大使館一等書記官より  
佐藤外務大臣宛(電報)

日中經濟提携に対する日本側の積極的な態度  
を警戒する中国紙報道振りについて

北平 3月14日前発  
本省 3月14日前着

#### 第一〇四號

十三日ノ世界日報ハ日支貿易協會ヲ前ニシテト題シ大要左

ノ通り論シ居レリ

十八日上海ニ於テ舉行セラルル日支貿易協會第一回大會ニ日本側ハ日支經濟提携實行問題等十個ノ提案ヲ準備シ居ル旨傳ヘ居ル處我方提案ハ未タ承知セサルモ日支貿易問題ハ關係重大ナルヲ以テ慎重考慮ノ上決定スヘキナリ

日支經濟提携ニ關シ日本側ノ態度極メテ積極的ナルハ日本ノ國內及國際經濟ノ困難打開ノ爲支那市場擴大ヲ企圖スルニ依ル而シテ現今支那市場ニ於ケル日本ノ地位ハ絶對優勢ニシテ英米ヲ凌駕シ我國都市ハ勿論狹村僻地ニ至ル迄商品ノ大半ハ日本品ヲ以テ占メ居ル狀況ナルカ之ニ反シ我國ノ對日輸出ハ僅カニ原料品ニ限ラレ居レリ斯カル半植民地的國際貿易ノ畸形的現象ハ我國經濟主權維持ノ點ヨリスルモ永續セシムヘキモノニアラス尙日本ハ日支經濟提携ノ重點ヲ華北ノ經濟開發ニ置キ居ル處日本ハ其ノ開發資本ノ調達困難ナルニ拘ラス猶ホ之ヲ堅持スルハ國防政策ニ根據シ居ルカ爲ニシテ我國トシテハ事極メテ重大ナルヲ以テ此ノ種問題討論ニ當リ單ニ實業界代表ヲ以テ組織スル協會員ノミヲ以テ之ニ當ラシメ當局カ僅カニ之ヲ監視スルハ片手落ノ憾ナシトセス經濟ハ政治ヲ離レテ獨立シ得ス近年華北ニ於

ケル諸種ノ政治運動ニ對シ支那人ノミナラス日本人ニ於テモ多大ノ不安ト疑惑ヲ抱キテ其ノ投資ヲ躊躇シ居ル事實ニ鑑ミ日本ニシテ眞ニ日支經濟提携ヲ欲スルナラハ先ツ華北特殊情勢ノ調整乃至徹底的解決ヲ計ルヘキナリ

支、上海大使、在支各總領事ヘ轉電セリ

~~~~~

支ヨリ南京ヘ、上海大使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

267 昭和12年3月16日 在中国加藤大使館一等書記官より
佐藤外務大臣宛(電報)

児玉經濟視察團の訪中に関する中国紙報道振 りについて

付記 昭和十二年三月五日付横山(助成)警視總監よ

り佐藤外務大臣他宛公信外秘第五二一號

右視察團の団員および日程について

北平 3月16日後発
本省 3月16日夜着

第一一〇號

我經濟視察團ノ渡支ニ關シ當地各漢字紙ハ連日大見出ヲ以テ詳細報道スルト共ニ極メテ好感ヲ以テ之ヲ迎ヘ居ル處

支、上海大使、在支各總領事ヘ轉電セリ

支ヨリ南京ヘ、上海大使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

(付記)

外秘第五二一號

(3月6日接受)

昭和十二年三月五日

警視總監 横山 助成

内務大臣 河原田 稼吉殿

外務大臣 佐藤 尚武殿

陸軍大臣 杉山 元殿

海軍大臣 米内 光政殿

(以下宛先省略)

日華貿易協會主催對支經濟使節派遣竝ニ之カ

日程等ニ關スル件

對號 昭和十年十一月六日 外秘第三〇〇九號 當廳

昭和十一年二月三日 外秘第二〇六號 當廳

事務所 麴町區丸ノ内三ノ一四 日華實業協會内

日華貿易協會

右協會ノ設立等ニ關シテハ對號既報ノ處今回全協會ニ於テ

十四日ノ北平晨報ハ林内閣ハ對支政策ノ重點ヲ經濟外交ニ置キ經濟提携ヲ以テ兩國國交調整ノ手段トシ以テ日支兩國ノ相互了解ヲ遂ケンコトヲ企圖シ居リ從テ今次ノ視察團ハ其ノ顔觸ヨリスルモ亦其ノ使命ヨリスルモ重大ナル任務ヲ負ヘルモノニシテ國際的經濟乃至政治使節ト言フヘク該團ノ齎スヘキ結論ハ兩國關係ノ將來ヲトスルモノナリ兒玉團長カ日支對立狀況ヲ率直ニ言明シ之カ解決方法トシテ國民感情ノ融和、相互信賴、領土主權ノ尊重、經濟上互惠平等ノ原則ヲ主張シ居レルハ敬服ニ堪エス吾人ハ政治ト經濟ノ分野ヲ明カニシ經濟提携ニ政治的素因ヲ介入セシメサルヲ要ス而シテ政治問題ノ徹底的解決ニ依リ初メテ經濟的提携ヲ爲シ得ヘシト論シ又

十五日ノ華北日報ハ林首相ハ日支間經濟關係ノ調整ヲ以テ政治關係ノ改善ニ進マントシ即チ經濟ヲ以テ手段トシ政治ヲ以テ目的ト爲シ居ルニ反シ兒玉ハ日支兩國國民ノ感情融和、相互信賴ヲ以テ經濟提携ノ先決條件トシ政治上支那ノ領土主權ヲ尊重シテ初メテ經濟上ノ平等モ期シ得ヘシト斷シ其ノ主張同シカラサル處吾人ハ政治上失地回復、經濟上密輸ノ取締ヲ以テ先決問題トスト論シ居レリ

ハ本月十八日上海ニ於テ開催セラルル中日貿易協會總會ニ日本人會員出席方ノ招待ヲ受ケタルヲ機會ニ左記十四名ヲ選定シ對支經濟使節トシテ派遣渡支セシメ支那ニ於ケル經濟ノ實情ヲ視察セシムル外前記總會ニ出席セシメ對日高關稅ノ引下問題(北支特殊貿易問題ヲ含ム)ノ解決竝ニ紡績海運金融等日支經濟ノ提携ニ就キ隔意ナキ意見ヲ交換セシムル豫定ナルガ其ノ氏名日程等左記ノ通りニシテ尙一行ハ上海ニ於テハ市長吳鐵城ヲ始メ總商會銀行公會等ト交驩ヲ行ヒ約一週間團體行動ノ後同地ニ於テ解散シ各自自由行動ヲ執ル筈ニテ大部分ハ北支滿洲ノ狀況ヲ視察ノ上歸國スル豫定ノ趣キナリ

記

一、經濟使節ノ氏名

(東京側)

團長 日華貿易協會會長 兒玉 謙次

三井物產常務 石田 禮助

朝鮮銀行總裁 加藤 敬三郎

日本郵船社長 大谷 登

三菱商事相談役 三宅川 百太郎

日清紡績社長 宮島 清次郎
 日清汽船社長 堀 新
 三菱合資參與 秋山 昱禧
 日華貿易協會理事 油谷 恭一
 (外ニ糖業關係代表一名出席ノ豫定ナルモ氏名未定)

(大阪側)
 東洋紡績社長 庄司 乙吉
 住友銀行常務 大平 賢作
 同興紡績社長 飯尾 一二
 (名古屋側)

(一名出席ノ豫定ニテ目下選定中)

以上ノ外隨員トシテ朝鮮銀行ヨリ一名日本郵船株式會社ヨリ二名隨行スル筈ニシテ目下人選中ナリ

二、一行ノ日程

東京側ハ三月十一日午后九時東京驛出發、神戸ニテ一同集合

三月十二日午前十一時

神戸港出帆ノ日本郵船長崎丸ニテ出發

三月十四日上海着

大使館並ニ第三艦隊司令官訪問、全夜南京へ出發

三月十五日午前南京着

午后三時鐵道部長張公權主催ノ茶會、夜、實業部長吳

鼎昌ノ招待晚餐會ニ出席

三月十六日

行政院長蔣介石主催ノ茶會、夜、財政部長孔祥熙主催

晚餐會ニ出席

三月十七日

午前八時南京發、上海へ歸着

三月十八日

中日貿易協會總會ニ出席

以上

268

昭和12年3月(7)日

在中国川越大使より
 佐藤外務大臣宛(電報)

児玉經濟視察團の歡迎会における蔣介石の挨拶について

南京 發
 本省 3月17日前着

特情 南京第七號

十六日午后訪支經濟視察團招待席上ニ於テ蔣介石ハ左ノ如キ歡迎ノ挨拶ヲ述ヘタ

児玉團長其ノ他諸先生ヲ茲ニ招待シ得タコトハ欣幸トスル所テ吾々ハ今回ノ御來臨ヲ鶴首シテ待ツテ居タ經驗豊富ニシテ德望厚キ日本業界ノ名流タル諸先生ニ對シテハ我國朝野舉ケテ絶大ナル歡迎ヲ致ス次第テアル諸先生ハ我國朝野ニ對シ直接間接ニ夫々友誼的關係ヲ有シテ居ラレルノテ經濟視察團ヲ歡迎スルト言フヨリモ寧ロ友人ヲ歡迎スルト言フ方カ適切テアル且明治維新以來經濟建設ニ盡瘁シテ來ラレタ方々故建設即チ創業ノ困難ニ對シテ充分御經驗アルヘシト思フ國家建設ノ過程ニ具ニ辛酸ヲ嘗メテ來ラレタ方々故正ニ建設途上ノ支那ニ對シテ必スヤ甚大ナル御同情ヲ寄セオラレルコトヲ疑ハヌ孫文先生ハ「日本ニ維新アル如ク支那ニ革命アリ」ト云ハレタカ支那ノ遭遇シタ狀況ハ日本ノ夫レヨリ困難テアルト申シテヨイカモ知レヌ國民政府ハ國家建設ノ爲日本ノ維新ト同様ノ精神ヲ以テ努力中テアル

カラ友情的ナル相互的援助及御指導ヲ希望スルコトモ亦特別甚大ナル譯テアル何卒豊富ナル御經驗ニ依リ中國ノ建設事業及經濟産業等諸般ノ事項ニ對シテ遠慮ナク十分ニ批評ヲ下サツテ大イニ教授シテ下サルコトヲ希望スル支那ノ實業家ハ必ス心カラ之ヲ受ケ入レ道標トシテ進ムテアラウ日支兩國ヲシテ文化上經濟上肩ヲ並ヘテ共ニ進ミ東亞ノ平和及福利ヲ保障セシメ得ルテアラウト思フ吾々東方人ハ東方ノ文化ヲ尊重セネハナラヌ此ノ點ハ必ス御同感ト信スル東方ハ何處迄モ東方ノ文化ヲ離レルコトハ出來ナイノテアル之ハ恰モ隣國ハ永遠ニ隣國テアルト同様テアル地理ト歴史トハ變更スヘカラサルモノテアル若シ東方民族ニシテ東方文明ニ基礎ヲ有セヌナラハ永遠ニ其ノ他ノ民族ト對等ニ共存スルコトハ不可能ト思フ東方文明ノ特徴ハ信義ト道德テアツテ東方國家ハ禮儀ヲ重ンスルカ故ニ禮儀ノ國ト稱セラレテキル私モ少年時代日本ニ留學シ日本國民カ禮儀ヲ尊重シ親切謙讓ノ風習ヲ有スルコトニ深キ敬意ヲ抱イテ居タ其ノ時日本維新ノ成功ハ實ニ此ノ一點ニ在リト認メタノテアル其ノ後志ヲ立テテ革命ニ從事シタノモ矢張我國固有ノ精神及地位ヲ恢復シ東方文化ヲ昂揚スヘク努力スル爲テアツ

タ今尙記憶シテ居ルカ私カ昭和三年日本ニ滞在中テアツタ故澁澤子爵ニ會見シタコトカアル其ノ時子爵ハ自ラ特別ニ注釋サレタ論語ヲ一部自分ニ贈ラレタ特ニ其ノ中ヨリ「己ノ欲セサル所ヲ人ニ施ス勿レ」ノ一句ヲ引用サレタ上私ニ對シ「自分ハ此ノ一句ヲ一生ノ處世訓トシテ時々刻々堅ク心ニ記憶シテ居ルノミナラス之ヲ日本ノ青年ニ示シテ來タ」ト話サレタ澁澤子ハ之コソ東方精神ノ特徵テアルト説キ非常ニ親切ニ色々ノコトヲ話サレ今後東方文化ノ昂揚ノ爲互ニ努力スルヤウ希望サレタ澁澤子ハ既ニ故人トナレタ私ハ之ヲ非常ニ残念ニ思ツテ居ル併シ子爵ノ申サレタ言葉ハ私ニ非常ニ感銘ト記憶ヲ止メテ今ニ至ル迄忘レ得ナイ本日諸氏ニ會ツタノハ澁澤子ニ會ツタノト同様ニ感シタノテ茲ニ舊イ話ヲ繰リ返シタ譯テアル今皆サンニ御起立ヲ願ヒ故澁澤子ニ對シ敬意ヲ表シ默禱シタイト思フ(一同起立三分間默禱)本日御招待シタカ凡テ非常ニ簡單テ遺憾テアルカ東方人の親愛ナル感情ニ基キ德望高キ隣邦實業界ノ先輩タル皆サンニ對シ一言贈呈シタイト思フ即チ「仁親以テ實トナス」ト言フ言葉テアル其ノ意義ニ付イテハ既ニ御存知ノコトト思フカ蓋シ仁ト親トハ人類ノ感情ヲ結ヒ文明ノ進歩

日本社會ニ絶大ナ聲望アリ今回中國各方面ノ日支國交改善ニ關スル眞正ノ意見並ニ近年ノ政治、經濟、社會各方面ノ建設實況ヲ充分認識シテ歸國後ノ報告ニ依リ日本國民ヲシテ支那ヲ新ニ認識セシメルニ至ラハ將來ノ國交調整、經濟提携上ニ多大ノ貢獻ヲ爲ステアラウ日支兩國ノ過去ノ關係カ圓滿テナカツタノハ否定出來ナイカ支那ハ終始「親仁善隣」ヲ「モットー」トシテ日本ニ眞正ノ輿論力擡頭スルヲ期待シテ居ル兩國ハ共存共榮ノ原則ノ下ニ「互諒互助」ノ途ヲ講スヘキテ實際ノ交渉ハ政治經濟ヲ問ハス領土主權ノ完整ト平等互惠ノ原則ニ背カヌ限り良ク忍耐スルノカ合理的テ其ノ方針ハ國民政府成立以來一貫シタ政策テアル支那ノ立場ハ上記ノ如クテアルカ兒玉團長出發ノ際ノ談話ハ吾人ノ信念ニ符合スルモノアリ中日貿易協會總會ハ必ス圓滿ノ結果ヲ得ルモノト信スル近來我カ言論界ハ經濟提携ニ付熱烈且眞面目ナ討論ヲ行ヒツツアリ其ノ要點ヲ綜合スレハ左ノ四點ニ歸スル

一、純粹經濟合作ハ支那ノ法律制令ニ從フコト

二、鐵道、鑛山ノ投資ハ技術援助ニ限ラレ主權ヲ分轄スルヲ得ス

ヲ促ス原動力テアルト信スル吾々東方民族ニアツテハ之カ最重要テアル希クハ中日兩國ノ實業界及兩國國民ノ爲諸先生カ共同努力サレンコトヲ希望スル終ニ臨ミ謹ンテ兒玉氏等ノ健康ヲ祝スル

269 昭和12年3月17日 在中国川越大使より 佐藤外務大臣宛(電報)

兒玉經濟視察團の訪中を歓迎する中国紙報道 振りについて

南京 本省 3月17日後着

特情 南京第八號

十七日ノ中央日報ハ「歡送日本經濟工作團」ト題シ左ノ如ク述ヘテ居ル

兒玉氏等一行ノ南京滞在期間ニ於ケル我朝野人士ノ歡迎招待ノ熱烈サハ近來稀ニ見ル所テアル一行ノ使命ハ一昨年ノ遣日視察團ニ對スル答禮ト中日貿易協會大會出席ノ爲テ表面ヨリ見レハ其ノ意義ハ甚タ簡單テアルカ其ノ影響ハ極メテ重大テアル視察團兒玉氏等ハ何レモ日本實業界ノ巨頭テ

三、綿、麥等農產物ノ改良ハ生産量ノ増加ヲ主眼トシ原料搾取ヲ附帶條件トスルヲ得ス

四、貿易ハ支那工業ノ存在ヲ尊重シ支那ニ輸入税ノ低減ヲ要求スルヲ得ス

以上四點ハ實ニ平等互惠原則ノ具體的説明ニシテ又支那全國民ノ提携促進ニ對スル一致ノ見解テアル不良鮮人ノ北支ニ於ケル大量密輸根絶及日本カ支那國民ノ感情ヲ刺戟スルカ如キ種々ノ行動ヲ極力回避スルコトハ經濟提携ノ先決問題タルヘキハ勿論テ兒玉氏等ノ言動ハ間接ニ日本朝野ニ影響スヘキ所甚大ナルニ付歸國後ノ努力ヲ期待スルヤ切ナルモノカアル

270 昭和12年3月18日 在天津堀内総領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

長蘆塩対日輸出に関する交渉妥結の経緯について

天津 3月18日前発 本省 3月18日後着

第一二〇號 往電第三號ニ關シ

客月李思浩ハ其ノ代理トシテ李景蘇ヲ當館ニ派シ來タリ鹽稅ハ昨年同様トスルコトニ宋哲元ノ許可ヲ得タル旨申越セルカ其ノ後諸般ノ經緯(別途郵報)ヲ經テ去ル十日興中ト蘆豐トノ間ニ先ツ日支主管機關ノ許可ヲ受ケテ正式契約書ヲ作成スル條件ノ下ニ

(一)數量、十萬噸

(二)任意増減額五%

(三)目減り引當四%

(四)鹽價鹽坨荷渡シ每一噸二、三六二三元(昨年ト同値)

(五)受渡期間三月ヨリ十二月迄

(六)代金ハ稽核所ノ鹽引渡許可書發給ノ際ニ積取額ノ半額ヲ本船積取完了時ニ殘半額ヲ支拂フ

(七)納稅手續ハ蘆豐稅金等ハ興中負擔トス

トノ要項ヲ以テ假契約書ヲ作成シ同時ニ別ニ蘆豐、興中間ニ

(一)前記十萬噸ノ内三萬噸ヲ積出セル時ハ右ノ外更ニ十萬噸ヲ尙餘鹽アラハ更ニ三萬噸ヲ各前記契約ノ條件ニテ賣渡スヘシトノ交換文(第一號)ヲ

(二)明年ハ情勢ニ依リテハ興中ニテ若干ノ値上ヲ爲スヘシト

ニ話合ヘル次第ナリ而シテ第二號及第三號交換文書ニ付テハ當初李思浩ヨリ當方ニ對シ宋哲元カ鹽民ノ陳情ヲ容レ昨年ヨリ値増方ヲ「コミット」シ居ル爲メ李ニ對シ値増幹旋方内命セリトテ何トカ奔走アリ度キ旨要請アリ左リ乍ラ地方事情ニ特ニ變化ナキヲ以テ當方ハ考慮困難ナリト應酬セルカ其ノ後再三右要請興中へ傳達方申越シタルモ興中ニテハ全然考慮ノ餘地ナシトノコトニテ交渉進マス

依テ本官ヨリモ李思浩ニ對シ僅カ數箇月後ノ今日値増ヲ固執スルハ經濟合作ニ對スル冀察側ノ態度ヲ疑ハシメ大局上不可ナル所以ヲ説キ値増ヲ思ヒ止マル様宋哲元ヲ説得方申入レタル結果李ニ於テ宋ト話合ノ上昨年度ノ値段ニテ差支ナキコトニ決定セル旨回答越シタル處契約直前李ノ左右ノ人物ヨリ興中へ直接毎噸一角位ノ「コミッション」ノ要求アリ興中ニテハ背後ニ李思浩アリト推斷シ之ヲ承諾セルカ其ノ後右「コミッション」ハ塩民へ遺ルモノニシテ公表差支ナシト謂フコトニナリ事實ニ於テ本件ハ變態的値増トナリ茲ニ第三交換文ヲ作成スルコトナレル譯合ナリ又第二交換文ハ最後ノ蘆豐興中ノ折衝ノ際蘆豐側カ頑強ニ主張シ興中側カ明年ノ情勢ヲ條件トシテ承諾セル次第ナリ

ノ交換文(第二號)ヲ

(一)興中カ鹽ノ輸出ヲ開始スル際漢沽一帶ノ鹽民ノ生活補助ノ爲メ二萬元ヲ蘆豐ニ贈與スヘシトノ交換文(第三號)ヲ各手交セリ

斯ノ如ク今年ハ頗ル複雑ナル契約ヲ爲シタルカ事茲ニ至リシ理由ハ當初興中側ニテ漢沽ノ古鹽ノ「ストック」ハ鹽務機關ノ調査ニ基キ支那内需ヲ差引キ充分註文量タル二十三萬噸ヲ積出シ得ヘシト考ヘ當方モ之ニ基キ折衝シ居リタル處愈契約作成トナルヤ現在ノ「ストック」ハ四十二萬噸ニ過キサルコト明カトナリ制度上今年ノ内需二十萬噸ハ留保スル必要アル一方今年ノ製鹽許可料一七萬噸カ生産シ得ルヤ否ヤ問題ニシテ從テ其ノ不作ノ場合ヲ考慮セハ之亦相當量ノ保留ヲ要シ旁々南京ノ意嚮ハ十萬噸トナリ居レルヲ以テ十萬噸ト致度キ旨鹽運使側ヨリ了解要請アリタルニ付双方詳細考覈ヲ加ヘタル上大體遺線ノ目途付キタルニ依リ李思浩ノ案ニ基キ此ノ際ハ先ツ南京側ノ反對ヲ受ケサル様十萬噸ノ契約ヲ爲シ同時ニ別ニ二十三萬噸ノ追加契約ヲ行ヒ此ノ際ハ不取敢十萬噸分ノミ南京ノ許可ヲ取付ケ十三萬噸分ハ前者カ三萬噸ノ輸送力完了スル迄南京へ持出ササルコト

尙目下ノ問題ハ

(一)十萬噸假契約ニ對スル南京ノ許可取付促進

(二)右十萬噸(右五%増加ノ場合ヲ含ム)ニ對シ此ノ際一括南京側ヨリ天津海關へ通關許可訓令ノ發出

(三)十三萬噸追加契約ニ對スル我方及冀察側ノ確認(大体當方係官ト李思浩トノ公文手交ニテ可ナリト考ヘ居レリ)

ニテ交渉進行中ナリ

支、上海大使、北平、青島、濟南へ轉電セリ

271 昭和12年3月19日 在上海河相總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

児玉經濟視察団と中日貿易協會員との懇談会
において中国側が經濟提携に先立ち除去すべき政治的障害を繰々説明について

上海 3月19日後発
本省 3月19日後着

第六二號

支發貴大臣宛電報第一八八號ニ關シ
兒玉會長以下十七日當地着同夜中華貿易協會晚餐會ニ出席

272 昭和12年3月27日 在中国川越大使より
佐藤外務大臣宛(電報)

児玉經濟視察團の訪中を総括した周作民のス
テートメントについて

上海 発

本省 3月27日後着

特情 上海第二二號

中日貿易協會會長周作民ハ今次ノ大會談話會ノ業績ニ關シニ
十六日附テ左ノ「ステートメント」ヲ發表シタ

日本經濟視察團兒玉氏以下團員各位ハ齊シク日本經濟、實
業界ノ領袖テアル今同相共ニ來遊セラレタルコトハ誠ニ空
前ノ盛舉デアッタ政府及上海各方面ハ誠ヲ盡シテ歡迎シタ
上海滯在中彼我兩方テ發表シタ言説ハ齊シク新聞ニ記載サ
レタノテ今ハ繰返サヌカ三回ノ談話會テ語り合ツタ要點ハ
次ノ通りテアル

「中日貿易協會ノ設立ハ共ニ兩國貿易ノ發展ヲ圖ルヲ其ノ
趣旨トスル

大會ニ於テ其ノ組織ヲ充實シタ依テ兩國ノ貿易協會内ニ
部門ヲ分チ調査研究ヲ繼續スルコトナラウ

支、北平、滿、在支各總領事へ轉電セリ
廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

~~~~~

「日支兩國ノ金融狀況ニ付テハ今回意見ヲ交換シタ結果内  
容明瞭トナリ今後兩國金融界ハ相互ニ連絡ヲ圖ル事トナ  
ツタ

「棉業ハ重要生産テアル棉種ノ改良ニ關シテハ產出量ヲ増  
進スヘキテアル兩國共ニ代表ヲ擧ゲ調査研究シ相互ノ利  
益ヲ圖ルコトナラウ其ノ他ノ各項ニ關シテハ何レモ良  
ク意見ヲ交換シタ結果調査研究スルコトナツタ支那側  
ノ方針ニ關シテハ十七日宴會ノ席上既ニ詳シク説明シタ  
ノテ茲ニ改メテ説明スル必要ハナイ

~~~~~

273 昭和12年3月28日 坂本(龍起)台灣總督府外事課長より
佐藤外務大臣宛(電報)

台灣と福州との經濟提携促進の機關として貿

易会社設立の計画について

台北 3月28日前発

本省 3月28日前着

第二七號

本官發福州宛電報

第二五號

二 日中諸案件交渉

往電第五號ニ關シ

華南銀行竹籐ニ於テ臺灣福州間經濟提携促進ノ機關トシテ
資本金百萬圓程度ノ貿易及産業開發ノ仲介會社ヲ考究中ナ
リシ處先般來臺セル管仲儀ノ語ル所ニ依レハ既ニ貿易公司
成立済ニシテ専ラ黃英廣其ノ衝ニ當リ居ル由尤モ林知淵ハ
竹籐ノ意見ニ贊成ナルカノ模様ナルモ管ハ李擇一トノ關係
モアリ林ハ管ヲ敬遠シ居ル都合モアリ本件ニ付竹籐ハ深ク
論談セサリシ趣ナルカ加藤臺拓社長ハ豫テヨリ私案トシテ
貿易會社ヲ臺灣ニ設立シ右姉妹會社トシテ福建側ニ百萬圓
程度ノモノノ設立方ノ可否ニ付考ヘ中ナリシトノコトニモ
アリ時宜ニ依リテハ竹籐ノ計畫ヲ後援差支ナシヤトノ意嚮
ナル處左ノ諸點ニ付何分ノ儀御同電アリ度シ即チ

(一)貿易公司既ニ設立セラレ居ルモノトセハ右トノ關係ヲ如
何ニスヘキヤ又右トハ無關係非貿易會社ヲ新設スルノ可
否

(二)事業斡旋ノ機關トシテ表面ニ支那側有力者ヲ立テ支那法
人トスルモ少クトモ專務ヲ日本人トスルコト絕對ニ必要
ナリト思考セラルル處右ハ貴地ノ空氣ニ照シ見込ノ有無
(三)差當リ斡旋又ハ仲介スヘキ事業例ヘハ水力發電ニ依ル或

(付記)

三 事業トシテハ省政府方面ノ建設事業材料ノ賣込開發事業ノ援助等有望ナルヘク又出來得レハ製糖工場又ハ人絹工場等モ考ヘ度シ

四 福建側ノ竹籐ニ對スル感觸不可ナシ南支ニ於ケル經濟活動上臺拓ノ方輿中ヨリ無難ナルヘシ尤モ臺拓ニ對スル印象未タ定ラス

五 福建ニ對スル經濟工作機關トシテハ差當リハ日支合辦ヲ考ヘス日本側一本ニテ進ミ此ノ日本側機關ニ於テ巧ク福建側ニ喰込ム方遣リ易カルヘク又福建ニ之カ爲會社ヲ作ルヨリモ差當リ臺灣ニ臺拓ノ分身會社ヲ作り其ノ支店ヲ福州ニ置ク程度トシテハ如何カト存ス

六 臺拓ノ南支進出ハ大イニ歡迎スル所ニシテ又相當ノ可能性アルヤニ存セラルルモ輿中トノ關係ニ付外務拓務等關係省間ニ根本的協議ヲ遂クル要アルヘシ

七 過般臺拓高山理事立寄ノ際話合ノ次第モアリ最近ノ機會ニ臺拓ノ高級職員一度當地ニ差向クル様御配慮煩度シ大臣、支、上海大使ヘ轉電セリ

程度ノ硫安工場ヲ起スカ如ク(硫安ノ福建省輸入ハ年額約五萬噸ノ由)又ハ鐵道ノ施設若ハ鑛山ノ開發等ニ福建側ニテ此ノ種機關ナルニ於テハ之ヲ委託スルモ差支ナカルヘキ空氣窺ハルル次第ナルヤ又

四 福建側ハ竹籐ニ對シ如何ナル感觸ヲ懷キ居ルモノナリヤ臺拓、輿中等ニ對シ先方ハ如何印象致シ居ルモノナリヤ右ノ通ナル處頃來折角貴我ノ關係頓ニ好轉致シ居ル折柄ニモアリ此ノ機會ヲ捉ヘ具體的工作ニ進ミ度ク希望ニ堪ヘス爲念

大臣ヘ轉電セリ

274 昭和12年3月30日 在福州内田總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

台灣と福州との經濟提携促進の機關としての貿易会社設立計画につき意見具申

付記 昭和十二年五月二十四日、東亜局第一課作成
「對福建省經濟進出ノ爲新會社設立方ニ關スル件」

第四九號
本官發臺灣外事課長宛電報
第四七號
貴電第二五號ニ關シ

過般竹籐渡來ノ際貿易公司ニ日本側割込方陳儀トモ話見タルカ先方ノ案ハ半官半民ニシテ之ニ日本側ノ介入ハ面白カラストシ其ノ儘トナリ貿易公司ハ其ノ後大體計畫整ヒ七月ヨリ開業ノ豫定ナルカ同公司ノ事業ハ福建特產ノ輸移出統制促進ヲ主眼トシ事業ノ開發及外國品ノ輸入方面ニ觸レ居ラス我方ノ計畫ト其ノ趣ヲ異ニスルモノナルコト判明シタルヲ以テ本官ニ於テモ傍觀ノ態度ニ出テ居ル次第ナルカ貴電御照會ノ諸點ニ對シ卑見左ノ通

一 貿易會社ト稱スルモ臺灣ト福建ハ風土類似シ產物モ衝突スルコト多ク且現在ノ如キ排日的高關稅ニテハ貿易ハ多クヲ期待シ得ス

二 合辦會社ノ設立ハ支那國藉トスルトモ支那一般ノ空氣ヨリ見テ福建ト雖目下ノ所見込ナルカヘシ

對福建省經濟進出ノ爲新會社設立方ニ關スル件

本件ニ關シ廿四日會議ヲ開催セルカ出席者左ノ通
(昭和一二、五、二四、東亞一朝海)

外務省 上村課長 朝海事務官
陸軍省 園田中佐
海軍省 神 中佐
大藏省 梅北課長 沼野事務官
拓務省 増本課長
對滿事務局 小澤事務官
台灣總督府 阪本課長
外務省ヨリ別添甲號ヲ披露、説明セルニ對シ種々意見出テ結局別添乙號ノ通修正ノ上散會セルカ注意スヘキ點左ノ通

(イ) 事業目的ニ關スル修正ハ大ナル問題ニ非ス本會社カ先ツ主トシテ行フヘキ業務トシテ特ニ「産業及資源ニ關スル調査及紹介」ヲ明記スルコトトシ又本會社ハ貿易ヨリハ經濟諸事業ノ經營ヲ重視スヘシトノ意見ヨリ後者ヲ(ロ)トシ前者ヲ(ハ)トシ順序ヲ入換ヘタルニ過キス

(ロ) 資本金ノ割合ニ就テハ主トシテ大藏省側ヨリ本會社カ國策會社タル以上台拓輿中兩者ノ持分ハ會社株式ノ過半數

トナサシムルコト適當ナルヘシトノ意見出テタルモ民間
 出資ハ極メテ望マシク民間カ過半數ヲ握ルモ政府ノ會社
 指導ニハ支障ヲ生セサルヘキコト台拓ト同額ヲ出資スヘ
 キ興中ノ資金關係モ考慮ノ要アルコト等各係官ヨリ説明
 アリタリ(民間出資ニ就テハ坂本課長ニ於テ大体會社二
 十萬圓個人十萬圓ノ割合ヲ以テ台灣關係方面ヨリノ出資
 ヲ勧誘シ居リ各方面トモ主義上異論ナキ由ナリ)

(イ)ノ(ロ)ハ現地案ノ意味必スシモ明カナラサルモ台拓社長、
 興中現地代表間ニ一應話合成立シ居ル模様ナルヲ以テ本
 會議ノ席上ニテハ何等修正ヲ加ヘサリシモ此ノ點ハ更ニ
 外務省台灣總督府ニ於テ夫々興中、台拓ノ意向ヲ確メ本
 項ノ意味ヲ明カニスルコトトセリ

(ニ)會社ノ指導權ニ就テハ各省共大体異論ナカリシカ拓務省
 及總督府側ヨリ原文ニテハ余リニ字句強キニ失スル旨申
 出テタルヲ以テ多少字句ニ修正ヲ加ヘ會社トノ書面了解
 ハ別ニ本申合中ニ明示ハ避ケ事實ニ於テ之ヲ實施スルコ
 トトセリ

尙大藏省側ヨリ資金ノ異動ヲ生スル場合及本會社カ金融
 業務ヲ營ム場合大藏省ニ協議アリ度キ旨(後者ニ就テハ

(ニ)前二號ニ附帶シ又ハ關聯スル業務
 資本金 取敢ス二百五十萬圓乃至三百萬圓トシ臺拓及
 興中ハ夫々五十萬圓ヲ出資シ殘額ハ臺灣關係
 民間ノ出資ニ俟ツ

組 織 日本法律ニ依ル株式會社トシ本店ヲ臺北又ハ
 福州ニ設置ス
 本會社ハ社長一名、專務一名、取締役支配人
 一名、平取締役若干名、監査役若干名及適當
 數ノ社員ヨリ成ル

ニ會社設立ニ關スル了解事項
 (イ)取締役支配人ハ臺拓及興中ニ於テ適當ナル人物ヲ選定
 ス
 (ロ)本會社設立ト同時ニ臺拓及興中ハ其ノ福建省ニ於ケル
 事業ヲ自己ノ危險及損益ニ於テ本會社ニ移管代行セシ
 ム
 將來本會社ノ業域擴張セラレタル場合右時期以前ニ同
 地域ニ於テ兩者ノ著手セル事業ニ關シテモ前項ニ準シ
 本會社ニ移管代行セシム
 (ハ)本會社ハ其ノ目的トスル事業ノ獨占ヲ建前トスルモノ

ソノ業務ノ各種目ニ付(述ヘタリ
 要之次回會合ニ於テハ(ニ)ノ(ロ)ノ點ヲ確メ更ニ右大藏省側
 意向ヲ適宜織リ込ミタル上大体新會社設立ノ原則ヲ認ム
 ルコトトナルヘシ

(別添乙号)

對福建省經濟進出ノ爲新會社設立方ニ關スル件

(昭和十二年五月廿四日)

一、會社ノ要綱 (概ネ臺灣總督府ヨリ提示アリタル原案ニ

據ル)

名 稱 大福公司(假稱)

事業目的 本會社ハ主トシテ日支間ノ經濟關係ヲ密接ナ

ラシムル爲南支(差當リ福建省)ニ於テ左ノ業
 務ヲ營ムヲ以テ目的トス

(イ)産業及資源ニ關スル調査及紹介

(ロ)經濟諸事業ノ經營請負斡旋及仲介竝ニ該事

業ニ對スル投資

(ハ)對南支(差當リ福建省)輸出入貿易竝ニ其代
 理及仲介

ニ非ス。但福建側ニ於テ他ノ邦人商社トノ取引ヲ希望
 スル場合又ハ資力經驗等ニ顧ミ他ノ邦人商社ヲ當事者
 トスルコト適當ナリト認メラルル場合等特殊ノ事情ナ
 キ限り本會社ノ事業ヲ中心トスル統制ノ原則ハ之ヲ認
 ムルモノトス

(ニ)會社ノ支那ニ於ケル活動ヲシテ帝國ノ對支外交及對支
 通商政策ニ背馳スルコトナキヲ期スル爲會社ヲシテ常
 ニ外務官憲ト密接ニ連絡セシメ重要ナル事業ノ計畫運
 用ニ付テハ必ラス其ノ了解ヲ求メシムルモノトス

275

昭和十二年4月2日 在濟南有野總領事より
 佐藤外務大臣宛(電報)

輸出向け山東棉の梱包工場設置につき意見具申

付 記 昭和十二年四月五日付、東亜局第一課作成

華北協會設立問題等に関する本邦紡績会社幹
 部との協議概要

濟 南 4月2日後発
 本 省 4月2日夜着

第五六號

松島通商局長へ

山東棉ノ當地出廻ハ年百五十萬「ピクル」ニ達シ内百萬「ピクル」ハ青島紡績ニ消費セラレ殘餘ハ上海及日本ニ輸出セラレ今後青島紡績ニ於テ增錘ヲ爲スモ支那ノ織綿獎勵等ニ依リ増産ハ逐年輸出ヲ旺ナラシムル趨勢ニアリ然ルニ輸出向棉花ヲ梱包スヘキ當地本「プレス」工場ハ僅ニ中國銀行ノ經營セルモノ(日産四百俵)一アルノミニテ引合殺到ノ際ハ到底間ニ合ハス當地洋行筋ニ於テモ「オフアー」ノ半數以上ヲ見通シ居ル現狀ニテ日支棉花商何レモ本「プレス」工場ノ増設ヲ要望シ居リ邦人企業トシテ最有望且安全ナルモノト思料セラルル處一方我方ニ於テハ山東棉ノ改良等農事方面ノ指導方法ハ相當攻究セラレ居ルモ生産棉ノ吸收並ニ日本向輸出ノ手段ニ付テハ等閑ニ附シ居ル嫌アリ此ノ際日本側ニ於テ先鞭ヲ付ケ右工場ヲ設立スルコト今後我方ノ山東棉花工作促進上ニモ必要ト認メラルル處當地三菱ニ於テハ早クヨリ本件計畫中(日産一千俵、設立費約四十萬圓、尙商埠地内ニ同社所有ノ好適地約三千坪ヲ有ス)ニテ先般主任田中上京ノ節本社ト一應ノ打合ヲ遂ケタル趣ナルカ最近交通、民生等ノ支那銀行ニ於テ同様ノ工場設置計

友田久雄(富士瓦斯紡)

白石幸三郎(大日本紡績聯合會專務理事)

ソノ他四五名

先ツ池田參謀ヨリ一時間餘ニ亘リ北支一般政況ニ關スル講演アリタル後本官ヨリ同參謀カ御招待ヲ受ケタル機會ニ上司ノ命モアリ北支棉花問題ニ付協議ノ爲來阪セル次第ナリト前提シ北支經濟工作ノ對象トシテ鐵、石炭、鹽等カ採リ上ケラレ乍ラ棉花ニ關スル具體的工作ノ進ミ居ラサルハ遺憾ニテ右ニ關シテハ我方ヨリ積極的ニ生産消費ノ兩部面ニ於テ技術的政治的援助ヲ與フルノ要アルヘキ旨竝ニ右目的達成ノ爲華北協會ノ設立方考慮セラレタル經緯ヲ略述セル上同協會竝ニ華北棉花倉庫打包公司ノ組織ニ付説明シ最後ニ北支棉花改良増産ニ依ル我國紡績ノ目前ノ利益ハ測定ニ困難ナルヘキモ大局の見地ヨリ立案ノ趣旨ヲ容レ協會ニ對スル寄附五百萬圓倉庫公司ニ對スル投資約二百萬圓ヲ應諾セラレ度旨申述ヘタリ右ニ關聯シ左ノ通應答アリタリ

問(庄司氏)「今般訪支シ支那側棉花關係者ト種々意見ヲ交換セルカ支那側ハ日本側ノ一方的ナル改良増産計畫

畫(アリ)萬一支那側ノ計畫實現ニ至ラハ當分進出ノ見込無キニ至ル惧アルニ付テハ右事情御含ノ上貴局長ヨリ三菱本社ニ對シ右設立促進方御勸說相煩度シ
支、青島、上海、天津へ轉電セリ

(付記)

(昭和十二、四、五、東亞一朝海)

四月二日大阪ニ出張シ紡績當業者ト左記諸問題ニ付協議セルニ付テハ右報告ス

一、華北協會設立問題

正式會議ニ先チ鐘紡津田社長、池田參謀竝ニ本官新大阪「ホテル」ニ於テ一應打合ヲ遂ケタル後午後三時綿業會館ニ至レリ紡績側出席者左ノ通

庄司乙吉(東洋紡社長) 關 桂三(東洋紡專務)

津田信吾(鐘紡社長) 三宅郷太(鐘紡常務)

堀 文平(明正紡社長)

倉田敬三(大日本紡常務) 三村和義(大日本紡常務)

笹岡茂七(倉敷紡)

加藤正人(錦華紡社長)

ハ統制上面白カラストノ意見ヲ有シ居リ例ヘハ山東棉花改良協會ノ種子配給ノ如キモ種子ノ不統一ヲ結果ストノ不平ヲ有シ居タリ

答「本協會ハ冀東地區ニ於テハ冀東政府ト密接ナル連絡ヲ遂ケ右地區以外ニ於テモ支那側既存機關トノ連絡ヲ圖リ度現ニ棉花公司ハ出資支那資本ニ付優遇ノ途ヲ講シ居レリ今般訪支ノ際棉花ノ改良増産ヲ對象トセル日支間ノ具體的話合取纏マリタリヤ」

(庄司氏)「日支紡績業者ノ共同ノ利害ヲ増進ノ爲夫々共同委員會ヲ設立スルコトニ申合セ右ノ組織ハ船津李昇伯兩氏ニ一任セリ」

問「山東省ハ棉花公司ノ活動地域中ニ入ルヤ」

答「入ル」

問「棉花公司ハ冀東地區ニテ事業ヲ行フヤ」

答「冀東地區ニ於テハ原則トシテ華北協會カ合作社ノ設立ヲ助成シ棉花ノ改良増産ヲ結果セシムルコトトナルヘキモ全然棉花公司ノ活動範圍外ナルニハ非ス公司ハ同地域内ニ於テ金融ヲ行フ」

問「客年外務省ノ改良増産案ナルモノ出テ東亞局長ノ御

説明アリタルカ當時ハ外務、拓務兩省ノ計畫間ニ十分ノ連絡ナカリシ模様ナル處拓務案ハ如何ナリタリヤ」

答「拓務省本年度豫算ハ認メラレサリキ將來拓務省ニ於テ本件ニ付豫算ヲ計上セハ右ヲ本協會ノ強化ニ使用スルコト適當ナルヘシト思考ス」

問「政府ハ本協會ノ設立ニ付何ノ程度ノ財政的援助ヲ與ヘラルル方針ナリヤ文化事業部ヨリモ本件ニ關聯シ若干ノ支出ヲナシ居レリト承知シ居ル處如何」

答「御支援ニ依リ協會設立セラレタル曉ハ政府ニ於テモ適當援助方考慮スヘシト信ス文化事業部ヨリハ本年度新設セラルヘキ北支棉花協會ニ對シ補助金十二萬八千圓ヲ支出ノ筈、尙華北協會ハ民間機關トシテ設立シ政府力直接北支棉花ノ改良増産策ニ干涉スルカ如キ形ハ出來得ル限り之ヲ避ケ度」

問「基本財産四百八十萬圓ノ運用利子程度ニテハ到底思ヒ切リタル事業ハ行ヒ得サルヘク場合ニ依リテハ基金ヲ崩シテ徹底のニ工作ヲ遂行スルノ要アルヘシ右方法ニ依リ失敗セハ諦ムヘシ成功ノ上ハ更ニ四五百萬圓程度ヲ集ムルコトハ容易ナルヘシト思考ス」

問「本公司ノ事業ハ廣汎ニテ此ノ程度ノ資本ヲ以テシテハソノ職能ヲ十分ニ果シ得サルコトアルヘキニ拘ラス統制ヲ認ムルハ弊害アルヘシ」

答「御説ノ如クニ豐富ニ事業ヲ誘出シ得ハ誠ニ結構ナリ又ソノ際ハ増資ト云フ方法モアルヘシ」

元來本會合ハ池田參謀ノ講話聽取ヲ目的トセルモノナリシ爲本官力棉花問題ヲ擔キ出シ寄附ヲ要請セル爲津田氏以外ハ不意ヲ打タレタルカ如キ形ナリシカ何レモ謹聽シ質問振モ極メテ熱心ナリキ質疑應答終リタル後庄司氏ヨリ十分研究ノ上何分ノ挨拶ヲ致シ度専門家ヲシテ細目ニ付審議セシムル都合モアリ今暫ク高橋囑託ノ滯阪ヲ望ム旨述ヘ當方右ニ應セリ

尙本會合後晚餐ノ席上庄司氏ニ代レル津田氏カソノ挨拶中北支棉花ノ改良増産ハ寧ろ業者ニ於テ率先之ヲ行フヘキモノナル旨ヲ述ヘタル上本計畫ニ贊意ヲ表セルコトハ注意ニ値セリ

要之津田氏ノ眞意竝ニ津田氏ト他ノ業者トノ關係等ニ付テハ未タ疑問ノ點ハアルモ紡績側ハ無碍ニ本提案ヲ斷リ兼ヌルニ非サト認メラル何レニスルモ次ハ紡績側ノ打

答「同感ナリ現地ニ於テハ寄附セラルル側ノ立場ヲ考慮シ運用利子ニ依ル事業ノ實施方立案セルニスキス」

(此ノ點ヲ津田氏ノ外數氏力強調セルハ多少意外ノ感アリタリ)

(庄司氏意見)「運用利子ニテ事業ヲ行ハントスル計畫ナルニ於テハ五百萬圓ノ寄附ヲ出セト言ハルルヨリモ寧ろ年々右運用利子ニ相當スル額ヲ寄附セヨト言ハルル方紡績側ニトリ引受易シト思考ス」

問「棉花公司カ流通方面ニ全然關與シ居ラサルハ徹底ヲ缺ク憾アルニ非スヤ」

答「業者ノ御希望モアリ立案者ニ於テ同公司ヲシテ流通方面ニ關與セシムルコトヲ避ケタルモノト了解ス」

問「棉花公司ハ獨占機關ナリヤ」

答「獨占ハ語弊アルモ大體左様ノコトナルヘシ蓋シ從來我方ノ對北支棉花改良増産ノ措置ハ個々別々ニ行ハレ相互間ニ連絡少ナカリシノミナラス時ニソノ效果ノ相殺サルル憾モアリタル爲之ヲ統一のニ實施スル目的ヲ以テ本協會並ニ公司ヲ設立セントスルモノナレハ本機關成立ノ上ハ我方同種機關ノ濫立ハ之ヲ避ケ度」

手ヲ待ツコト順序ナルヘシ

ニ、本邦紡績ノ對支進出ニ關スル件

右ニ付紡績側意向ヲ尋ネタルカ或ハ既ニ相當進出セル會社アリ今後進出方計畫中ノモノアリ又ハ在支資金ヲ有スルト有セサルトアリ聯合會トシテノ決定的意見ハ表示ニ困難ナル模様ナルモ大藏省ノ爲替管理ノ嚴格ナルコトハ商取引ヲ阻害スルコト甚シト云フニハ略一致シ居レリ又無爲替輸出ニ付大藏省ニテ引ツ懸レル旨述ヘ居タル者アル處右ニ付テハ更ニ適當ノ機會ニ同省側ノ注意ヲ喚起スルコトト致シ度

三、麻絲紡績機械賣込ノ件

本件ニ關シテハ二日津田社長ニ好意的ニ考慮アリ度キ旨申入レ置キタルカ更ニ三日神戸鐘紡工場ニ於テ同氏、三宅專務、石津技師(本邦麻絲紡績界ノ權威ナル由)ト會見ノ上再應説得セルモ鐘紡京都支店ハ絹糸紡績工場ニテ極メテ小規模ノラミー糸ノ紡出試験ヲ行ヘル程度ニテ希望ニ副ヒ難ク又工場設計モ専門業者ニ依頼スル方適當ナルヘシトノ趣旨ニテ引受困難ナル旨答ヘタリ尙津田氏ハ現在ノ支那側對日態度ヲ云爲シテ政治的理由ヨリ本件ニハ

氣乗薄ナル旨並ニ安宅カ機械ヲ賣リ込ム以上同社カ奔走シテ工場設計等ニ付面倒ヲ見ルカ當然ニテ鐘紡ハ安宅ヨリ話シモナク全然右機械ヲ承知セサル實狀ナル一方本紡績ニ關スル經驗前述ノ如ク余リ深カラサル次第ナレハ工場設計等ノ大責任ヲ負フコトハ何トシテモ困難ナリ尤モ折角商務官ヨリノ申出ニモアリ同社ヨリ廣島麻糸紡績及關西ラミーノ兩社ニ本條件ヲ受諾方口添ヘセルモ何レモ軍需品工場ニテ支那人職工ハ容レ得サル旨ヲ述ヘ婉曲ニ拒絕越セリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ津田氏ノ政治的見解ハ兎モ角我國カ對支重工工業品ノ賣込ニ於テ著シク英米獨等ニ比シ立遅レノ現狀ニアル事實ヲ認メラレ大局の見地ヨリ本賣込ノ成立ニ盡力アリ度旨重ネテ申入レ結局同社長モ鐘紡京都工場ハ右ノ如キ規模ナルモ支那側ニテ差支ナシト云フナラハ職工數名位ハ御引受致スヘシ但工場ノ設計若ハ指導員ノ現地派遣迄ハ御引受致シ兼ヌ尤モ石津技師ヨリ支那側ニ對シ此等ノ點ニ關シテモ及フ限リ「アドヴァイス」ヲ與フル様致スヘシト答ヘタリ

三月卅一日鐘紡カ岩井商務官ヨリ接受セル電報ニ依レハ同商務官ハ鐘紡ニ於テ引受困難ナラハ(一)技術者二三名ノ

第一七四號

當業者ヨリ聞ク所ニ依レハ爲替管理法ノ強化ニ伴フ棉花ノ輸入許可ハ之ヲ紡績業者ニ割當ツルカ棉花商ニ割當ツルカニ付研究中ニシテ目下ハ過渡的辦法トシテ過去二箇年間ノ平均取扱量ニ基キ各棉花商ニ米棉、印棉、支那棉等ヲ區別割當テ居ルヤノ趣ナル處斯テハ支那棉ノ對日輸出ハ増産改良計畫モ進捗セス且比較的不作ナリシ過去二箇年ノ平均量(三、四十萬擔程度)而モ一昨年迄ハ當方面ヨリハ專ラ薄團綿ノミ輸出セラレ紡績綿ノ輸出セラレタルハ昨年來ノコトナリ(ニ制限セラレテ客年ノ豐作ニ依リ三百五十萬擔ト稱セラル本年ノ輸出可能數量ヲ消化シ得サル結果トナルヘキハ勿論本邦トシテハ漸次支那棉ノ使用ニ慣レ來レル本邦紡績ニ對シ割安ノ支那棉(大阪渡ニテ米棉トノ開キ八圓前後臺ヲ供給シ得サルコトナリテ對外收支改良ノ趣旨ニモ反スル結果トナルヘキ又當方面ニ於テハ日支共存共榮ノ典型的事例トシテ折角我方ノ腰ヲ入レ居ル棉花改良増産工作ヲ全く無意義ナラシムルモノト言フモ過言ニアラサルヘシ

天津 4月5日發
本省 4月5日後着

養成(二)操業指導ニ付適當ノ麻糸紡績工場ノ承諾スル様鐘紡ノ幹旋ヲ得度シトノコトナルカ廣島麻糸紡モ關西「ラミー」紡モ支那トハ余リ關係ナキ小會社ノ模様ニモアリ將來ノ競争相手トナルヘキ工場ニ他商社ノ賣込メル機械ヲ据付ケ且操業ヲ指導スルカ如キ犧牲ヲ大局的見地ヨリ支拂フヘシトモ思ハレサルニ付支那側ヲシテ差當リ津田氏ノ右引受ヲ以テ満足セシメ職工來邦ノコトトモナラハソノ際工場設計等ニ付鐘紡等ノ助言ヲ受ケ得ル様改メテ當方ヨリ幹旋スルコトトシ本商談ヲ取り纏ムルコトト致シ度尙支那側條件中「操業ノ指導」ハ電文簡ニシテ不明ナルモ本邦技術者ノ現地指導ヲ含ムヘキヤニ解セラル處此ノ點確メヲ要ス

276 昭和12年4月5日 在天津堀内總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

為替管理の強化に伴う棉花輸入許可の割當制は中國棉の対日輸出を制限しわが方改良増産計画に影響あるので改善方意見具申

素ヨリ前記過渡的辦法ハ全ク一時的ノモノニテ將來ノ割當方法等ニ付テハ商工省、大藏省等ニ於テ研究中トハ存スルモ目下ノ辦法ヲ速ニ改正スルニアラサレハ差當リノ棉花輸出(從來ヨリノ薄團綿輸出及本年特ニ増加スヘキ紡績綿ノ輸出)ニ支障ヲ來タスノミナラス將來ノ割當方法ノ如何ニ依リテハ當方面ニ於ケル棉花改良増産計畫及農村耕作全般ニモ影響スル處大ナルヘキヲ以テ外務省トシテモ本件篤ト御研究ノ上寧ロ積極的ニ支那棉ノ輸入ヲ増加シ以テ支那ノ購買力増進及對支輸出貿易ノ振興ヲ圖ル様大至急關係省ト接洽方御配慮相煩シ度シ

尙當地邦人棉花輸出業組合ハ本件ニ關シ三日會合ヲ開キ當館ニ請願書ヲ提出スルト共ニ(郵送ス)商工、大藏關係局長ニ電報ヲ以テ請願セル趣ナリ

支、上海、北平、青島、濟南へ轉電セリ

277 昭和12年4月6日 在中国川越大使より 佐藤外務大臣宛(電報)

全国經濟委員會が中國建設銀公司等と資本提携し紡績工場新設を計画中との報道報告

南京 4月6日後発
本省 4月6日夜着

第二四二號

五日當地ノ新聞ハ最近全國經濟委員會ニ於テ經濟建設總會及中國建設銀公司ト聯合ノ上資本金約一千萬元ヲ以テ細番手紡績工場ヲ設クルコトニ決定シ既ニ其ノ準備ニ着手シ經理トシテ高惜氷内定シ居ル旨報道シ居ル處六日館員ヲシテ經濟委員會奏。祕書長ニ質サシメタル處奏ハ右報道ハ自分モ之ヲ見テ愕キタル程ニテ經濟委員會ニ於テハ全然關知セス又上海ノ綿業統制委員會ニ於テ關係シ居ルモノトセハ當方ニテモ承知シ居ルヘキ筈ナル處未タ斯ル話ヲ耳ニセサル點ヨリ察スルニ若シ有リトスルモ全然別ノ方面ニテ計畫シ居ルモノナルヘシト語リタル趣ナリ

上海、北平、天津、青島へ轉電セリ

278 昭和12年4月22日

佐藤外務大臣より
在天津堀内総領事宛(電報)

わが方による華北棉花改良増産計画の重要性
に鑑み対日輸出に支障なきよう輸入割当額を

考慮するとの大蔵省回答について

本省 4月22日後7時発

第一三八號

貴電第一七四號及第一八二號ニ關シ棉花ノ輸入ニ付テハ大蔵省ニ於テ關係省ト協議ノ上決定シタル各輸入商社別割當額ノ範圍内ニテ爲替ヲ許可シ居リ右割當額ハ印棉米棉等ノ產地別區分ニ依ラズ各商社ノ輸入總量ニ付基準ヲ設ケタルモノナル處大蔵省ニ於テモ北支棉花改良増産計畫ノ重要性ニ鑑ミ其輸入ニ成ルヘク障礙ヲ生ゼシメザル様充分考慮シ居レリ

支、上海、北平、青島、濟南ニ暗送アリタシ

279 昭和12年4月26日

在天津堀内総領事より
佐藤外務大臣宛(電報)

華北棉の対日輸出は前年比倍増が見込まれる
ので輸入割当の対象外となるよう關係方面と
協議調整方意見具申

天津 4月26日後発
本省 4月26日夜着

第二二九號

貴電第一三八號ニ關シ

内外棉、東棉ノ如キ各地ニ支店ヲ有スル大手筋ハ從來ノ取引關係其ノ他ノ事情ニ依リ印棉、米棉ノ買付ヲ有利トシ比較的競争者多キ支那市場ニテ小口買付ヲ爲スヲ好マサル傾向アルヤノ趣ニモアリ旁各商社ノ輸入總量ニ依ル割當ヲ行ヒ產地別ノ制限ヲ設ケストスルモ大手筋ハ割當量ノ大部分ヲ印棉、米棉ニ用ヒ比較的小口取引多キ(從テ主トシテ疎筋ノ取扱ヒ居ル)支那棉ノ買付ヲ制限スル結果トナル惧アリ從テ右ノ制度ニ依ル昨年度ニ比シ略倍額トナルヘキ支那棉ノ本邦向ケ輸出ノ手當ヲ爲スコトハ不可能ト存セラルルニ付是等ノ點モ充分御考慮ノ上例ヘハ北支棉花ハ之ヲ全然割當外トスル等ノ方法ニ依リ且本年度ハ昨年度ニ比シ多額ノ輸入ヲ爲シ得ル様關係方面指導方此ノ上トモ御配慮ヲ請フ

支、上海、北平、青島、濟南へ轉電セリ

二 日中諸案件交渉

280 昭和12年5月8日

佐藤外務大臣より
在天津堀内総領事宛(電報)

第一五一號
貴電第二二九號ニ關シ關係省熟議ノ結果本年度分棉花輸入爲替割當基準ハ產地別ニ依ラズ商社別ニテ決定シ居ルニモ鑑ミ此際北支棉ヲ割當外トスル餘地ナキニ付大蔵省ニ於テ實際ノ取扱ニ當リ手心ヲ加ヘ瀛華洋行ノ如ク主トシテ北支棉ヲ輸入シ居ル商社ニ對シテハ爲替ヲ實績ヨリモ多ク許可スルコトトシ來年度ノ割當基準決定ニ當リテハ北支棉輸入促進ノ爲適當ノ方法ヲ考究スルコトニ大体意見ノ一致ヲ見タリ右貴官限りノ御含ミ迄

支、上海、北平、青島、濟南ニ暗送アリタシ

281 昭和12年5月8日

佐藤外務大臣より
在中國川越大使、在上海岡本総領事、
在漢口三浦総領事宛(電報)

中国政府による漢冶萍公司国有化の動きとも
とれる情報入手につき事実関係探査方訓令

付記 昭和十二年三月二十五日付土肥(顓)南滿州鉄

道株式会社上海事務所長より在中国川越大使

宛書簡

製鉄業より見た日中提携の必要性に関する意

見具申

本省 5月8日後4時30分発

合第二八二號

支那政府ノ漢冶萍國有計畫ニ對シテハ隨時我方ヨリ抗議シ
斷念セシメ來リタル經緯アルハ御承知ノ通りナル處(大正
四年五月二十五日日支交換公文參照)目下滯京中ナル盛。毓
常(盛宣懷ノ孫)カ同人ニ隨行シ來レル奥田齒科醫ヲ通シ情
報部長ニ内報越セル處ニ依レハ最近盛ニ對シ頻リニ持株一
部ノ手放方申出來ル向アリ或ハ南京政府ニ於テ市場ニ散在
シ居ル本公司株式ノ買収ト併セテ盛一派ノ持株ヲ買進ミ居
ルニ非サヤトモ觀測セラルル趣ナルニ就テハ事實御内查ノ
上回報相成度尙奥田及盛ハ約一ヶ月滯京ノ上歸滬ノ筈ナル
由

本電宛先 支、上海、漢口
長沙、九江ニ轉電セリ

(付記)

昭和十二年三月二十五日

南滿州鐵道株式會社

上海事務所長

土肥 顓

在中華民國

日本帝國特命全權大使 川越 茂殿

別紙ノ趣旨ニヨリ支那側ト折衝ヲ開始仕度ニ付御諒解御支
援ヲ仰ク。

(別紙)

製鐵業ヨリ見た日支提携ノ必要性

昭和十二年三月二十日

滿鐵上海事務所

數年來復興漸ク其緒ニ就イタカニ見ヘタ支那ハ、最近俄カ
ニ躍進ヲ初メ、鐵道建設其他ノ龐大ナル諸計畫カ着々實行
ニ移サレントシ、歐米諸國ハ爭ツテ之ニ協力シナカラ、各

二 日中諸案件交渉

自國商權ノ擴張ニ狂奔シツツアリ。然ルニ此現狀ヲ目前ニ
控ヘナカラ、隣國ノ日本人カ、恰モ之ヲ袖手傍觀シ、空シ
ク好機ヲ逸セントスルハ誠ニ遺憾千万テアル。此際我々ハ
手段方法ヲ盡シ、此行詰リヲ打開シ、アラユル方面カラ喰
込、提携ヲ策セネハナラヌノテアルカ、差當リ兩國相方ニ
トリテ、最モ必要性ノ大ナル、可能性ノ多キ事業ヲ擧クレ
ハ、先ツ指ヲ製鐵業ニ屈セサルヲ得ナイ。
國防上必要トサルル日本ノ製鐵業大擴張ト、新建設ニ最モ
必要ナル重工業ノ基礎タルヘキ支那ノ製鐵業ノ創設ハ、孰
レモ焦眉ノ急ニ迫ラレテ居ルノテアルカ、之ニ對スル兩國
ノ狀態ヲ見ルト

「日本」

テ第一ニ問題トナツテ居ルノハ鐵鑛石ノ供給テアル。

現在ノ増產計畫テハ日鐵及「アウトサイダー」ノ本年鑛石
需要量ハ四百万屯テ、明十三年以降四年間ハ年々二百万屯
宛遞増シ十六年ニハ千二百万屯(猶不足テアロト見ラレ
テ居ル)ヲ要スルコトニナツテ居ル

此ル大量ノ鑛石ヲ何處ニ求ムヘキヤカ問題テ、當事者間ニ
モ未タ適確ナル目當カナク、其日暮のナ甚タ心細キ實情ニ

アル。現在ハ

(一)内地朝鮮 八〇万屯

(二)揚子江筋 一〇五〃

(三)南洋各地 二〇〇〃

テ辛フシテ間ニ合ハセテ居ルノテアルカ、將來ノ計畫トシ
テハ

(四)龍煙、滿洲各地

(五)茂山、朝鮮各地

(六)内地貧鑛處理

等テアルカ、此内最モ有望ナルハ(二)ノ増產テ、他ハ皆條件
カ速ク之ニ及ハナイ。

揚子江筋ニハ既ニ調査済ノ鐵山十五六(内開發サレテ居ル
ハ五ヶ處)モアリ、六十%内外ノ富鑛殆ト無盡藏ト言ハレ、
皆江岸ニ近ク、運賃力安ク、現在日鐵ノ八幡着買付値ハ八
圓見當(大冶(F、Q、B)六元船ハ日鐵持)ト言フ低廉サテ
アル。

之ニ引替ヘ、現ニ日鐵カ最モ力ヲ注イテ居ル南洋各地ハ運
賃ノ關係テ安クテモ八幡引付ケ屯十一圓、現在テハ十三圓
以上ニモ付クヘシ。其他、(四)ノ龍煙ニシテモ滿洲各地ニシ

テモ鐵道運賃力高ク、(四)ノ茂山ハ三十%ト言フ貧鐵テ、又(六)ノ内地ノ貧鐵處理モ急ニ採算點ニ達スル望ミナク、孰レモ一層不利ナリト言フコトニナル。

然ルニ、日支關係行詰ノ爲メ、不得已シテ此利便ナル揚子江筋ヲ除外シタル、採算無視ノ基礎ノ上ニ立テラレツアルト言フノカ、日本鐵國策ノ實情テアル。如此ハ一日モ早ク修正サルヘキモノテアル。又之ヲ一面

「支那」

カラ見ルト、日本ニ對シテハ例ノ抗日排日テ、僅々二萬噸足ラステ問題ニモナラナイ筈ノ「スクラップ」輸出ヲ禁止シタリ、又最近ニハ揚子江筋ノ鐵礦石輸出數量ヲ百五萬噸ニ制限スルト云フ、前例ナキ命令(此内ノ漢冶萍公司ノ對日鐵礦石供給量ニ迄五十一噸ト云フ制限ヲ付シタルハ明ニ條約無視テアル)ヲ發シタリ。又最近浙贛鐵路公司ハ所要五十磅「レール」三萬余噸購入ニ際シ獨乙會社 The Vipovrice Mine Steel & Ironworks Corporation 百九十六元滿鐵百三十三元(代金ハケ年賦拂等條件皆同一)ト云フ非常ナ開キアル兩指値ヲ握リナカラ時局顧慮ノ結果、遂ニ公司ト締約シ、見ス見ス高價品ヲ買入(勿論鐵道部ノ指圖)シテ

先驅トモナリ、且國交調整促進上ノ效果亦不少ルヘシ。

製造所建設ノ具體案トシテハ漢冶萍復興ナトモ日本側テ希望スル一案ナルヘキモ、別ニ新設スルヲ可トスルヤ否ヤ等ハ技術的研究ニ待ツカ適當ナルヘク又實際折衝ノ上支那側ノ希望モ十分容レ公平ナル研究ヲ必要トスヘシ。 以上

~~~~~

282 昭和12年5月14日 在上海岡本總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

中国政府による漢冶萍公司株式買収の動きは  
認められない旨報告

上海 5月14日後発  
本省 5月14日夜着

第二四六號

貴電合第二八二號ニ關シ(南京政府ノ漢冶萍株式買収説ノ件)

鐵價暴騰ニ伴ヒ日支人側ニ於テ漢冶萍ニ投資シ或ハ同公司ヨリ委任經營ヲ受ケ大冶若ハ漢陽ノ熔鐵爐ニ火入シ度キ計畫アル一方公司自身ニモ其ノ腹案アリ曩ニ盛恩。願ヨリ翁文瀾ニ對シ大冶ノ分一基ヲ動カシ銑鐵ノ一部ハ輸出シ度キニ

居ル。如此關係ハ一日モ早く打開サレネハナラヌ。其レト同時ニ支那自体トシテハ自國內ニ於ケル製鐵所建設ニ對シテハ相當熱意ヲ有シ、四年前既ニ時ノ實業部長陳公博對獨逸代表「オットウエトマイヤー」間ニ具體的協議力進行シ假契約迄締結(位置馬鞍山、建設資金三千萬円)サレタル事アリ、近クハ昨年中日實業ノ筋ニテ孔財政部長對江藤豐二間ニ折衝サレタル事アリ。之ハ支那ノ新建設力進ムニ連レ當然起ルヘキ問題テ漸次其急要カ認メラレツツアリ、差當リ需要ノ激増シツツアル鐵道「レール」ノ如キニシテモ之ヲ歐米ニ仰キ、現ニ二百元近キ高價ヲ拂フテ居ルノテアルカ、之ヲ自國內テ製造スレハ半値以下ノ約九十元程度テ出來ル事ハ、支那側ニ於テモ百モ承知ノ爲メテアル。

此際右兩國ノ必要ヲ結付ケ

「日本」ヨリハ製鐵所建設ニ要スル材料及技術ヲ供給(借款其他適當ナ方法テ)シ其交換ニ「支那」カラハ鐵礦石相當數量(年二三百萬噸)相當年間(二十ヶ年位)ヲ供給スル(之レ位ノ事ハ支那トシテハ何テモナイ事テ、却テ内地開發ノ爲メテ無害有益ナリ)

事ヲ得レハ、兩國ノ利益ハ云フ迄モ無ク、兩國經濟提携ノ

付幹旋方ヲ頼ミタルニ對シ翁ハ製鋼迄遣ツテ見テハ如何ト注意シタル由ニテ公司側ニ於テハ不取敢日鐵ヨリ「コークス」ノ供給ヲ受クルト共ニ銑鐵ヲ得ル案ニテ爾來折衝中ナルモ値段ノ引合纏マラス又國民政府ノ意嚮モ前記翁ノ意見以上ニハ判然セサル爲メ未タ實現ニ至ラサル處(詳細會欄ヨリ聴取アリタシ)公司側大野ノ談ニ依レハ最近是等話ヲ聞嚙レル日支人ト思ハレル者カ散。在株ノ買収ヲ爲ス者多少アル(從來五十圓株ニ弗ナリシモノニ、四弗トナレリ)由聞ケルモ取引所ニ上場ナキ株ナルニ付左シタル數ニモアラサルヘク又恩顧等ハ株ノ手放方ニ付何レノ方面ヨリモ交渉ヲ受ケタルコト絶對ナキ趣ナリ尙張祥麟カ最近委任經營案ニ付實業部ノ意嚮ヲ確カメタル處同部ニ於テハ將來公司ヲ國營トスル案アル旨聞カサレタルカ未タ政府ハ株ノ買占ニ乗出シタルコトナシトノ情報モアル處一方毓。常ハ相當ノ浪費者ニテ賣リ食ヒノ種ナクナリ伯父ナル恩顧ニ借金ヲ申入レタルモ撥付ケラレ或ハ日本内地ニテ株ヲ賣ル爲自ラ斯ル噂ヲ播キ居ルニアラスヤトノ觀測モアリ當方ニテモ引續キ取調フヘキモ一應毓常ニ就キ眞相御問合ノ上當方參考迄御回電アリ度シ

支、漢口へ轉電セリ

283 昭和12年5月24日 在上海岡本総領事より  
佐藤外務大臣宛(電報)

中国政府国防資源委員会が大冶溶鉱炉の直営  
化を進めているとの情報について

上海 5月24日後発  
本省 5月24日夜着

第二八三號

往電第二四六號ニ關シ

中日ノ探リシ情報ニ依レハ株式買占ニ付テハ何等聞ク所ナ  
キ處漢冶萍ノ直經營ノ件ハ最近情勢一變シテ南京政府國防  
資源委員會ニテ大冶ノ七鑛爐ヲ經營スル話出テ既ニ右資金  
三百萬元ノ融通方農民銀行ニ交渉アリタルモ銀行側ハ貸出  
條件及手續ニ異見アリ未タ具體化セサル由(交通部カ招商  
局ヲ國營ニ移シタル故智ニ倣ハントスルモノノ如シ)  
支、漢口へ轉電セリ

284 昭和12年5月26日 在中国日高臨時代理大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

日本側よりの対中借款供与提案に対する汪兆  
銘の極めて消極的な反応について

南京 5月26日後発  
本省 5月26日夜着

第三五七號(極秘、部外秘)

東亞興業内田専務ハ本月上旬來寧各方面ト接觸ノ上二十六  
日離寧シタルカ出發ニ先立チ本官ヲ來訪内話ノ要領左ノ通  
リ右ハ内田歸京ノ上委細閣下ニ報告致スコトハ存スルモ  
不取敢  
内田ヨリ汪兆銘ニ對シ我方ヨリ支那側ニ對シ相當額ノ借款  
ヲ供與シ乃至建設材料ヲ提供スル案ヲ持出シ(右案ニ關シ  
テハ内田ハ閣下及結城藏相ノ了解ヲ得タリト稱ス)右ハ當  
ニ支那ノ建設事業ヲ促進スルノミナラス日支國交改善上モ  
有益ナルヘキニ付大局の見地ヨリ篤ト考慮セラレ支那側ヨ  
リノ自發的措置トシテ何分ノ申出アランコトヲ期待シ居ル  
モノナル旨述ヘタル處汪ハ考慮ヲ約シタリ

最近汪ノ求メニ依リ會見シタル處汪ハ先般ノ御話ハ仲々面

## 二 日中諸案件交渉

白キモ何分北支問題カ現在ノ狀態ヲ持續スル限り此ノ種借  
款談ハ未タ其ノ機運ニアラスト認ムトノ意見ヲ述ヘタルニ  
依リ内田ヨリ再ヒ此ノ種案ニ付支那側ヨリ進ンテ申出テ之  
ニ日本側カ「ミート」スルカ如キ措置カ日支國交調整上極  
メテ有効ナル次第ヲ力説シタルニ對シ汪ハ自分カ從來日本  
側ヨリ「レシプロケイト」セラルルコトヲ期待シテ國交改  
善ノ爲ニ執リタル措置カ悉ク期待ニ外レ苦境ニ陥リタル經  
緯ヲ縷説シタル由ニテ汪ノ態度ハ内田カ前回來支ノ際ニ比  
シ餘程消極的ナルヤニ見受ケラレタル趣ナリ尤モ汪ハ内田  
ニ對シ本件提議ハ張鐵道部長等ヲシテ充分研究セシムヘキ  
コトヲ約シタル由

尙内田ハ汪トノ第二回會見前吳實業部長ト會談シ本件ヲ持  
出シ見タル處既ニ汪ヨリ話アリタルモノノ如ク其ノ應酬振  
ハ汪ト大同小異ニシテ尙吳ハ日本側カ北支ニ付テハ何等南  
京側ニ相談セス都合ノ好キコトノミ南京ニ話ヲ持掛ケラル  
ル様ノコトハ困ルトノ趣旨ヲ述ヘタル由ナリ  
上海、北平、天津へ轉電セリ

285 昭和12年6月8日 在中国日高臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

わが国対中經濟發展のためには対中資本導入  
の態勢整備が肝要の意見具申

南京 6月8日後発  
本省 6月8日夜着

第三九八號(極秘)

上海發電報第三二六號ニ關シ

同電ノ趣旨ハ當方ニ於テモ全然同感ニシテ現在支那カ經濟  
建設ニ對スル熱意ヲ高メ相當ノ自信ヲ抱キ來レル次第ニ付  
テハ上海發電報第二八一號ヲ以テ申進メ置キタル處右經濟  
建設ニ必要ナル各種ノ材料殊ニ重工業生産品ハ當分ノ間外  
國ヨリ供給ヲ仰クノ外ナキコト支那識者ノ自認スル所ナル  
モ一面彼等ハ日支經濟提携ノ掛聲ニ關シ日本カ現在ノ情勢  
ニ於テ果シテ對支經濟援助乃至進出ノ餘力ヲ有スルヤ否ヤ  
ヲ密ニ疑ヒ之カ轉シテ一種ノ毎日の感情ノ暗流トナリ居ル  
コト否ムヘカラス且右ハ在支外國人ニモ共通スル印象ナル  
カ如ク現ニ本官先般上海ニ於テ「ビール」ト會談ノ際「ビ」  
ハ頻リニ此ノ點ヲ確メンカ爲種々ノ質問ヲ發シ上海發貴大

臣宛電報第三三八號末段「カークパトリック」ノ口吻モ亦同様ノ響ヲ傳ヘタル有様ナリ從テ我方ニ於テハ此ノ際苟モ彼等ノ疑念ヲ裏書シ將來永ク我對支經濟發展ノ障礙トナルカ如キコトヲ慎ムト共ニ進ンテ對支建設材料供給等ニ關スル方針ヲ確定シ何時ニテモ支那ノ要望アラハ應シ得ルカ如キ態勢ヲ整ヘ以テ我カ實力ヲ感得セシムルコト肝要ナルヘシ(往電第三五七號内田ノ申入ノ如キモ此ノ意味ニ於テ有意義ナルヘシト思考シ居レリ)

素ヨリ本省ニ於カレテハ這般ノ事情充分御考慮ノコトトハ存スルモ冒頭上海發電報稟請ノ趣旨實現方御配慮相成様希望ニ耐ヘス

上海ヘ轉電セリ

286 昭和12年6月24日 在天津堀内總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国側の自国紡績業確立政策進展に鑑み在中国邦人紡績業の生産力拡充は急務であり投資限度を緩和すべき旨意見具申

付記 昭和十二年五月十三日付、通商局総務課作成

第二一八號爲替問題ノ項参照)ハ逐日熾烈トナリ居ル次第ナレハ

今ニシテ日本紡績ノ進出ニ滯滞ヲ來タサハ奥地ニ於ケル綿製品需要ハ完全ニ是等新設支那人紡績ニ依リテ把握セラレ邦人紡績製品力入込ム餘地ナキニ至ル惧アリ且中國建設銀公司カ英國資本ト提携ノ上奥地棉産地方數箇所ニ大規模ナル紡績工場設立計畫ヲ有ス等ノ噂ノ外前記支那側ノ新設工場ノ使用機械カ大部分歐米品ヲ手當セラレ居ル等ノ事情モアルニ依リ此ノ際日本人紡績トシテハ可及的速ニ生産力ノ擴充ヲ急キテ奥地市場ニ於ケル商標ノ賣込、地盤ノ獲得等支配權ヲ確立シ以テ支那側工場設立計畫ニ先手ヲ打ツ必要アリト思考セラル

往電第一四二號末段及往電第二一八號補足旁不取敢支、上海、北平、青島、濟南ヘ轉電セリ

(付記)

昭和十二年五月十三日

北支棉輸入爲替割當増加方及邦人紡績北支投資統制限度ニ關スル關係省打合會議事録

「北支棉輸入爲替割當増加方及邦人紡績北支投資統制限度ニ關スル關係省打合會議事録」

天津 6月24日後発  
本省 6月24日後着

第三六〇號

上村書記官ニ御託送アリタル邦人紡績統制限度ニ關スル打合會議議事録ニ依レハ關係方面ニ於テハ支那側紡績ノ擴張ヲ比較的樂觀シ居ラルル模様ナル處本件ニ付テハ五月十二日附往信機密第五〇號ヲ以テ報告セル通り支那側ニテハ中國銀行ノ河南省彰德ニ於ケル紡機五萬錘、織機一千台、誠孚信託公司ノ四川省重慶ニ於ケル紡機三萬錘、織機一千台、金城銀行及民生公司合同經營ノ四川省(敷地未定)ニ於ケル資本金三百五十萬元、湖南省官民合同經營ノ常德ニ於ケル資本金三百五十萬元ノ各紡績工場新設計畫及濟南ニ於ケル仁豐紡績ノ紡機一萬五千錘、織機五百台、陝西省西安ニ於ケル大華紡績ノ紡機三萬錘、織機一千台ノ各増設計畫ヲ有スル外其ノ後ノ情報ニ依レハ河北省政府力保定ニ資本金三百萬元、浙江省政府力餘姚ニ紡機五萬錘ノ紡績工場新設計畫ヲ發表スル等支那側ノ奥地自國綿業確立工作(往電

通商局總務課

北支棉ノ輸入促進及邦人紡績ノ北支投資爲替許可方ニ關シテハ豫テ在天津堀内總領事ヨリ屢次本省ニ稟申ノ次第アリタルガ右ニ對スル政府ノ根本方針決定ニ資スル爲先ヅ關係省係官ノ間ニ意見ノ交換ヲ行ヒ熟議ヲ遂ゲ置クノ必要ヲ認メ昭和十二年五月五日本省ニ關係省係官ノ參集ヲ求メ打合會ヲ開催シタルガ其議事概要左ノ通ナリ

出席者

|           |         |
|-----------|---------|
| 大藏省爲替局    | 松山 總務課長 |
| 商工省工務局    | 野田 事務官  |
|           | 本郷 工政課長 |
| 美濃部 工務課長  |         |
| 山本 事務官    |         |
| 妹川 貿易課長   |         |
| 石田 大阪事務所長 |         |
| 畠中 事務官    |         |
| 井口 第五課長   |         |
| 朝海 事務官    |         |
| 小林 總務課長   |         |
| 外務省調査部    |         |
| 東亞局       |         |
| 通商局       |         |

議 事

(小林)

爲替管理法ノ強化ニ伴ヒ棉花輸入ニ付テハ大藏省ニ於テ輸入商社ノ最近二年間ノ輸入実績ニ依ル爲替許可基準ヲ決定シ之ニ基キテ棉花輸入爲替ヲ許可シ居ル爲本年ハ昨年度ニ比シ倍額ノ輸出可能量ヲ有スル北支棉ノ本邦向ケ輸出ハ困難トナレル處斯クテハ折角ノ北支經濟工作ニ障礙ヲ生ズルノ惧アリ頗ル遺憾ナリ此際政府ニ於テ北支棉ノ輸入促進ノ爲之ヲ全然爲替割當ヨリ除外スル等ノ便法ヲ講ゼラレ度キ旨在天津堀内總領事ヨリ電報アリタル次第ハ曩ニ外務省ヨリ公信ヲ以テ大藏省、商工省ニ申上ゲ置タル通ナリ北支經濟工作ノ重要性ニ鑑ミ出來得ル限り出先ノ希望ヲ達成セシメタク本日ハ此問題及北支邦人紡績進出ノ問題ニ付意見ヲ交換シ充分ニ協議致度シト考ヘ各位ノ御參集ヲ願ヘル次第ナリ先ツ東亞局ノ朝海事務官ヨリ北支經濟工作一般、殊ニ棉花改良増産事業ニ付説明致サレタシ

(朝海)

一方支那棉ノ本邦輸入狀況ヲ見ルニ輸出總量ノ八割ハ日本ニ向ケラレ大藏省日本外國貿易年表ニ依レハ朝鮮及臺灣ヲ除キ一九三三年度並ニ三三三年度ニ於テ夫々三十二萬擔、四十二萬擔ナリ

然ラハ北支棉ノ改良増産ニ對シ現在日本ハ如何ナル施策ヲナシ居レリヤノ問題アル處種子ノ配給、栽培ノ指導、產棉ノ處理、技術員ノ派遣ト養成等ノ生産部面ニ於テハ文化事業部關係ノ産業科學研究所、北支棉花協會及ビ在北支帝國官憲ニ於テ計畫セル華北協會華北棉花倉庫公司等カ既ニ事業ヲ行ヒ又ハ行ハントシツツアリ、然ルニ消費獎勵ノ方面ニ於テ如何ナル實効アル方策ガ講ゼラレ居ルヲ見ルニ此ノ方面ハ從來比較的等閑視セラレタル傾アルモ極メテ重要ナル問題ナリ例ヘハ山東省ニ於ケル棉花改良増産ハ氣候ノ好適、省政府ノ保護等ハアリタルモ青島紡績工場カ盛ニ之ヲ使用シタルニヨル處大ナリ北支棉ノ増産工作ハ結局内地紡績カ肩ヲ入レテ之ヲ使用スルノ氣構ヲ示スニ非レハ徹底ヲ欠クモノト謂ハザルベカラズタダ激烈ナル競争場裡ニ立ツ日本紡績ニ對シ採算ヲ無視シテ北支棉ヲ購入セヨト謂フハ不可ナルベキモ北支棉ト品質略等シキ輸入棉ハ逐次北支棉

北支經濟工作ノ目標ハ一言ニシテ述フルニ日支經濟提携ヲ確立シテ我方原料資源ノ確保ニ資スルト同時ニ北支民衆ノ厚生ヲ圖ルニ在リ支那殊ニ北支ハ我國ガ經濟的工作ヲ實施スルニ最モ恰好ノ土地柄ト謂ヒ得ヘシ日滿北支ノ經濟關係カ密接化セラルレハソレ丈對北支政治工作モ亦容易トナルヘキヲ以テ北支ヲ日滿經濟圈內ニ引キ付ケ置ク様常時施策ヲ怠ラサルヲ要ス右目的ヲ以テ我方ハ天津ニ於ケル電氣事業、津石鐵道、長蘆塩、龍烟鐵礦等ヲ對象トシテ經濟工作ヲ著々進メ居ル次第ナリ棉花モ右對象トシテ誠ニ適當ナリト謂フヘク北支棉花ノ改良増産ニ成功セハ平時ニ於テ棉花ノ供給地ノ偏頗性ヲ緩和シ得ルノミナラス戰時ニ於テハ鮮滿北支ヲ一體トスル棉花資源圈ヲ豫想シ得ルコトナル昭和十一年度支那ニ於ケル棉產狀況ハ全國的ニ良好ニシテ第一回豫想ニ依レハ一千六百萬擔餘ニテ第二次豫想額ハ一千四百四十萬擔餘ニ減少セルモ尙前年度ニ比スレハ六百三十萬擔ノ大增收ヲ示シ居レリ北支五省ノ一箇年平均產額ハ大体全支產額ノ約五割ヲ占ムルモノト見テ太過ナルカヘク河北山東ノミニ就テ見ルモ全支產額ノ四割弱ヲ占メ而モ北支棉ノ占ムル割合ハ次第ニ大ナルノ傾向アリ

ニ代替スルノ方針ヲ採リ北支棉ノ改良ニ應ジテ次第ニ其ノ購入額ヲ増スニ如カス即我方ハ一方ニ於テ生産部面ニ於ケル積極的工作ヲ續行スルト同時ニ出來得ル限り多量ノ北支棉ヲ購入セシムル様内地紡績ヲ指導ノ要アル次第ニテ單ナル勸說ニテハ効果少ナカルベク何等カ指導ノ「手」ヲ考ヘザルベカラザル處例ヘバ北支棉花ヲ輸入制限外ニ置キ之ガ購入ヲ容易ナラシムルコトハ「手」トシテ十分研究ノ價值アリ右ニ依リ北支棉輸入上ノ障害ヲ除去シ得ベク而モ一定量ノ北支棉ヲ強制的ニ購入セシムルガ如キ方法ニ伴フ弊害ハ之ヲ避ケ得ベシ

(松山)

本問題ハ本年一ケ年ノ問題ト來年以後ノ問題トノ二二分ケテ考究スルヲ要ス我國一ケ年ノ棉花需要量ハ大体千四百二十萬擔ニシテ其價額ハ九億二千萬圓見當ナル處本年一月八日ノ大藏省令第一號ニ依リ輸入貨物代金決済ノ爲ノ爲替取引及信用狀取得ニハ大藏大臣ノ許可ヲ要スルコトナリタル爲棉花ニ付テハ爲替許可ノ合理的標準ヲ求ムル必要上商工省トモ協議ノ上關係當業者ノ意嚮ヲ參酌シ本年度ニ於ケル棉花輸入ニ要ス

ル爲替許可基準ヲ商社別ニ決定シタルガ既ニ今日迄ノ所七億圓見當ハ爲替許可濟ニシテ殘餘ノ二億二、三千萬圓ガ未決定ナリ北支經濟工作ノ一事業トシテ棉花改良増產計畫ノ國策上ノ重要性ハ充分之ヲ認ムルニ付御希望ニ副ヒ出來得ル限り北支棉ノ輸入ヲ促進スル方ニ導キ度キ意嚮ナルモ棉花輸入ノ爲替許可狀況ハ前述ノ通りニシテ本年ハ買取期モ既ニ過ギタルヲ以テ實際上ノ買増ハ不可能ナルベシト考ヘラル但シ大藏省ハ瀛華洋行ノ如ク主トシテ北支棉ノ輸入ニ携リ居ル商社ニ限り實際ノ取扱ニ當リ買付濟ノモノハ割當超過ノ分ニ對シテモ爲替許可ヲ與フル方針ニシテ既ニ五割増トナリ居レリ

次ニ本年以後ノ問題ニ關シテハ商工省ニ於テ七、八月頃ヨリ來年度棉花買付ノ爲替許可基準ノ決定ニ着手スルコトトナルベキニ付輸入商社別決定ノ原則ヲ變更シ產地別ニ北支棉幾何、其他ノモノ幾何ト云フ如ク割當ヲ決定スルカ或ハ又北支棉ノミヲ產地別割當トシテ取除キ爾餘ノ分ヲ商社別ニ割當ツルカ何レカノ方法ニ依ルコトスレバ外務省ノ希望ニ副ヒ得ベシト信ズ

(石田)

棉花輸入ノ爲替許可基準ヲ商社別ニ決定スルコトハ一見各商社ノ買付先自由ニシテ且公平ナルカ如クナルモ實ハ必ズシモ然ラズ即チ東棉、内外棉ノ如キ各地ニ支店ヲ有スル大會社ハ從來ノ取引關係等ヨリ米棉、印棉ノ買付ヲ有利トシ支那棉ヲ顧ミザルノ傾向アリ最近二年ノ輸入實績ニ照シテ將來ノ許可基準ヲ定ムル關係上勢ヒ斯ル大商社ノ過去ノ取引關係ハ其儘將來ニ反映シ勝チニシテ主トシテ北支棉買付ニ從事シ來レル小規模商社ノ買増意嚮ノ實現ヲ妨グルノ結果トナルベシ右ハ衡平ヲ缺キ且適切ニ非ラズ

(妹川)

北支棉ノ買増ノ必要ハ諒解セリ又其方策ノ趣旨ニハ異存ナシ唯本問題ハ國策問題ナリ故ニ先ツ政府ニ於テ買増ノ方針ヲ決定スルヲ要スル性質ノモノナリト思考ス來年度ノコトヲ此所デ爲替問題トシテ決定スルコトハ無理ナルニ非ラズヤ

(本郷)

本件ノ趣旨ニハ異存ナシ仍テ出來得ル限り北支棉買増ノ方ニ關係當業者ヲ導キ度キ考ナリ但シ事實問題トシテハ當業者ニ北支棉ノ買取ヲ強制スルコトハ不可能ナルベシ

棉花輸入ノ爲替許可基準ガ商社別ナル關係上何レヨリ棉花ヲ輸入スルモ商社ノ自由ナル建前ニ付各商社ノ割當ヲ特ニ北支棉ノ輸入ニ宛ツル様商工省ニ於テ強制スル譯ニハ行カザル次第ナリ北支棉ノ購買者ハ主トシテ小規模業者ニシテ事實問題トシテ支那棉ヲ使用スル者ハ業界ニ多カラズ又一ツニハ買付地ニ於ケル本邦棉花會社ノ機關取引關係ノ有無ノ問題モアルベシ

(小林)

割當基準ガ產地別ニ依ラズ商社別ナルニ依リ各商社ガ何レノ地ヨリ棉花ヲ輸入スルモ自由ナリトセララルモ各商社別割當ハ過去ノ實績ヲ睨ミテノ決定ナルヲ以テ事實上ハ或程度迄產地別ノ決定ナリトモ云ヒ得ベシ此點充分考慮セラルルノ要アリ本年度ハ大藏省ニテ實際ノ取扱ニ當リ手心ヲ加ヘラレ北支棉取扱商社ノ分ヲ實績ヨリモ多ク許可セラルルハ機宜ノ措置ナリ之ニ依リ相當北支棉買増モ實現スベシト思ハルルニ付此點ハ諒承セリ第二ノ問題タル來年度ノ分ハ唯今松山課長ノ述ベラレシ如キ便法ヲ特ニ商工省ニ於テモ考慮アリタシ

(朝海)

(美濃部)

北支棉ノ品種、品質ガ本邦紡績業者ノ消費條件ニ合致セザレバ問題ニナラザルベシ

(松山)

北支物ハ十番手以下ノ太番手物ナルニ付本邦當業者ニ對シ餘リニ北支物ノ輸入ヲ奨励スルモ本邦ニテ消費シ切レザルニ至ルノ惧ナキヤ

(法華津)

北支棉ハ最近品種及品質ノ改良ノ途ニアリ必ズシモ從來ノ如キ太番手ノモノトハ限ラズ此點餘リ心配ノ要ナカルベシ爲替許可ニ依ル棉花輸入ノ統制ハ爲替管理法ノ運用ニ依ルモノナルヲ以テ取引ニ爲替決済ヲ伴フ場合ニ限ラルモノナルベキ處爲替管理法ニ實際上引懸ラザル方法即チ直接爲替決済ノ要ナキ方法ニ依ル棉花ノ輸入ニ付テハ全然問題ヲ生ゼザル儀ナリヤ例ヘバ支那ニ於ケル企業投資ヨリ生スル利潤或ハ運賃收入等ヲ日本ニ持歸ヘラズ之ヲ以テ支那棉ヲ購買シテ無爲替ニテ日本ニ輸入スル場合等ノ如キハ輸入統制ノ見地ヨリ見テ如何

(野田)

爲替ヲ伴ハザル輸入ハ理論的ニハ種種ノ場合ヲ考ヘ得ヘク爲替管理法上斯ル輸入ヲ統制シ得ザル理ナルモ實際上ハ直接ノ爲替取引無シト云フダケニテ間接ニハ何レノ形ニテカ爲替決済ノ附随スルコト多シ外國ニ於ケル企業投資ノ利潤ノ振當ノ如キモ右企業繼續ノ爲ノ種種ノ副次的資金送出ヲ見ルヲ常例トシ爲替及輸入ノ統制ヲ行ハントセバ間接的ラニ右副次的ノ資金送出ヲ制限スルコトニ依リテ達成セラレ得ル理ナリ

#### (松山)

北支棉輸入増加ヲ圖ルコトハ趣旨ニ於テ何人モ異存ナキ所ナルニ付七、八月頃來年度ノ爲替許可割當決定ノ際ニ營業者ヲ餘リ強制セザル範圍内ニ於テ其輸入促進ヲ考慮スルコトトスベシ

支那ニハ棉花輸出税アリシト記憶スル處現在ハ如何ナリ居レルヤ

#### (法華津)

棉花輸出税ハ百疋ニ付三元ナリ

#### (松山、本郷)

本邦ニ於テ北支棉輸入促進ヲ考慮スル以上支那側ヲシテ北

支棉ノミニ付テナリトモ右輸出税減免ノ措置ヲ講ゼシメ得バ好都合ナリト考フルニ付外務省ニ於テ此點御考慮アリタシ

#### (大野)

北支棉ノ輸入促進方ニ關シテハ大体意見ノ一致ヲ見タルニ付此問題ハ一應之ニテ打切ルコトトシ此機會ニ於テ北支ニ於ケル邦人紡績進出統制限度ノ問題ニ付協議願ヒタシ此ノ問題ニ付テ在天津堀内總領事ヨリ數次稟申越ノ次第ハ御承知ノ通ナリ

大藏省ガ邦人紡績會社ノ北支進出計畫ニ基ク爲替許可方申請ヲ其儘許可セス今般岸和田、大日本、倉敷各五萬鍾一千臺、福島三萬鍾七百臺ニ縮減シテ許可ヲ與ヘタルニ對シ同總領事ヨリ第一ニ本件ハ之等紡績ノ工場ヲ今次許可ノ鍾以上ニ擴張セシムベカラスト爲ス趣旨ナリヤ政府ノ根本方針如何ヲ問合セ來リ第二ニ本邦紡績ノミニ統制ヲ加フルモ支那及外國企業ヲモ含ム統制機構存セサル限り却テ本邦以外ノ資本進出ヲ促スコトナリ我ニ不利ナリトノ意見ヲ上申越セリ之等諸點ニ付大藏省側ノ意見ハ既ニ先般來ノ折衝ニテ承知致シタルモ本件ハ本邦内地ノ紡績業トノ關聯性ガ考

慮セラレタルモノナルベキニ鑑ミ商工省側ノ意見ヲ吐露願ヒタシ

最後ニ以上ノ諸問題考察ノ基本トナルベキ現在ノ我國爲替狀況及將來ノ見透シニ付此機會ニ於テ松山課長ヨリ差支ナキ限り御説明ヲ得バ執務上裨益スル所尠ナカラサルヘシト思考ス

#### (本郷)

本件申請ニ關シテハ曩ニ軍側ヨリ今次申請ノ程度ニテ許可セラレタシトノ申出ニ接シタルニ依ルカ商工省トシテハ右申出ヲ基礎トシ日滿支經濟ヲ全体トシテ見テ對策ヲ講スルノ方針ヲ執リ對滿關係、内地紡績業界ノ諸事情、殊ニ海外市場關係等ニ及ボス影響ヲ充分考慮シ大藏省トモ相談ノ上此程度ナラバ差支ナカルベシトノ結論ニ到達シタル次第ナリ勿論今次許可ノ限度ハ一應此ノ邊ニ止メ置キ全体的利益トノ調整ヲ圖ル爲當分事態ノ推移ヲ見必要ニ應ジテ將來更ニ考慮セントスルノ趣旨ナリ

#### (大野)

今邦人紡績ノ北支投資ニ統制ヲ加フルニ於テハ却テ外國側資本ノ進出ヲ誘致スルノ惧アリトノ點ニ付テハ大藏省ニ於

テハ今般許可ノ程度ニ制限シ置クモ英米等ノ資本ノ進出ノ惧ナカルベシトノ意見ノ様ナリシガ此點ハ實際如何ナリヤ

#### (朝海)

外國資本ノ北支紡績投資ハ決シテ我方トシテ樂觀ヲ許ササル模様ナリ即チ最近濟南ニ於ケル英國系三工場ハ増産ノ形勢ニ在リ又天津老西開ノ隣接地ハ英佛方面ヨリ着々買收ノ手が進メラレ居ルニ鑑ミ本邦側ニ於テ逸早く買收シ置クノ要緊切ナルモノアル實情ナリ

#### (松山)

本件申請許可ニ付テノ大藏省ノ立場ヲ述ヘ置キタシ北支ニ於ケル邦人紡績投資ハ曩ニ鐘紡、吳羽紡等ヨリ申請アリ當時ハ大体全部許可シタルモノナリ最近ニ至リ時ヲ同ウシテ大日本、岸和田、倉敷、福島ノ四社ヨリ許可ノ願出ニ接シタルカ今般ハ之ヲ相當縮減ノ上許可シタリ右ハ本邦紡績ノ北支新投資ハ此際一應此程度(既存ノ分トモ合計七十萬鍾トナル)ヲ以テ打止ムルヲ適當ト認メタルモノニシテ今次許可以外ノ天津ニ於ケル邦人紡績新投資ハ當分ノ間許可セザルコトトシタリ

右許可方針ノ決定ハ第一ニハ勿論外國爲替管理法運用上ノ

必要ニ基キテ爲サレタルモノニシテ北支ニ於ケル投資ハ紡績ノ外ニ鐵道等國策の重要性ヲ有スルモノ多クアリ益々外貨資金ノ節約ヲ必要トスル我爲替狀況ニ鑑ミ假令經濟のニ有利ナリトハ云ヘ紡績ノミニ多額ノ資金ヲ固定セシムルコト困難ナリ又第二ニハ本邦紡績業ノ情勢ニ付左記事情ガ考慮セラレタリ

(イ)擴張方願出ヲ其儘許可スルニ於テハ實需要超過ノ結果ヲ來タシ本邦製品ノ輸出ノ障礙トナルヘキコト

(ロ)北支ニ於ケル貨銀安等ノ好條件ニ依リ本邦ニ於ケル紡績會社製品ノ對世界市場輸出ノ障礙トナルヘキコト

(ハ)低廉ナル北支製綿絲等カ逆ニ本邦ニ輸入セラルルノ結果トナルノ惧アルコト(現ニ内外棉ノ如キハ始メ現地製造、供給ヲ目的トセルモ現今ニテハ逆ニ本邦ニ輸出シ居レリ)

(ニ)本邦ニ於ケル紡績<sup>(第2)</sup>短ノ事實上ノ拔穴トナル惧アルコト即チ本邦紡績業ノ全体的利益ニ合致セサルモノト認メラレタルニ付外國爲替管理部ニ於テハ各方面ノ利害關係ヲ篤ト考慮ノ結果現在迄ノ情勢ニテハ大体此ノ見當ニ止メ置クコトトセル次第ナリ但シ右方針ハ別段天津ノ紡績ニ直接統制ヲ加ヘ之以上絕對擴張ヲ許サストノ趣旨ニ非ラス尙北支ニ

ヘキニ付純粹ノ資金投下ハ殘余ノ一千萬圓ノ計算ナリ之ヨリ日本ノ爲替狀況及將來ノ見透ニ付御話致スヘシ最近ニ於テハ圓爲替ノ變動ハ昭和六年ノ犬養內閣ノ金輸出禁止ニ端ヲ發シ昭和九年政府ノ金買上ケ及金現送(一匁五圓ノ計算ニテ六千萬圓)ニモ拘ラス圓爲替ハ下落ノ一途ヲ辿リ米國ノ弗平價切下關係ニテ多少持直シ極ク最近ニ至レルモノナリ其後昨年九月ノ「フラン」切下アリタルモノ之ガ直接ノ影響殆ド無ク唯「フラン」ノ價值低落ニ基ク「クロッス」ノ軟弱ノ間接影響ニテ對米空氣味ナリシモ大体ニ於テ圓ハ引續キ對英一志二片ヲ堅持シテ今日ニ及ベリ此ノ間政府ハ適時爲替安定政策ヲ講ジ來レルガ井上藏相時代ニ於ケル所謂弗買ニ依リ國外ニ逃避シタル九億圓ハ其後正金銀行ヲ通ジテ還流シタル分四億圓ニ達シ其他モ大部分還流シ未ダ海外ニ殘留シ居ル金額二億圓見當ニ過ギズル情勢ハ最近二年間ニ於ケル我貿易好調ト相俟ツテ我爲替安定ニ資シタルガ昨年六月頃ヨリ正金銀行ノ手持金ハ急激ニ減少シ初メ十一月ニ入りテ爲替管理強化ノ已ムナキニ立到リタリ三十億ヲ超ユル尨大ナル豫算ガ國內生産力トノ調和ヲ缺キ輸入ニ俟タサルヲ得サルヘシトノ見地ヨリ見越輸入急増ヲ見タル

於ケル支那側及英米等外國側ノ進出誘致ノ問題ニ對シテハ當分ノ間今般許可ノ程度ニ制限シ置クモ左程大ナル憂ナカルヘキヤニ觀察シ居レリ軍側ニ於テモ此際ドシドシ本邦紡績ノ北支進出ヲ許可スヘシト爲ス積極論ト慎重ノ態度ヲ執ルヘシト爲ス消極論トカ對立シ居ルモノノ如キ處大藏省ハ後者ニ與シ居ル次第ナリ

(井口)

最近北支ヲ視察シタル際現地各方面ノ意見ヲ徴シタルガ紡績問題ニ付テハ何レモ積極論ヲ唱ヘ居レリ其趣旨ハ日滿支ノ經濟「ブロック」形成ノ見地ヨリ見テ將來内地ノ紡績業ハ人絹工業等ニ轉換セシメ紡績ハ漸次支那殊ニ北支ニ移轉セシムルコトガ諸般ノ經濟的條件ヨリ見テ最得策ナリ其ノ爲ニハ今ヨリ北支ニ紡績ノ足場ヲ造リ置キ將來ノ發展ニ備フルコト肝要ナリ内地ノ業者ガ小天地ニ踞踏シテ眼前ノ小利ヲノミ追フノ態度ハ此際改メサル可ラスト云フニ在リ此邊モ餘程考ヘ置カサル可ラス

(松山)

今次許可セル天津四紡績會社ノ投資額ハ合計二千萬圓ト推定セラレ居リ其内一千萬圓ハ日本ヨリ機械ニテ輸出セラル

コトガ其主因ナリ日獨防共協定成立モ圓爲替ニトリテハ惡材料ノ一タリシモノノ如シ而シテ見越輸入ハ十二月ニ入りテ益々増大シ其結果昨年末ニ於テハ爲替ノ賣豫約ハ七億乃至八億圓ニ達シタリ右ハ前年同期ノ約十倍ニ當ル情勢斯クノ如クナリシヲ以テ本年一月八日遂ニ爲替許可制ガ施行セラルニ至レリ此ノ結果見越輸入ハ一應抑止スルコトヲ得タリ本年一月乃至三月ノ期間ニ於テハ入超期ニモ拘ラズ正金銀行現金ハ左程大ナル減少ヲ見ズ政府ハ金現送ニ依リテ必要ナル手當ヲ爲シ居ル處此程度ニテ大体本年末迄圓爲替ヲ保持シ得ベキ見込付ケリ最近鐵ノ輸入豫想以上ニ増加シタル爲本年ノ國際收支ハ對滿出超ヲ別トシテ考フレバ入超額更ニ増加スベシト豫想セラル日滿一体トシテ考フルトキハ新產金限度ノ「マイナス」ニテ喰止メ得ベシト推算シ居レルモ下半年ニ於テ餘程輸出増加セザレバ新產金ノ程度ニテ踏止マルコト困難ナルベシ日本銀行ノ金保有高ハ五億圓(現在相場ニテ再評價スレバ十五億圓)ナルニ付通貨ハ微動ダモセザルベク一志二片維持ノ方針ナルガ今後ハ贅澤品、不必要品ト認メラルル貨物ハ多少輸入ヲ抑制スルコトトナル位ノ氣組ニテ對外通商折衝ニ當ララル要アルベク

此狀態ハ今後四、五年ハ續クモノト見ザル可ラズ

(以上)

287 昭和12年6月26日 在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

為替認可処理の遅延が依然改善を見ないとこ  
ろ大蔵省令改正に当たっては右障壁除去を考  
慮方意見具申

上海 6月26日後発  
本省 6月26日夜着

第四三二號

一、爲替管理法強化ノ當方面邦人輸出業者ニ對スル打撃ニ關  
シテハ曩ニ往電第二三號等ヲ以テ申進ノ次第アリ右ニ對  
シ貴電第一二號ヲ以テ御回示ノ次第アリタル處其ノ後當  
業者ヨリ依然許可遅延ニ依ル取引上ノ障壁ニ付屢苦情ヲ  
耳ニセルカ今回當地日本人穀肥同業組合ヨリ更ニ許可書  
下付ニ相變ラス相當ノ時日ヲ要スル(二個月以上ニ及フ  
コトアリ)ノミナラス拒否ノ豫測困難ナル爲實際取引ハ  
著シク減退シ特ニ中小業者ニ於テハ窮情大ナルモノアル

運動準備中について

青島 7月2日後発  
本省 7月2日夜着

第二二八號

爲替管理緩和ニ關シテハ當方、上海、天津等ヨリ屢事情具  
申ノ通りナル處八月一日ヨリ更ニ強化セラルルコトニ對シ  
當地貿易業者ハ多大ノ不安ヲ感シ商工會議所ヲ中心ニ對策  
ヲ考究シ目下天津商工會議所ト提携シ大蔵省ニ請願運動ノ  
準備中ニシテ不取敢當地商工會議所ヨリ當館ニ對シ援助方  
申出テタル次第ナルカ當港對日本貿易最近五年間ノ平均額  
ハ輸入五百萬圓、輸出千六百萬圓ニシテ日本ニ取リテハ最  
「フェボラブル」ノ狀態ナルニ付當地ニ對シテハ政府ニ於  
カレ進ンテ除外例ヲ設ケラルルコト得策ト存セラルルモ他  
方面トノ鈞合上除外例困難ナラハ何等カノ形ニテ充分緩和  
方御配慮仰度シ若シ爲替管理嚴重實施トナラハ當港ヨリノ  
輸出ハ阻害セラレ右ハ直ニ輸入ニ影響シ日本ニ取リ最有利  
ナル當港ノ貿易ヲ棒ニ振ルノミナラス長年ニ亘リ築上ケタ  
ル當地邦商ノ優越ナル地位ハ覆サルヘク殊ニ日本ニノミ輸  
出セラルル穀ノ如キモノモアリ其ノ他落花生、粕、落棉ノ

趣ニテ本件適用上充分ノ考慮ヲ得度ク右盡力方陳情アリ  
タリ本組合取扱品タル菜種、胡麻等ノ製油原料、油粕、  
穀等ノ肥料及飼料等ノ土產品ハ他ノ所謂普及品目トハ異  
ナリ可及的寛大且圓滑ニ措置セラレ居ルコトトハ存スル  
モ前記當業者ノ苦痛ハ事實相當大ナルモノアリト認メラ  
ルルニ付テハ當方ニ於テモ是等輸出品ニ付何等カ辦法ナ  
キヤ考慮中ナルモ不取敢右ノ次第大蔵省へ御交渉相煩度  
ク尙爲替取組許可ノ實情御回報ヲ請フ  
三、本件省令ハ七月末期限滿了後更ニ強化ノ上無期限實施ノ  
趣ナル處右ニ關シ當業者ニ於テハ甚タシク不安ノ念ヲ抱  
キ居レルヲ以テ省令改正實施ニ付テハ是等障壁除去方充  
分考慮相成度ク猶右内容等御回示相煩度シ  
財務官ト打合濟  
支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

288 昭和12年7月2日 在青島大蔵総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

為替管理が大蔵省令改正により一層強化され  
ることを當業者が懸念し大蔵省に対する請願

如キ特產物モ輸出ノ不振ニ依リ支那側製造業者ニハ日本ニ  
對スル反感ヲ抱カシメ經濟上ヨリモ排日ニ油ヲ注クノ危險  
アリ當地關係業者中ニハ日滿經濟關係ヨリ滿洲國產品ヲ第  
一位ニ置キ當方面ノ物資輸入ヲ犠牲ニ供セラルルニアラス  
ヤトノ懸念ヲ抱キ居ル向モ之アル處斯クテハ當方面ニ於ケ  
ル邦商ハ根コギノ悲運ニ會スル者多數之アルヘク北支經濟  
的發展ノ基礎ニ影響シ實ニ寒心ニ堪ヘサルモノアルニ付管  
理法適用ノ除外例ヲ設クルカ又ハ其ノ緩和方此ノ上トモ何  
分ノ御配慮相煩度シ商工會議所陳情書空送ス  
天津、濟南、上海へ轉電セリ  
上海ヨリ支へ、天津ヨリ北平へ轉報アリタシ

289 昭和12年7月6日 広田外務大臣より  
在青島大蔵総領事宛(電報)

為替管理の対中關係適用除外は不可能だが在  
中国邦商の商權擁護の観点から十分手心を加  
える旨大蔵省と協議合意について

第九五號 本省 7月6日前11時発

貴電第二二八號及第二二九號ニ關シ

一、貴方及上海、天津ヨリノ稟申ニ基キ爲替管理ノ對支關係適用除外方ニ關シ大藏省ト折衝ノ結果日支貿易ノミニ特例ヲ明定スルコトハ不可能ナルモ今後共昨年度日支取引ノ實績迄ハ支障無ク爲替ヲ許可スベク更ニ現地ノ事情ヲ考慮シ日支經濟關係ノ改善及在支邦人ノ商權擁護ノ見地ヨリ爲替許可ノ實際ニ當リ充分手心ヲ加フルコトナレリ

二、右事情ニ鑑ミ青島商工會議所ノ陳情團ノ上京ハ此際必ズシモ其ノ要ナキヤニ認メラル  
冒頭貴電ノ通り轉電及轉報アリタシ

290

昭和12年7月6日  
広田外務大臣より  
在中国川越大使、在滿州国植田大使他  
宛(電報)

外国爲替管理法に基づく大藏省令の有効期間  
延長および改正につき通報

本省 7月6日後8時30分發

合第四六七號

ニ利用セラルル虞アリ又後者ハ其ノ範圍明確ナラサル結果濫用ノ虞アルカ爲メニ過ギス

(ロ)特許權其他ノ工業所有權ノ取得使用ニ伴フ送金ハ許可ヲ要ス但シ特ニ不必要ト認メラルモノヲ除キ許可スル方針ナリ

(イ)外國旅行者ノ旅費攜帶並在外者ニ對スル旅費及諸給與送金ノ爲ノ爲替及信用狀自由取引ノ範圍ヲ五千圓ニ引下グ(官廳ノ業務トシテ又ハ官廳ノ必要ニ基キテ爲ストキハ此ノ限りニ非ザルコト從前通りナリ)但シ必要ナル海外旅行ヲ制限スルノ趣旨ニ非ラズ

(ニ)國內ニ有スル資産ヲ代金ニ充當スル無爲替輸出ハ許可ヲ要ス

(ホ)貨物ノ輸出者ヨリ爲替取組ノ有無等ニ關スル報告ヲ徵ス(二十五日ヨリ施行)

(ヘ)爲替銀行ニ對シ顧客ノ爲替及信用狀取引ノ適法性ニ關スル確認義務ヲ課ス

編 注 本電報の宛先は「至急情報宛先」となっている。

(至急情報)

本邦爲替管理法ニ基ク本年一月八日ノ大藏省令第一號ハ本月末日ヲ以テ有効期間満了ノ筈ナル處政府ハ貿易及爲替ノ現狀ニ鑑ミ當分ノ間引續キ之ヲ施行スルコトシ併セテ關係大藏省令ニ左記要項ニ依ル改正ヲ施スコトシタリ委細郵報

一、本年大藏省令第一號關係(明七日ヨリ施行)輸入貨物ニ付爲替及信用狀ニ關スル自由取引限度ヲ月額三萬圓相當額ヨリ千圓ニ引下グ(但シ本令施行ノ際輸入濟若ハ外國ヨリ積出濟ノ貨物又ハ本令施行後一週間内ニ積出シタル貨物ノ爲替決濟ニ必要ナル爲替取引ハ月額三萬圓以下ナル限り許可ヲ要セズ)

二、昭和八年大藏省令第七號及第八號關係(イ)ロ及(ヘ)ハ明七日ヨリ(イ)及(ニ)ハ十五日ヨリ施行)

(イ)株式配當金其他ノ收益ノ送金(公債、社債、銀行預金ノ利子、信託利益ノ送金ハ從來通り自由)及内外ノ法令ニ基ク義務履行トシテノ送金ハ許可ヲ要ス但シ何レノ場合モ正常ナルモノハ之ヲ制限スルノ趣旨ニ非ラズ  
尙右兩者ヲ許可事項トシタルハ前者ハ資本逃避ノ方法

291

昭和12年7月13日  
広田外務大臣より  
在中国川越大使、在上海岡本總領事、  
在天津堀内總領事他宛

外国爲替管理法に基づく大藏省令改正に関する  
同省補足説明につき通報

通總機密合第一一二號

昭和拾貳年七月拾參日

外務大臣 廣田 弘毅

在中國特命全權大使 川越 茂殿

在上海總領事 岡本 季正殿

在天津總領事 堀内 干城殿

在青島總領事 大鷹 正次郎殿

在濟南總領事 有野 學殿

在漢口總領事代理 松平 忠久殿

在福州總領事 内田 五郎殿

在廣東總領事 中村 豐一殿

在廈門總領事代理 高橋 茂殿

本邦爲替管理ノ強化ニ關スル件

本件ニ關シテハ往電第四六七號及本月十日附通總普通合第

一〇九六號往信ヲ以テ通報致置キタル所ニ依リ御承知ノ通ナルガ本省ニ於テハ日支貿易ニ對スル爲替管理適用除外乃至適用緩和方在支邦商ノ希望達成ニ付豫テ大藏省ト折衝ヲ重ネ來リタル處今般大藏省ヨリ今次同省々令改正ニ關聯シ左記趣旨ヲ申越セルニ付右御了知相成度尤モ從來爲替許可ノ實際ニ當リ申請ヨリ許可決定ニ至ル迄相當長時日ヲ要セシ爲當業者ニ於テ商機ヲ逸シ從テ取引ヲ阻礙シタルコト少ナカラザリシ趣ナルガ最近大藏省ニ於テハ從來ヨリ爲替事務ヲ擔當シタル爲替管理部(現在ノ名稱ハ爲替局)ノ機構ヲ擴大シ極力事務簡捷ニカメ居ルニ付此方面ニ於テ從來ニ比シ相當改善ヲ見ルベシトハ察セラルルモ當業者ノ希望通り遽カニ許可ガ極メテ速急ニ取運ブニ至ルベシトハ期待シ難キヤニ思考セラルルニ付此點御含置アリタシ

記

一、外國爲替管理強化ニ關聯シ在支邦商ヨリ陳情ノ次第累次御來照アリ在支邦商ハ本件ニ付多大ノ不安ヲ感ジ居ル模様ナルモ今回實施シタル爲替管理法令改正ハ輸入貨物代金決済ニ關スル爲替取引ノ取締ニ付テハ從前月額三萬圓以下ノ取引ガ許可不要ナリシヲ改正シテ月額千圓以下ノ

取引ノミヲ許可不要トシタル以外ハ從來ト同様ニシテ右改正ハ從前月額三萬圓以下ノ取引ガ許可不要ナリシヲ惡用シテ違法若クハ脫法的取引ヲ爲スモノアリタルヲ取締ル趣旨ニシテ正常ナル取引ヲ制限スル趣旨ニ非ザルヲ以テ今回ノ爲替管理法令改正ガ通商貿易ニ格別ノ影響ヲ與フルモノトハ信ゼラレズ此點ニ關シ在支邦商ハ事實以上ニ危懼シ居ル様認メラルルヲ以テ誤解ナキ様關係方面ニ周知方御取計相成度

二、次ニ滿洲特産品ト同種商品ニシテ北支ニ產出セラルルモノアル爲之ガ輸入爲替許可ニ關シ滿洲國産品ヲ第一位ニ置クニ於テハ北支ニ於ケル邦商ハ大打撃ヲ蒙ルベシトノ危懼アル趣再三拜承致シ居ルモ當方ニ於テハ北支ヨリノ輸入品ヲ制限スルノ意ナク正常ナル取引ハ從前ヨリ許可シ居リ今後モ此方針ニ變更ナキヲ以テ右御了知ノ上關係方面ニ周知方御取計相成度

本信送付先  
在支大使  
在上海總領事  
在天津總領事

在青島總領事  
在濟南總領事  
在漢口總領事

在福州總領事  
在廣東總領事  
在廈門總領事